

子どもが楽しく安心して利用できるインターネットの構築を目指して

「子どもと インターネット」 フォーラム

日時：2004年1月24日(土) 13:00~17:00

会場：東京国際フォーラム ホールD7 (有楽町) 参加費：無料

報告書



主催：財団法人インターネット協会 (IAJapan)
後援：社団法人日本PTA全国協議会
協力：インターネットホットライン連絡協議会

文部科学省委託事業

子どもが楽しく安心して利用できるインターネットの構築を目指して

「子どもと インターネット」 フォーラム

日時：2004年1月24日(土) 13:00~17:00
会場：東京国際フォーラム ホールD7 (有楽町) 参加費：無料

報告書



主催：財団法人インターネット協会 (IAJapan)
後援：社団法人日本PTA全国協議会
協力：インターネットホットライン連絡協議会

文部科学省委託事業



歓迎レセプションで挨拶する
文部科学省スポーツ・青少年局
青少年課長 清水明氏



歓迎レセプションでのデイヴィス氏とポーリー氏、
ならびにポーリー氏のご家族



パネルディスカッションの様子



講演者とパネリストによる事前ミー
ティング



会場の外に掲示されたポスター



左から、赤堀侃司氏、ジーン・アーマー・ポーリー氏、
スティーブン・キャリック・デイヴィス氏



左から、マリ クリスティーヌ氏、藤田猛氏、国分明男氏



客席とのやりとり

はじめに

インターネットは、大人にとっても子どもにとっても、なくてはならないものになっています。子どもが学校や家庭でインターネットを便利に活用する一方で、子どもにとって有害なコンテンツが多く存在しており、子どもに対する影響が懸念されています。いま私たちは、子どもが楽しく安心して使えるインターネットを、早急に構築する必要に迫られています。

このような背景のもと、財団法人インターネット協会は2004年1月24日、子どもが楽しく安全して利用できるインターネットの構築を考える国際フォーラムを、東京・有楽町で開催しました。このフォーラムには、学校・教育関係者、ISP、主婦等の個人を含む、約170名が出席しました。

フォーラムでは、米国で「ネットママ」として子どもとインターネットに関するさまざまな活動を行っているジーン・アーマー・ポーリー氏、および、数々の教育啓蒙プロジェクトを推進している英国の非営利法人チャイルドネット・インターナショナルCEOのステイブン・キャリック・デイヴィス氏に、それぞれの活動内容とそこから得られた教訓についてお話しいただきました。続くパネルディスカッションでは、両氏を含み、子どもとインターネットに関する課題に取り組む方々にご講演いただくとともに、会場との活発な意見交換が行われました。

子どもが安全に楽しくインターネットを使えるようになるためには、「メディア・リテラシーを身につけるとともに、バーチャルな世界でいかに振る舞うべきかの生涯リテラシーを身につけることが必要である。そのためには親子のコミュニケーションが欠かせない。インターネットに関することに限らず、親子で何でもよく話し合う努力が大切である」ということを再確認したフォーラムでもありました。私たちは今一度、「インターネットは単なる技術のおもちゃではなく、社会の目的に資するために作られたのだ」という、ウェブの生みの親であるティム・バーナーズ・リー氏の言葉に立ち返る必要があるでしょう。

本報告書は、当日の基調講演およびパネルディスカッションの討議記録を取りまとめたものです。子どもとインターネットの実情を知り、問題解決を考える際のご参考となれば幸いです。

最後に、本フォーラム開催にあたり、ご後援・ご指導をいただきました社団法人日本PTA全国協議会、および、文部科学省の皆様に厚くお礼を申し上げます。

財団法人インターネット協会

目 次

プログラム	7
講演者・パネリスト紹介.....	8
主催者あいさつ	10
米国事例発表： ネットママ、ネットパパになるには 子どもたちへのメディア・リテラシー教育	11
英国事例発表： 変化する子どもたちのインターネット利用 その有用性と危険性を考える.....	37
パネルディスカッション： 子どもが楽しく安全に使えるインターネット環境構築について考える.....	60
参加者アンケート集計結果	94

「子どもとインターネット」フォーラム

～子どもが楽しく安心して利用できるインターネットの構築を目指して～

日時：2004年1月24日(土) 13:00～17:00

会場：東京国際フォーラム ホールD7(有楽町)

プログラム

- | | |
|-------------|--|
| 13:00～13:10 | 主催者あいさつ
財団法人インターネット協会 |
| 13:10～13:55 | 米国事例発表：
ネットママ、ネットパパになるには
子どもたちへのメディア・リテラシー教育
ジーン・アーマー・ポーリー氏 ネットママ |
| 14:00～14:45 | 英国事例発表：
変化する子どもたちのインターネット利用
その有用性と危険性を考える
スティーブン・キャリック・デイヴィス氏
チャイルドネット・インターナショナルCEO |
| 14:45～15:00 | 休憩 |
| 15:00～17:00 | パネルディスカッション：
子どもが楽しく安全に使える
インターネット環境構築について考える |
| コーディネータ | 赤堀 侃司氏
東京工業大学大学院社会理工学研究科教授 |
| パネリスト | ジーン・アーマー・ポーリー氏 ネットママ
スティーブン・キャリック・デイヴィス氏
チャイルドネット・インターナショナルCEO
マリ クリスティーヌ氏
アジアの女性と子どもネットワーク代表
国連ハビタット親善大使
藤田 猛氏
社団法人日本PTA全国協議会監事
国分 明男氏
財団法人インターネット協会副理事長 |

講演者・パネリスト紹介



ジーン・アーマー・ポーリー氏 ネットママ

子どもとインターネットに関するさまざまな情報を提供するウェブサイト「ネットママ (Net-Mom[®], www.netmom.com/)」を運営。コンサルタント、ライター、講演者として活動するかたわら、CommonSenseMedia.orgのウェブサイトのレビュワーを務める。また、ニューヨーク州リバプール市公立図書館のシステム・技術担当者でもある。1991年以來、ジーンは執筆者、司書、母として子どもとインターネットに関するさまざまな活動に取り組み、「インターネット・サーフィン」という言葉を普及させたことでも知られている。



スティーブン・キャリック・デイヴィス氏 チャイルドネット・インターナショナル CEO

1998年よりチャイルドネット・インターナショナル (Childnet International, www.childnet-int.org/) のCEO代理、2003年10月CEOに就任、現在に至る。チャイルドネットは、子どもとインターネットに関する数々の教育啓蒙プロジェクトを推進、賞を獲得したプロジェクトもある。チャイルドネットはこのほか、他の子どもたちの助けになる、インターネットを活用した革新的で優れたプロジェクト運営に取り組む子どもたちを表彰し奨学金を与えるプログラム運営も行っている。ロンドン大学卒、教育とコミュニケーション専攻。



あかほり かんじ

赤堀侃司氏 東京工業大学大学院社会理工学研究科教授

東京工業大学教授、工学博士、東京学芸大学講師、助教授、東京工業大学助教授を経て、平成3年3月から現職、東京工業大学・教育学開発センターおよび大学院社会理工学研究科人間行動システム専攻教育学講座に在籍、国連大学高等研究所客員教授・放送大学客員教授などを兼任、文部科学省「青少年を取り巻く有害環境対策に関する調査研究」などの座長も務める。



マリ クリスティーヌ氏
アジアの女性と子どもネットワーク代表・
国連ハビタット親善大使

上智大学国際学部比較文化学科卒。94年東京工業大学大学院理工学研究科社会工学専攻修士課程修了、現在、都市工学を学んでいる。父親の仕事に伴い4歳まで日本で暮らし、その後ドイツ、アメリカ、イラン、タイ等諸外国で生活。それらの経験を通じて得た幅広い視点を活かし、国際会議・式典等の司会、講演活動など多方面にわたる活動をこなす。AWC（アジアの女性と子どもネットワーク、<http://www.awcnetwork.org>）代表、国際連合人間居住計画（国連ハビタット）親善大使、2005年日本国際博覧会 広報プロデューサーを兼務。



ふじ た たくし
藤田 猛氏
社団法人日本 PTA 全国協議会 監事

名古屋電気通信工学院（現、名古屋工学院専門学校）制御工学科卒。自営業。栃木県河内郡上三川町立明治小学校 PTA の幹事、副会長、会長を歴任、平成13年4月からは栃木県 PTA 連合会会長を務める。家庭教育の重要性を認識し、子育てに対するヒントとなるべく、県内各所で「子育てセミナー」を実施するなど精力的に活動している。平成14年6月に社団法人日本 PTA 全国協議会副会長に就任、平成15年6月から同監事を務める。平成15年11月には PTA 活動振興功労者として文部科学大臣表彰を受ける。



こく ぶ あき お
国分明男氏
財団法人インターネット協会 副理事長

連想記憶マシンなどのコンピュータシステムの研究開発を20年以上行う。1999年から子供に有害な情報へのアクセスを制限する手段を提供する英国の非営利法人 ICRA の理事を務め、2001年に財団法人インターネット協会副理事長に就任。最近では、2002年「レイティング/フィルタリング連絡協議会」、2003年「モバイルインターネットと子ども」に関する国際ワークショップ、「インターネットにおけるルール&マナー検定」などを担当し、インターネットの健全な発展に務めている。

主催者あいさつ

国分明男

財団法人インターネット協会副理事長

財団法人インターネット協会では、「子どもが楽しく安全にインターネットを利用するためには、大人が責任を持って、その利用環境を整える必要がある」との考えのもと、有害情報をブロックするためのフィルタリングソフトの開発、子どもを含むインターネット利用者自身を守るためのルールやネチケットの提唱、通報や相談窓口としてのホットラインの確立などの活動を行ってきました。

このような活動の流れのなか、2001年の12月には、横浜で開催されました「第2回 子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議」の一環としてワークショップを開催し、「子どもがインターネットに接続可能な携帯電話を通じて出会い系サイトを利用し、その結果被害にあわないように、両親や学校の先生のリテラシーを向上させるためにはどうしたらよいか」について議論いたしました。それを受け、2003年3月、当協会と、本日も講演していただきます英国のチャイルドネット・インターナショナルとの共催で、世界で初めての、子どもとモバイルインターネットについての国際ワークショップを開催いたしました。

本日の「子どもとインターネット」フォーラムは、平成14年に文部科学省が実施しました「子どもとインターネットに関するNPO等についての調査研究」の報告書が昨年（2003年）まとめられたことを受け、文部科学省からの委託事業として開催するイベントです。

こんにち、日本では、すべての公立学校がインターネットに接続されるような状況になっており、インターネットは大人だけでなく、子どもにとってもなくてはならないものになっております。このような状況の中、今回のフォーラムに、インターネットを利用するお子様を持つご両親、小中高校の先生方や教育関係者、インターネット事業者の皆様などにご出席いただき、子どもが楽しく安心して使えるインターネットの環境を構築するにはどうしたよいかについて皆様方と一緒に考えていきたいと思っております。

講演だけでなく、できるだけ皆様方とのインタラクティブな意見交換も交えて、楽しく安心して使えるインターネットの環境構築について一緒に考えてまいりたいと思います。

米国事例発表：

ネットママ、ネットパパになるには 子どもたちへのメディア・リテラシー教育

ジーン・アーマー・ポーリー氏
ネットママ

今日をご招待いただきまして、ありがとうございました。1年半前、私は文部科学省委託の調査チームの皆様のご訪問を受けました。その縁で、今回、日本で講演することになりました。最初のスライドは、訪問団の皆様の写真です。手前に写っているのは私の母です。

概要

次のスライドに、これからお話しする内容の要旨をまとめています。まず、ネットママとは何かについてお話しします。また、アメリカにおけるインターネットと子どもの関わりや、私が子どものためにどのようにサイトの選択をしているかについてもお話ししたいと思います。さらに、メディア・リテラシーの重要性についてもお話しします。親にとりましては、これはもっとも重要なこと、問題の核心です。

ネットママ本部

私はニューヨーク州シラキュースから参りました（スライドに地図を表示）。ここにネットママの「インターナショナル本部」があります。そんなに大きな本部ではありません。

ネットママは個人です

ネットママというのは個人で、私がネットママです。私は司書の資格をもっており、現在、ニューヨーク州の公立図書館でネットワークの運営にあたっています。これが私のデスクの写真です。1990年代の初頭から、インターネットに関わる活動もしています。お手元のプログラムにもありますように、「インターネットサーフィン」という言葉を普及させました。そしてまた、著述家でもあります。後ほど著作についてもお話しします。もちろん、母親でもあります。あとで皆さんに、私の息子をご紹介できるのではないかと考えています。

Net-mom®はブランドです

Net-mom®というのは私のブランドでもあります。ブランドのロゴは、ブルーのリボンとアップルパイを組み合わせたデザインです。ブルーのリボンは、アメリカでは一等賞を表します。

私は子どもにふさわしいWebサイトを推奨しています。つまりサイトを厳しく選択することです。この活動につきましては、後ほどご説明します。また、Webサイトや雑誌、さまざまなクライアント向けに、家族や技術についての記事を書いています。

“ Net-mom's Internet Kids & Family Yellow Page ”

私の執筆した “ Net-mom's Internet Kids & Family Yellow Page ” は、これまでに第 6 版まで出版されています。アメリカでは、職業別電話帳のことを「イエローページ (Yellow Page) 」と呼んでいます。たとえば本がどこで売っているか調べたい場合は、イエローページのディレクトリで、「本屋」を調べればよいわけです。日本にも同じようなものがあるのではないのでしょうか。私の作ったイエローページは、インターネット上の子供向け Web サイトの電話帳です。私は、皆様にもこのようなイエローページを日本の家族のために作っていただきたいと思っています。先ほどお話ししたように、私はこれまでにアメリカの子どもたち向けのイエローページを 6 版出していますが、これはさまざまなテーマを集めた百科事典でもあります。3,500 の家庭向け Web サイトを、「Art」から「Zoo」のテーマに分けて、このイエローページで紹介しています。掲載されているのは、私の厳しい基準に合格したサイトだけです。基準については、後でお話しします。イエローページでは、各サイトについて説明し、それぞれのサイトの教育的な質の高さや楽しさについて、レビューしています。このイエローページは、第 6 版までに 250,000 部以上が販売されました。

理念

私の理念についてお話しします。私は、子どもはインターネットを使うべきだという理念を持っています。インターネットが登場した当初、ひどい内容のインターネット・サイトがたくさんあるので、子どもはインターネットに接するべきではない、といわれていました。しかし私は、それはひどくもったいないことだと思いました。子どもはやはりインターネットを使うべきだというのが私の考え方です。ただ、子どもの安全性に対しては、大勢の当事者が責任を負っています。子どもたちは自分自身で安全に気を配らなければいけません。親たちも責任を持たなければいけません。教育者、インターネット・サービス・プロバイダ、Web サイトのコンテンツ・プロバイダ、そしてもちろん公共政策の立案者にも、それぞれに責任があると考えています。また、子どもたちには、今のインターネットよりも、もっと良いインターネットを用意してあげなければいけない。ですから、どうすれば子どもにとってよりふさわしいインターネットを提供できるかは、私にとって本当に大事なテーマなのです。

アメリカでの子どもとインターネットの関わり

次に、アメリカの子どもたちのインターネット利用について見てみましょう。これは米教育省が最近公表した調査結果です。アメリカの公立学校の 99 % はインターネットにつながっています。また、そのほとんどがブロードバンドの高速接続です。5 人の子どもに 1 台のコンピュータが用意されています。以前よりは改善されましたが、まだ十分な数字とはいえません。5 歳から 17 歳の子どもたちの 59 % がインターネットを利用しています。これは、3,100 万人の子どもたちに相当します。ティーンエイジャーに限ると、75 % がインターネットを使っています。また、5 歳児の 25 % がインターネットを使っています。以前はジェンダーギャップがあり、インターネットを利用するのは男の子ばかりでしたが、今は男女関係なく、みんなが利用しています。しかし、人種によるギャップはまだあります。利用者は主に白人の中産階級

の子どもたちで、黒人やヒスパニック系の子どもの利用者はあまり多くありません。この点については、私たちは今後もギャップを埋める努力を続けていかななくてはなりません。

子どもがインターネットにアクセスする場所は？

子どもたちはどこからインターネットにアクセスしているのでしょうか。78%は自宅からアクセスしています。学校からは67%です。大勢が公立の図書館からアクセスしています。アメリカでは、ほとんどの公立図書館にインターネット接続されたコンピュータがあり、人々は図書館でそれらのコンピュータを無料で使うことができます。また、「誰かの家で使わせてもらう」という回答も15%となっています。

自宅からは高速アクセス

高速接続は家庭でも使われています。家庭からのインターネット接続は、31%がブロードバンドです。つまり、高速接続で、しかも家電のようにいつでも使える状態、つまり常時接続となっているのです。

携帯電話の使用状況は？

さて、携帯電話はどうでしょうか。アメリカにも携帯電話はありますが、残念ながらまだiモードはありません。そして、携帯電話加入者の45%が、ショート・メッセージ・サービス(SMS)を使っています。私たちはこのサービスの使い方を覚え始めたところで、私の息子もいつも使っていますが、まだ日本や英国ほどには普及していません。

インターネットが好まれる理由

では、どうしてインターネットは、これほどみんなに好まれるのでしょうか。最新の情報にリアルタイムでアクセスできるというのが、まず第1の理由です。また、大人も子どもも、情報の消費者であると同時に、情報のクリエイターにもなれます。人々が協力し合い、助け合える環境の中で、クリエイティビティを發揮することができます。

こんな危険が潜んでいます

しかし一方で、危険もあります。私は、危険についてお話しするよりも、インターネットにはよりよい面があるということを強調したいと思っていますが、やはり危険は存在します。子どもたちを食物にしようとする輩(predators)がいますし、ポルノ、不適切な資料や情報、暴力、乱れた言葉、差別発言などがあります。また、不正確で誤解を招く情報も存在します。

情報の過剰供給

非常に興味深い統計データがあります。カリフォルニア大学バークレー校で行われた調査によりますと、紙、フィルム、磁気媒体、光媒体などに記録された新しい情報の量が、この3年間で約2倍になったということです。そして、ワールド・ワイド・ウェブには170テラバイトの情報が格納されています。この量は、5,600万件の原稿写本と1,900万冊の本とを所蔵している

アメリカの国立議会図書館の印刷物コレクションの17倍です。e-mailを全部読みきれないのも頷けます。

私の使命

さて、私の使命は、子どもにとって最良のサイトを見つけ出すこと、それらのサイトについて魅力的な紹介をすること、また、サイトを子どもたちが理解できる体系に整理すること、そして体系化したディレクトリを最新の情報にしておくということです。本であれば、良い本はずっと良い本であり続けます。しかしインターネット上では、良いサイトが6ヶ月後、8ヶ月後、10ヶ月後に変わりなく良いサイトのままであるとは限りません。ですから常に監視の目を光らせていなくてはなりません。

他の人々にも、安全なサイトのディレクトリを作成して欲しい理由

そしてこれは私だけの使命ではありません。他の人々にも安全なサイトのディレクトリを作成してほしいと思っています。Webサイトはさまざまな言語で書かれていますが、私は英語しか話せません。ですから、世界中にネットママ、ネットパパが必要です。日本の子どもたちのためには、日本の子どもにとって適切な、楽しい日本語サイトを選ぶことができるネットママ、ネットパパが必要です。また、それぞれの国、文化によって、どこまでが許容できるか、受け入れられるかという程度も違います。私はアメリカの中産階級の出身ですから、私が良いと思うものでも、ほかの国や文化では許容できないということがあるでしょう。なかなか大変な作業ですが、やる気さえあればできる仕事だと思っています。誰でも、どんな組織でもできます。たった一人でさえ、できることなのです。

ディレクトリの作り方

次に、ディレクトリ作成の考え方をお伝えしたいと思います。

まず、そのディレクトリが誰を対象者とするのかを決めなければなりません。幼い子どもたちののか、ティーンエイジャーなのか。あるいは、その中間なのか。また、どのようなトピックのサイトを集めるのでしょうか。ゲームサイトだけを集めるのでしょうか、それとももっと総合的なアプローチで、「ART」から「ZOO」まで集めるのでしょうか。すべての教育項目をカバーするつもりですか。また、そのようなトピックをどのように整理したらよいでしょうか。トピックの整理方法については、図書館の司書が手助けできるかもしれません。Yahoo!、Googleなどの検索サイトでの整理方法も参考になるでしょう。

また、Webサイトのレビューを始める前に、選定基準を明確に作らなければなりません。閲覧対象者として想定されている子どもたちにとっての理想的なサイトとはどのようなものかを考え、いつも頭の中に対象者を想定して最良の選択をしましょう。広告は許容されるのでしょうか。許容するならば、その程度も決めなければなりません。ポップアップ広告やバナー広告は許容しますか。あるいは、うさんくさい言葉や暴力はどうでしょうか。たとえば漫画での暴力行為は許容して、人間に対する暴力行為は許容しないのでしょうか。境界線はどこに設定しますか。そして、直ちに排除しなければいけないものはあるのでしょうか。このような基準に

は、やはり文化的、国的な違いがあるでしょう。

さて、このような選択をするのは誰でしょうか。つまりネットママ、ネットパパになるのは誰でしょうか。文体とサイトの選定規準には一貫性がなくてはなりません。私は1人で取り組んでいますから、サイト選択を一律に行うことができますが、複数の人が関わるようになると、選択されたサイトのレベルや条件を一律にするための編集者が必要になるでしょう。レビューを書きたいという人がいたら、文章サンプルを提出してもらい、その人たちがどのようなレビューを書くか見極めることも必要でしょう。「楽しいゲームがあるイカしたサイト」というような表現だけでは、十分に内容が伝わりません。そして、作ったリストの更新を忘れないようにしましょう。リンクとコンテンツは定期的にチェックする必要があります。

Links の紹介

私はディレクトリ・リストの作成のために、Links SQL というツールを使っています。私のこのプレゼンテーションはインターネット協会のホームページにすべて掲載されますから、後で私の紹介したサイトをご覧になって参考にしてみてください。

これは Gossamer Threads 社 (<http://www.gossamer-threads.com>) の製品です。Links SQL は私が使っているものですが、Links 2.0 という無料のツールも用意されています。これは Windows と Linux で稼動します。いったんインストールすれば、技術的な知識なしで使うことができますから、私は非常に助かっています。

公開方法

私がディレクトリをどのように公開しているかをご覧いただきたいと思います。選択したサイトは、「アート&クラフト」「エマージェンシー・ホームワーク・ヘルプ」「ファミリー・ファン」などのカテゴリに分けてリストしています。Links SQL のウィンドウにも同じカテゴリが並んでいます。サイトへのリンクを追加するときは、追加するカテゴリを選び、そのカテゴリにリンクをドラッグするだけです。別のカテゴリへの移動も、同じ方法でできます。また、レビューの追加や、削除、コピー、アップデートもできます。このようなツールを使いますとリスト管理が非常に容易になりますので、使ってみてください。

サイト選択の基準を決めたら、すべてのサイトを基準に照らして審査していきます。私は、2000年、イエローページを第6版まで出すなかで、どれくらいのサイトを審査したかを数えてみたら、1,500万ページ以上になりました。相当な文字を読みましたので、私はめがねをかけざるを得なくなってしまいました。私は数えるのをやめました。というのも、怖くなるほど膨大な数の Web サイトがあったからです。

現在のネットママの方針

さて、現在の私の選択基準は次のとおりです。まず、3歳から14歳までの子どもたちを対象としています。アメリカでは、ティーンエイジャーになる少し前の子どもたちのことを表す、「トゥイーン (Tween)」という言葉があります。トゥイーンも私の対象としている子どもたちの年齢層です。

汚い言葉や、特定の国や人種、宗教に対する差別発言が掲載されたサイトは選びません。気持ち悪いサイトも選びません。

広告は認めています、最小限に抑えられていることが条件です。ギャンプルやアダルト製品の広告があれば、もちろん失格です。

プライバシー・ポリシーを定めていることは要求していませんが、今後要求しようと考えています。私はプライバシー・ポリシーを読んで、そのサイトがユーザのプライバシーを尊重しているかどうかを確認します。

また、NASA やナショナル・ジオグラフィック (National Geographic) のような評価の高い雑誌といった、現実の世界で権威のあるサイトを選択することも必要でしょう。

デザインが優れ、簡単に利用でき、各セクションへの移動方法が変わらないサイトがいいですね。また、アニメーションの使用は限られた範囲にしてほしいと思います。アニメーションが多すぎますと、実際の内容に注意を集中できなくなるからです。Web サイトを立ち上げると突然音楽が流れ出して、しかもそれを止める手段がないサイトも困ります。このような音楽があると、ただうるさいだけでなく、読み上げソフトを使っている目の不自由な方にとって、サイト利用が困難になります。

チャットルームは管理者がいなくてははいけません。大人がチャットルームでの会話を監視し、悪口や汚い言葉が使われていないか、弱いものいじめがないかなどをチェックする必要があります。

サイトが常に更新されていることも重要です。インターネットでは、一度アップロードされた情報がそのまま放置されているケースが多く見られます。時代遅れの情報は削除されるべきでしょう。私が選んでいるサイトは、常に最新の情報に更新されているサイトでなければなりません。何かを学ぶことができる、興味をそそられる、創造性のあるサイトであってほしいと思います。

また、オフラインで何かやってみたいと思えるようなサイトでなければなりません。経験しながら学ぶということは、とても重要だと考えます。そして、仮想世界ではこれがむずかしいのです。ひとつ事例を紹介しましょう。アメリカに、「ブルーズ・クルーズ (Blues Clues)」というサイトがあります。これは人気のある子ども番組のサイトで、子どもたちのためにさまざまなゲームが用意されています。そのうちのひとつでは、水がいっぱい入った桶のそばに、石、松ぼっくり、スポンジなど、さまざまなものが置かれていて、子どもたちはそれらのひとつをクリック&ドラッグして、桶の水に浮かぶかどうかを調べることができます。たとえば石をクリックして、桶の中までドラッグすると、石の沈む様子がアニメーションで表示されます。これは馬鹿げていると思います。このサイトが子どもたちに教えているのはクリック&ドラッグだけで、子どもたちは、何が浮かんで何が沈むのかを実体験で学ぶことができません。子どもたちは、実際の石やフライパンを使った経験をすべきなのです。また、仮想的な粘土で壺を作るというサイトがあります。このサイトも同様に、手で粘土をこねる、粘土に触れるとどのような感触なのか、どのように手で形を作っていくのかという実体験は得られません。子どもたちには、インターネット上で情報を読んだり遊んだりすることと同様に、実世界で学ぶことも大切なのです。ですから、オフラインで何かをするためのヒントを提供するサイトが必要にな

ります。

それからもうひとつ、サイトには「心」がなくてはいけないと思います。これを説明するのはむずかしいのですが、私はたくさんのサイトを見てきて、サイトの背後には何かがあることがわかっています。私はこれを「心」といっています。何かを伝えてくれるサイト、そして、これは正しい、これは本物だと思えるサイトだけを私の本で紹介したいと思っています。その本は私の名前で出しており、結果的に私自身がこれらのサイトに責任を持つことになるからです。

推奨しないサイト

推奨しないサイトというのもたくさんあります。ここでは5つほど例をご紹介します。ポルノサイトなどはありませんのでご安心ください。

1つ目は、「Web ログ」です。アメリカでは、Web上の日記を、Webの「b」と、日記を書くことを表す「log」を合わせて「ブログ (blog)」と呼んでいます。子どもはブログを利用して毎日日記をつけることができます。よくないのは、子どもが書くこの日記には、誰でもコメントを書き込めるようになっていることです。私は以前、ティーンエイジャーのふりをして、このようなサイトに、私の生活は最低で、親はぜんぜんわかってくれないという書き込みをしたことがあります。すると、30分後には、大人からのコンタクトを受けました。「力になりたいから、連絡をして。君の気持ちはよくわかるよ」というような書き込みがあったのです。これは非常に危険なことだと思います。これは、狙った子どもから信頼を得るために、小児性愛者がよく使う手なのです。

推奨できないサイトの2つ目は“Am I Hot or Not? (私って刺激的? そうじゃない?)”というサイトです。子どもがこのサイトに自分の写真を掲載すると、この子がどれだけ魅力的か、みんなが人気投票をします。子どもは自分が何点になったかを絶えずチェックしています。そして、こういったサイトの中には、写真の子に手紙を書くことができるものもありますし、実際に会うこともできます。「町中の人々の写真を見せて」と言えば、それが手に入り、写真の人物に手紙を書き、会うことができるのです。このサイトは、子どもを食べ物にしようと狙う人間がいるという危険だけではなく、子どもたちの自尊心にとってもよくありません。なぜなら、サイトに掲載された子どもたちみんなが魅力的というわけではなく、自分の写真に低い点数がつけられることもあるからです。

自分の先生に点数をつける“RateMyTeacher.com”という同じような種類のサイトもあります。子どもたちに嫌われている先生にとっては、このサイトは最悪の敵になります。というのも、子どもたちはこのサイトに、特定の個人に対して「なんてひどい先生なんだろう」「あのヘアスタイルは最低ね」「洋服がダサイよ」といった書き込みをするのです。採点の低い先生は仕事に影響が出ることもありますが、子どもたちは単に思ったことをそのまま書き込んでいます。このようなサイトを禁止している学校もあります。

“SchoolScum.com (学校のクズ.com)”というサイトもあります。このサイトの内容は本当にひどいもので、現在はすでに閉鎖されているかもしれませんが、閲覧することはできないかもしれません。このサイトは、最近アリゾナで起きたティーンエイジャーの自殺に関係しています。自殺した男の子は、オンラインでの嫌がらせに相当落ち込んでいたからです。また、

私の町では、学生がこのサイトに、自動小銃 AK47 を使って地元の高校で 89 人殺すという書き込みをしました。書き込みに気づいた警察は、この子どもを逮捕しましたが、銃は発見されませんでした。この子どもは、深刻な問題を抱えていました。この子の父親は母親を殺して服役中だったのです。この子どもが必要としていたのは実社会の人による援助であって、チャットルームの子どもたちの援助ではありませんでした。

もうひとつの推奨できないサイトは、「カット&ペースト・スカラシップ」というものです。子どもたちは、このサイトからカット&ペーストして自分の宿題に使うことができます。実際このサイトには、たくさんのレポートが用意されています。注釈もすべて揃ったレポートを、1 ページ 10 ドルで買うことができます。この種のレポートの注文は非常に簡単で、子どもたちは自分で勉強する必要がありません。ですから私は、このサイトも推奨しません。子どもたちは、自分たち自身でサイトの選択基準を持たなければなりません。そして、それが「メディア・リテラシー」と呼ばれているものなのです。

大人にもメディア・リテラシーは必要です

大人にもメディア・リテラシーは必要です。大人はインターネットに関して子どもほど知らないのが一般的だからです。ここで、アメリカで評価の高い雑誌『コンシューマ・レポート』が 2002 年に行った調査の結果をご紹介します。この調査では、Web サイトの情報が信頼できるかどうかを何によって判断しているかについて、大人を対象に質問していますが、46.1 % の大人が、サイトの信頼性をデザインなどの外見で判断していると答えています。その他の判断基準についての数字もありますが、とくに最後の回答にはおどろきました。情報の中に嘘や誤解を生む表現が含まれることについて言及した人が 0 % だったのです。つまり誰も内容を見ておらず、みな単にデザインだけ見ていたということです。私たちはこうした状況を変える必要があります。

子どもに必要なツール

子どもがサイトの信頼性を判断する材料となる要素を次の 2 枚のスライドでご紹介します。大人も子どもも、自分が閲覧しているサイトがどのような種類のサイトなのかを判断できるようになることが必要です。そのサイトは商業的なものでしょうか、あるいは個人向けなのでしょう。「何を売ろうとしているか、誰がその情報を書いているのか」、そういったことを知る必要があります。インターネットで何でも見つけることができますが、誰の書き込んだ情報なら信頼できるのでしょうか。「なぜ私はそれを信頼できるの?」と自問してみてください。また、他に誰がこのサイトへリンクしているのでしょうか。この点については、Google で調べることができます。

サイトは良い答えを提供しているのでしょうか。人々はいまや、どんな答えでも満足するようになっています。論文を書くのでもない限り、正しい答えでなくても構わないと思っていますのです。

また、ゲームで遊ぶときや、ファイルをダウンロードするときに、何を提供しているのでしょうか。調査フォーム等に記入する形で、プライバシーを提供していないのでしょうか。そのサイ

トを使うことによるプラス面とマイナス面を考えてみてください。

いかさまサイト

ここで、いかさまサイトの3つの例をご覧に入りたいと思います。

最初の例は“mcwhortle.com”というサイトです。このサイトでは、「Mcwhortle社は生体防御システムで有名なメーカーです」と書かれています。そして、病原微生物やバイオテクノロジーによって引き起こされる生物災害を探知するための個人向けバイオハザード・ディテクターが販売されています。このサイトを閲覧していると、とてもしっかりした作りのサイトだという印象を受けます。炭素菌など、誰もが恐れていることをうまく利用して宣伝しています。この製品を使えば、お子様も安心ですよ、というようなことも書かれています。しかし、この製品の購入申込みページまで来ますと、突然ポップアップ画面が出てきて、いかさまサイトだったことがわかります。この画面には、米国連邦政府からの次のような警告が書かれています。「気をつけてください。あなたはもう少しでだまされるところでした。このサイトの情報はすべて作り物です。インターネット上の情報にはよく注意してください！」つまりこれは、あなたがどれほど簡単にサイトの情報を信じ込んでしまうかを警告してくれるサイトなのです。

もうひとつ、面白いものがあります。このサイトでは、実在しない米北西部のツリー・オクトパスをあたかも実在するかのように紹介しています。文献資料や、注釈もあり、まるで本物のように思えるのですが、完全に作り話です。

“buydehydratedwater.com(乾燥水を買いませんか)”というサイトもあります。オンライン決済サービスのペイパルで買えるのです！このサイトに入りましたら、FAQのページを見てください。不思議なことがたくさん書かれています。「パッケージを洗って再利用できますか？」という質問に対しては、「はい、でもパッケージを完全に乾燥させなければだめです」と書かれています。また、「再度注文するのはいつですか？乾燥水が足りなくなったのはどうしたらわかるのですか？」という質問も出ています。乾燥水なんて存在しないのですから、とても変なサイトです。

教育者が行っていることは？

教育者は何をしているのでしょうか。教育者たちは、家族や生徒をサポートするためにさまざまな教材を開発しています。スライド上に、いくつかのWebサイトのURLを掲載していますので、ぜひ実際にサイトを閲覧してみてください。多くの有用なツールが用意されています。

このうちのひとつ、ICYouSeeというサイトについてご紹介します。ここには「Webは研究ツールとして良いものでしょうか。答えはイエスです。ただし慎重でなければいけません」とあります。このサイトでは、インターネットでリサーチするためのさまざまな課題、宿題を与え、それらの課題に答えるために訪れるとよいサイトも紹介しています。これは家族と一緒にやることができます。必ずしも学校でやる必要はありません。

それから、Kathy Schrock Guideというサイトがあります。Kathy Schrockはマサチューセッツ州の教育者で、どうやってメディア・リテラシーを教えるかに関するすばらしいサイトを

作っています。皆様にもご覧いただきたいと思います。

Web サイト・プロバイダがなすべきことは？

Web サイト・プロバイダがなすべきことはなんでしょうか。まず、サイトに掲載している情報の正確さを簡単に検証できるようにしなくてはなりません。これはときとしてむずかしい作業ですが、サイトの情報を信頼してもらうためには必要です。また、実体のある組織により運営されていることを示さなくてはなりません。さらに、Web サイト・プロバイダへのコンタクトが容易でなくてはなりません。住所や電話番号、E メールアドレスなどが明確に提示されておらず、コンタクトが容易でないサイトが見受けられます。サイトは定期的に更新しなくてはなりません。それによって、そのサイトが放置されたままになっていないことがわかります。また、販売促進に関するもの、つまり広告やさまざまな特別プレゼント、コンテストなどについては、何らかの制約が必要でしょう。サイトは ICRA¹ ラベリングスキームでレイティングすべきです。これは無料ですし、時間もかかりません。そしてもちろん、プライバシー・ポリシーがなくてはなりません。

インターネット・プロバイダがなすべきことは？

インターネット・プロバイダはどうしたらいいでしょうか。日本のインターネット協会のさまざまな活動には感銘を受けています。このような会議の開催や、家庭向けの啓蒙活動、レイティング、フィルタリングやホットラインへの取り組みなど、日本で実際に行われている活動について、世界の各地により広く知らせなければいけないと思います。

政策立案者がなすべきことは？

政策立案者は何をしなくてはならないでしょうか。まず、現在の法制度を検討するために、何らかの特別なタスクフォースを組む必要があるでしょう。子ども向けの政府サイトを構築するために、グローバルな舞台で、さまざまな人々と共に働く必要があるでしょう。これは重要なことです。子ども向け Web サイト・コンテンツのレベルを上げるために、政府が Web 構築コンテストを開催するなどが考えられるでしょう。コンテストによっては、子どもたちによる子どもたちのための Web サイト構築を奨励するものもあります。スティーブンからは、チャイルドネット・アカデミーについての話があると思いますので、これについてはスティーブンに後で詳しく話してもらいましょう。もうひとつは、“ThinkQuest.org”です。これは子どもとティーンエイジャー向けの国際的な Web サイトコンテストです。私はこのコンテストの審判を 5 回務めました。子どもたちにとって大きな、非常に良い挑戦の機会となっています。コンテストでは、本当にすばらしいコンテンツが作られていました。

親にできることは？

親には何ができるでしょうか。親の果たすべき役割は非常に重要です。親が率先して活動し

1 ICRA : Internet Content Rating Association

ているすばらしい事例がたくさんあります。後でスティーブンから、彼の組織の活動について紹介があると思います。親は子どもたちがインターネットの安全な使い方の基本を知っていることを確認しなくてははいけません。子どもたちがいったん使い方を覚えてしまえば、子どもを信頼してインターネットを使わせてかまいませんが、一方でどのようにインターネットを使っているかは監視しなくてははいけません。インターネットを、ハイテクのベビーシッターとして使うことはできません。とくに小さな子どもたちに対して、インターネットはそのように設計されていないのです。親は、小さな子どもがインターネットを使っているときは、側にいるべきです。

親のためのツール・ボックスもたくさんあります。ここでいくつかご紹介しましょう。最初のサイトについてはスティーブンが紹介すると思いますので、2番目の“getnetwise.org”をご紹介しましょう。“getnetwise.org”には、親のためのさまざまなフィルタリング・オプションが用意されています。子どもたちがインターネットにアクセスすべき時間、家庭内のルールは何か、もしそのルールを守らなかったらどうするかといった、家庭内でのインターネット利用ルールについて子どもとの間で契約を結ぶためのツールなども用意されています。

子どものテクノロジーの知識についていけない親には、“netfamilynews.org”の利用をお勧めします。家族が知っているとい最新技術情報のサマリーが毎週配信されます。親が知ったときには子どものほうは当然のように知っているでしょうけれども。

“commonsensemedia.org”というサイトでは、私もWebサイトのレビューをしています。救命具の形をした円を見てください。円はセクション毎に色分けされており、この救命具に照らして、各Webサイトの中でどれくらいセックスが取り扱われているか、暴力はどうか、言葉はどうか、といった観点からWebサイトの内容をレイティングしています。また、怖がらせるような内容ではないか、広告はどれくらいあるか、何歳くらいの子どものなら見せられる内容か、といったことも書かれています。“commonsensemedia.org”では、本やCD、ビデオ、映画などのレイティングもしています。

もうひとつお勧めしたいのが、Jo Cool or Jo Fool? (ジョーはイカしてる? それともおばかさん?) というWebサイトです。このサイトでは、子どもたちが12のWebサイトを見て、各サイトでどのように行動すればよいのかを判断します。その判断によって、子どもたちは自分がおばかさんなのか、クールでイカしたWebユーザなのか分かる仕組みです。こういうサイトを子どもと一緒に見ることも楽しい経験になるでしょう。

さて、親にできることは何でしょうか。まず第1に、パニックにならないことです。親として子育てするスキルがあるのなら、インターネットの知識の有無はそれほど重要ではありません。確かにインターネットに関わる悲劇は起きています。たとえば、チャットルームで出会った年上の男性に虐待された10代の少女などがいました。彼女の場合、親がほとんど家におらず、家族に愛されていないと感じて、寂しくてチャットルームに入ったのです。この件でレポーターが私に電話してきて言いました。「どうしたら子どもたちを守ることができるのでしょうか?」 多くの場合、私はこう言うしかありません。「これはインターネット特有の問題ではありません。子育ての問題なのです」と。

これは、子供の面倒をきちんとみないで放置しているということです。親が子どもに注意を

払っておらず、多くの場合、それが問題の根底になっているのです。子どもは多くを必要とします。早めに帰宅して子どもと時間を過ごす、仕事だけに忙殺されない、ということが子どもにとって必要なのではないのでしょうか。子どもは、親に導かれ監督され、そして愛されることを必要としています。

子どもたち自身がなすべき行動とは？

さて子どもたちは何をしなければいけないのでしょうか。まず、常識的で分別のあるハンドルを選ぶことです。「Hot Baby101」など、子どもが選ばないように、注意しなくてはなりません。また、プロフィールには住んでいる場所や電話番号など個人情報を書き込まないようにしなくてはなりません。他人の振りをする、なりすましをするということも、本人がリスクを負うことがありますので、すべきではありません。他人に対して、自分がそのように扱われたら嫌だと思ふようなことはしてはいけません。パスワードは非公開にすべきです。そして常に懐疑的でいることです。インターネット上の情報のすべてが真実とは限りません。

それからもう一つ

それからもう1点、私が子どもたちに約束してほしいのは、インターネットの外に広がっている「本当の世界」に触れてほしい、ということです。多くの子どもたちが、インターネットでゲームをしたり、ブログをつけたり、“Am I Hot or Not”で自分のスコアをチェックしたりするのに夢中になっていることにおどろかされます。子どもは、実世界に飛び出して、新鮮な空気や太陽の輝きがどのようなものを学ぶ必要があります。

ネットマムの今後の活動

私がやろうとしていることについてお話しします。私は、インターネット上で傷ついているすべての子どもを抱きしめて、アイスクリームを食べさせてあげたい、と感じています。でも、すべての子どもに対してそうすることはできません。だからこそ私は、ネットマムとしての仕事、子どもたちのためのWebサイトを厳しい審査によって選ぶという仕事を続けていきます。そしてまた、アメリカの使い捨て消費主義を方向転換させるためのリソースを提供したいと思います。あまりにも多くの使い捨ての製品があり、セックスも、子どもでさえもその場の楽しみとして使い捨てられています。しかし、「なくなる」ということはないのです。何事もなくなりません。これらの問題は、私たちと私たちのコミュニティに留まるのです。

また、少女たちをサポートするリソースも提供したいと思います。愛されたいという気持ちだけで、搾取されていることに気付かない少女たちを守ってあげなくてはなりません。

このように、私たち一人一人に、それぞれしなくてはいけないことがあります。自分たちの家族や文化の価値観にあったインターネット社会を形成するための方法を考えなくてはなりません。また、私は、家族の絆を取り戻すことによって、コミュニティのつながりも取り戻すことができると信じています。アメリカでは、隣の家のことを何も知らない人たちが増えているという問題を抱えています。電子メールを使えば、地球上の誰とでも会話ができます。ところが、お隣のことは何もわかりません。

著名な市民権活動家だった故マーチン・ルーサー・キング牧師は、このようにいっています。「私たちは、鳥のように空を飛び、魚のように海を泳ぐことができる。しかし、兄弟のごとく共にこの大地を歩むという簡単なことを、まだ学べずにいる。」

インターネットを適切に、有効に使うことによって、より良い世界を構築してまいりましょう。

さて、インターネットセッションはこれでおしまいです。フォーラムが終わったら、どうぞ外に出て遊んでください。ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

赤堀

パネルディスカッションのコーディネータを務めます、東京工業大学の赤堀と申します。たいへん印象的なプレゼンテーションで、参考になりました。また、感動いたしました。2点、教えていただきたいと思います。

1つ目は、親の問題についてです。「親は、子どもがどんな形でインターネットに接しているか、ちゃんとモニターしなさい、監視しなさい」というコメントがございました。今の一般的な傾向としまして、ポーリー様もご指摘のように、親のテクノロジー・リテラシーといいますが、インターネット・リテラシー、技術に対するリテラシーというものは、子どもよりはるかに劣っているといえるかと思えます。全体的に、テクノロジーに対する親の「弱さ」といいますが、現実に親に聞くとですね、「いや、わからないことが多いんだ」ということで、ほったらかしにされている場合が多いようです。この点につきまして、ポーリー様のお考えをお聞かせいただければと思っております。

2点目ですが、多くのいかさまサイトをご紹介いただき、たいへん印象的でした。ポーリー様から、「ある面で懐疑的になって、そのWebサイトが信頼に足るものなのか、ちゃんと疑ってみなさい」というレコメンドがありました。ただこれが教育上非常にむずかしいと思えますのは、わが国では、思いやりという言葉がございまして、他人に対してやさしく接していこうという教育の理念があります。この「懐疑的」というのを簡単に申しますと、「人を見たら泥棒と思え」ということで、これまでの教育の考え方とは、ある面で矛盾するんですね。そういう点について、ポーリー先生はどのようにお考えか、この2点をお聞かせいただけないでしょうか。

ポーリー

まず、どうやって親の技術面での知識を、子どもに追いつかせていくのかという質問についてお答えします。アメリカの場合には、インターネットを利用できる公立図書館がたくさんあります。私の勤めている公立図書館では、コンピュータ・キャンプという、小さい子どもも、親も、高齢者も、誰でも参加できるプログラムがあり、たとえば1週間とか2、3日、あるいは数時間、図書館に来てもらい、指導者がラップトップ・コンピュータを使ってトレーナーがインターネットの使い方を教えます。コンピュータの使い方から、インターネット・エキスプ

ローラなどのブラウザの使い方等、さまざまな知識を学んでもらいます。親たちに対しては、Web サイトで見つけた情報をいかに評価すべきかを教えます。私たちは、このように協力して啓蒙活動をしています。また、学校でも、同様の努力が続けられています。私は多くのPTAの会合で講演をしているのですが、そこで親たちに対して、良いサイト、悪いサイトを紹介し、その違いを見分ける方法を教えています。インターネットを使う上で、注意すべき点についても提案しています。これらは私の体験に基づいて申し上げられることです。インターネット・サービス・プロバイダも、今回のような大きな会議を開催して、インターネットを実際に経験できる機会を提供しています。

2つ目のご質問も最初の質問と似ていますが、文化的な要素も絡んできます。私たちは、すべての人が親切であってほしいと考えますが、実際にはそうではありません。もっとも悲しいことは、子どもの無邪気さがこのことによって打撃を受けてしまうということです。あまりにも早熟になってしまい、子どもなのに子どもらしさが奪われてしまうということは悲しいことです。親は子どもたちをこのようなサイトから守ってあげなければいけません。このようなサイトについて学び、インターネットの使い方について責任を持って子どもたちを指導しなければいけません。これは道路を渡る方法を教えてあげるのと同じです。情報スーパーハイウェイについても同じような指導をしてあげる必要があると思います。

質問者

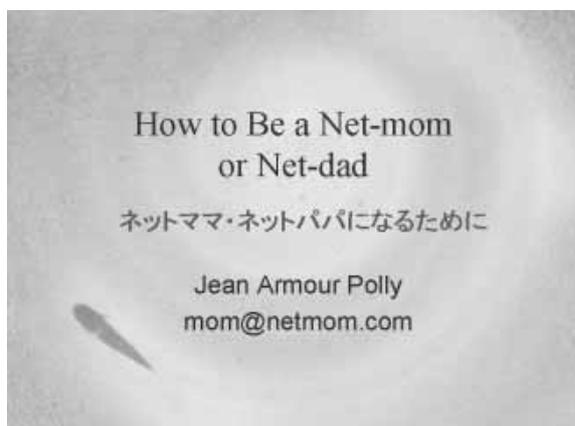
チャイルド・リサーチ・ネットという、子どもを研究するサイトを企画運営している者です。今日はたいへん貴重なお話をありがとうございます。私たちのWeb サイトでは、子どもたちがインターネットについてどのように考えているのかを知りたいと思ひまして、この夏休みに、小学校高学年の子どもたち数名を対象に、彼らがホームページを作るとしたら何をコンテンツにしたいかということと一緒に考える、ワークショップのようなものを開催しました。そのときに子どもたちから出た言葉は、自分の家族の写真を紹介したいとか、自分の日記を公開したいというものでした。やはり自分に身近なものを表現したい、伝えたいという希望が拳がりました。しかしさきほどのご発表の中で、写真や日記は良くないコンテンツとされていました。なぜ良くないのか、なぜ危険なのかということは、大人としてはわかるのですが、子どもが自己表現の方法としてインターネットを考えた場合とは、少しギャップというか温度差があるような気がしています。これからの子どもたちは、生まれたときにはすでにインターネットがあって、自宅にブロードバンドの接続環境があります。そういった子どもたちがインターネットをどのように使っていくべきなのか、その点を大人はどのように考えていったら良いのかという点につきまして、ご意見を伺いたいと思ひまして、質問しました。

ポリー

この問題を指摘していただき、ありがとうございます。おっしゃるとおりです。子どもたちにインターネットのコンテンツを創造する機会をもっと提供すべきだと思います。先ほどご紹介したブログは、一般的なブログのことをいっているのではありません。子どもが書いた日記に対して読者がコメントを書いたり、コンタクトしたりできるものが問題なのです。もちろん

このようなサイトを安全に運営する方法もあるでしょう。いろんな例を私は知っています。おそらくあなたもご存知でしょう。ですからすべてのブログがいけないということではないのです。なかには良いものもあります。子どもたちがもっとコンテンツを作るべきです。インターネットに接続する機会を与えることにより、お互いに助けあうこともできますし、子どもたちの想像力に触れることにより、大人もさまざまなインスピレーションを得ることができますから、非常に重要なことだと思います。

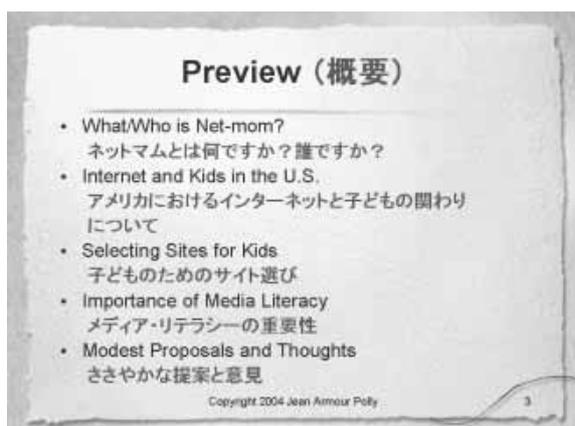
ジーン・アーマー・ポーリー氏 講演資料(1)



1



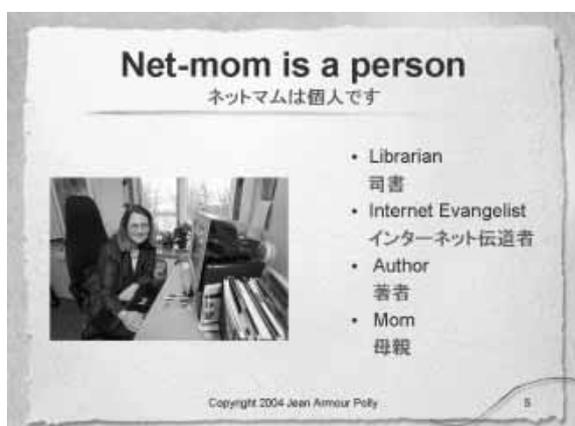
2



3



4



5



6

ジーン・アーマー・ポーリー氏 講演資料(2)

Net-mom's Internet Kids & Family Yellow Pages (6 editions)

ネットマムの「インターネット 子ども&家族のためのイエローページ(6版)」



Copyright 2004 Jean Armour Polly 7

7

The Book

イエローページ

- A-Z encyclopedia of subjects
項目をアルファベットに並べた百科事典
- 3,500 family-friendly sites
3,500の家族向けサイト
- Described and reviewed
サイトの詳細と批評
- Strict selection policy
厳格な選択方針
- More than 250,000 books sold
250,000部以上の売上

Copyright 2004 Jean Armour Polly 8

8

1) EXPRESS - "I want to tell my story"

表現する

✓ "Lean back or lean forward?"
Participation not just interaction
交流するだけでなく参加する

✓ Gives those who are excluded a powerful voice
声を発することができない人々に声を

✓ Personal stories are very powerful and can challenge and educate
個人のストーリーには、非常に力があり、問題を提起し、啓蒙する

Example: Pauline Yeung



9

And also...

さらに...

Children deserve a better Internet than we have given them.

子どもたちは、現在私達が与えている以上の、よりよいインターネット環境と接すべき。

Copyright 2004 Jean Armour Polly 10

10

U.S. Kids and Internet

アメリカでの子どもとインターネットの関わり



- 99% of public schools have Internet access.
公立学校の99%以上でインターネット接続
- Most is broadband.
大多数が、ブロードバンドを使用
- 5 kids per computer.
1台のコンピュータを5人で使用

Source: Internet Access in U.S. Public Schools and Classrooms: 1994-2002
<http://nces.ed.gov/>

Copyright 2004 Jean Armour Polly 11

11

U.S. Kids on the Internet

インターネット上のアメリカの子どもたち



- 59% age 5-17 use it
5~17歳の59%が使用
- 31 million kids
3,100万人の子どもが使用
- 75% of teens
10代の75%が使用
- 25% of 5 year olds
5歳児の25%が使用
- No gender gap
男女差は無し
- Racial gap
人種による差は有り

Source: Computer and Internet Use by Children and Adolescents in 2001
<http://nces.ed.gov/>

Copyright 2004 Jean Armour Polly 12

12

Where do kids access the Internet? 子どもがインターネットにアクセスする場所は？

- Home 自宅(78%)
- School 学校(68%)
- Public Library 公共図書館 (15%)
- Someone else's house
自宅以外の家 (15%)

Source: *Computer and Internet Use by Children and Adolescents in 2001*
<http://nces.ed.gov/>

Copyright 2004 Jean Armour Polly 13

13

High-speed at Home 自宅からは高速アクセス

- 31% of US homes with Internet access connect via broadband.
アメリカの家庭の31%がブロードバンド経由でインターネットに接続
- "always-on" information appliance
「常時接続」の情報家電



Source: *America's Online Pursuits: The changing picture of who's online and what they do*
December 22, 2003
<http://www.pewinternet.org>

Copyright 2004 Jean Armour Polly 14

14

What about mobile phones? 携帯電話の使用状況は？

- No I-mode :(
iモードは無い
- 45% of all U.S. mobile subscribers ages 18 to 24 use SMS texting
アメリカでは、18歳~24歳の携帯電話加入者の45%がショート・メッセージ・サービス(SMS)使用



Source: *Harris Interactive and Telephia*

Copyright 2004 Jean Armour Polly 15

15

Why we love the Internet インターネットが好まれる理由

	Access to current, real-time information. 最新の情報をリアルタイムでアクセス	
Kids can be creators as well as consumers 子どもたちは、消費者になれるのと同時にクリエイターにもなる		Collaborative, empowering environment コラボレーションとエンパワメントを実現できる環境

Copyright 2004 Jean Armour Polly 16

16

Dangers we know こんな危険が潜んでいます

- Predators 捕食者たち
- Pornography ポルノ
- Inappropriate material
適切でない題材
- Violence, bad language, hate speech...
暴力、乱れた言語、差別発言
- Inaccurate or misleading information
不正確もしくは誤解を招く恐れのある情報



Copyright 2004 Jean Armour Polly 17

17

Information Overload 情報の過剰供給



The amount of new information stored on paper, film, magnetic, and optical media has about doubled in the last three years.
紙、フィルム、磁気、光メディアに蓄えられている新しい情報は、この3年で倍増している

The WWW contains about 170 terabytes of information... in volume this is 17 times the size of the Library of Congress print collections (19 million books, 56 million manuscripts)

Source: *HOW MUCH INFORMATION 2003?*
www.sims.berkeley.edu/research/projects/how-much-info-2003/

Copyright 2004 Jean Armour Polly 18

18

My Mission

私の使命

- Find only the best web sites for kids.
子どものために、最良なサイトを見つけ出すこと
- Describe them in an appealing way.
それらのサイトについて、魅力的な紹介をすること
- Organize them into a subject hierarchy that makes sense to a young student.
サイトを子どもたちが理解できる体系に整理する
- Keep the directory updated.
ディレクトリを常に最新の状態に保つこと

Copyright 2004 Jean Armour Polly 19

19

Why Others Should Create Safe Sites Directories

他の人々にも、安全なサイトのディレクトリを作成して欲しい理由



- Sites come in all Languages.
サイトは様々な言語で書かれている
- Cultural variances in tolerance and acceptability.
文化によって、許容範囲が異なる
- It is a big job, but any motivated organization or individual can do this!
作業量が多いが、やる気のある団体、個人なら可能な仕事!

Copyright 2004 Jean Armour Polly 20

20

Planning the Directory 1/5

ディレクトリの作り方①

- Who is the audience? Age group?
閲覧対象者は誰か？対象者の年代は？
- What subjects to collect?
どのような主題のサイトを集めるか？
- How to organize the subjects
主題の整理方法
 - Use other sites, reference books for ideas
アイデアを得るために、他のサイト、参考図書を活用する

Copyright 2004 Jean Armour Polly 21

21

Planning the Directory 2/5

ディレクトリの作り方②

- Selection Policy--decisions:
選定基準
 - What is the ideal site for this audience?
閲覧対象者にとって理想的なサイトとは？
 - Is advertising OK? If yes, how much?
広告は可能か？可能な場合の予算は？
 - What about language? Violence?
言語は？暴力はOKか？
 - Is there anything you will exclude outright?
完全に排除するものはあるか？

Copyright 2004 Jean Armour Polly 22

22

Planning the Directory 3/5

サイト案内の作り方③

- Who will make the selections?
選定者は誰か？
 - need for consistency in style of writing and quality of site selection.
文体と選定サイトの質にゆるぎがないこと
 - Require a writing sample of the reviewers.
レビュアーによる文章サンプルの提出が必要
 - "a cool site with fun games" doesn't tell you much!
「楽しいゲームのあるクールなサイトです」では、何も伝わらない

Copyright 2004 Jean Armour Polly 23

23

Planning the Directory 4/5

サイト案内の作り方④

- How will the list be updated?
リストの更新方法
 - Need to check links and content on a regular basis.
リンクとコンテンツの定期的なチェックが必要
 - We recommend a product by www.gossamer-threads.com

Copyright 2004 Jean Armour Polly 24

24

Powered by...Links

Linksの紹介

- Windows & Unix
- Links SQL \$450
- Links 2.0 is FREE
Links 2.0は無料
- EASY to use web interface
ウェブ・インターフェイスは簡単に利用可能
- No technical knowledge needed.
技術的な知識は必要なし

Copyright 2004 Jean Armour Polly 25

25

The Public View

公開方法

Net-mom's Nice Sites

1 Day / 1 Week / 1 Month / 1 Year / 1 Decade / 1 Lifetime

Search

There are 18 links.

- Bonus.com - The SuperSite for Kids
- CNET.com
- FunSchool.com
- Harcourt School Publishers - The Learning Site
- HBO Magnet
- Kids Space
- Knowledge
- Lycos Zone

Copyright 2004 Jean Armour Polly 26

26

Links SQL Admin

Home / Browse / Database / Add / Edit / Delete / Move / Refresh / Related / Validate

Category Browser:

- Home
- Arts & Crafts (13)
- Emergency Homework
- Family Fun (3)
- Games & Interactive St
- Math (7)
- Music (10)
- Preschool (13)
- Reading Writing Chat
- Science (15)
- Sports and Outdoor Fun

Copyright 2004 Jean Armour Polly 27

27

Now that you have your policy... 5/5

方針を定めたら...⑤

- All sites will be measured against it.
全てのサイトを方針に照らして評価
- In 2000 I estimated how many sites I had examined over 5 editions. It was over 1.5 million pages. I have stopped counting.
2000年に5版までのサイト審査数を見積もったが、1,500万ページ以上だったので、数えるのをやめた

Copyright 2004 Jean Armour Polly 28

28

Current Net-mom Policy 1/3

現在のネットママの方針①

- Age-appropriate (3 to 14 "tween")
年齢層(3歳~14歳)
- No bad language, hate speech, "gross" subject matter.
乱れた言語、差別発言、「ゾッとする」題材
- Minimal advertising. No gambling ads or adult products.
最小限の広告。ギャンブル関連やアダルト製品の広告は無し
- Privacy policy should respect the user.
プライバシーに関する方針は、ユーザを尊重したものであること

Copyright 2004 Jean Armour Polly 29

29

Current Net-mom Policy 2/3

現在のネットママの方針②

- Sites should have some authority--like NASA or National Geographic.
何らかの権威付けのあるサイトであること
- Well-designed, easy to use.
デザインが優れ、簡単に利用できること
- Limit animations; no automatic music without an OFF control.
動画は最小限に。音楽の自動再生にはOFFボタンがあること
- Chat rooms should be moderated.
チャット・ルームは管理者がいること

Copyright 2004 Jean Armour Polly 30

30

Current Net-mom Policy 3/3

現在のネットママの方針③

- Site should be current, not abandoned.
サイトは更新されていて、放置されていないこと
- Sites should teach me something or excite me with their creativity.
私自身が何か学ぶことがある、もしくは興味をそそられる創造性のあるサイトであること
- Sites should suggest something for me to do offline.
– Float/sink; clay
オフラインで何かするヒントを含むサイトであること
- Sites should have "heart"--a feeling I get -- authenticity--openness--no underlying agenda-- hard to describe!
「心」を持つサイトであること(「心」の意味はうまく説明できませんが)

Copyright 2004 Jean Armour Polly 31

31

Not Approved 1/5

推奨しないサイト①

- Web-logs "blogs" where kids keep online diaries and strangers comment on the kids' lives, and write to them.
Web日記である「ブログ」。ここでは、子どもがオンライン上で日記をつけ、その場で他人がコメントを書き込んだり、メールを送ったりする。



Copyright 2004 Jean Armour Polly 32

32

Not Approved 2/5

推奨しないサイト②



- "Am I Hot or Not?"
– Do you want to lose your self-esteem or not?
自尊心をなくしたい? なくしたくない?
– Submit photo, people rate it, they can view your description and "meet" you online.
写真を送ると、他人が写真を評価し、プロフィールをみて、オンライン上で互いに会える

Copyright 2004 Jean Armour Polly 33

33

RateMyTeachers.com

推奨しないサイト③



Copyright 2004 Jean Armour Polly 34

34

Not Approved 4/5

推奨しないサイト④

- SchoolScum.com
- Implicated in Arizona teen's suicide.
アリゾナで起きた10代の自殺に関与
- Death threats, including a "Columbine-style" mass shooting threat at local high school.
コロムバイン高校銃乱射事件のような、集団射撃を地元の高校で起こすと脅す脅迫状

Copyright 2004 Jean Armour Polly 35

35

Not Approved 5/5

推奨しないサイト⑤

- The new "cut and paste scholarship"
「カット&ペースト」に基づく勉強法
- "if it's on the Internet, it's OK to use it and call it yours."
「インターネット上の文章はすべて自分が書いたものとして使用してOK」



Copyright 2004 Jean Armour Polly 36

36

Your Kids Need a Selection Policy
 -- in their heads --
 子ども達は、「自分たちの頭の中に」選択規定が必要です

It's called Media Literacy
 それを、メディア・リテラシーと呼びます



37

Adults need ML Too
 大人にもメディア・リテラシーは必要です

- 46.1% of adults assessed the credibility of sites based in part on the appeal of the overall visual design of a site, including layout, typography, font size and color schemes.
 46.1%の大人が、サイトの信頼性を外見で判断
- 8.8% identity of the site or operator
 8.8%がサイトの作成者、運営者で判断
- 6.4% customer service
 6.4%がカスタマ・サービスで判断
- 3% sponsorships
 3%がサイトの後援者で判断
- 0% mentioned false or misleading information!
 間違った。もしくは誤解を生む情報についての指摘は0%!

Source: *How Do People Evaluate a Web Site's Credibility? Results from a Large Study*, released October, 2002
www.consumerwatch.org/news/report3_credibilityresearch.htm#fordFT1_abstract.htm
 Copyright 2004 Jean Armour Polly 39

38

Tools Kids Need 1/2
 子どもに必要なツール①



- What kind of site is this? Commercial? Personal?
 このサイトの種類は？広告なのか？個人によるもの？
- Who writes the information and why should I believe it?
 情報を書き込んだのは誰か？信じて良い情報か？
- Who else links to this site?
 他にこのサイトへリンクしているのは誰か？

Copyright 2004 Jean Armour Polly 39

39

Tools Kids Need 2/2
 子どもに必要なツール②



- Does the site offer a GOOD answer—not just an answer. このサイトは良い「回答」を提供しているか？それとも単なる「回答」ではないか？
- What am I giving up in order to play this game or download this, and so on... このゲームで遊ぶためや、これをダウンロードするのとひきかえに、失う可能性は何だろうか？

Copyright 2004 Jean Armour Polly 40

40

Hoax Site 1/5
 いかさまサイト①
www.mcwhortle.com/

mcwhortle

About Us
Testimonials
Invest Now
Press

McWhortle Enterprises, Inc.
 McWhortle Enterprises is an established and well-known manufacturer of biological defense treatments. Future 502 companies routinely use McWhortle Defense Systems to protect their far-flung operations living in hazardous areas. These deterrent, confidential safeguards have for years given employees and their families peace of mind.

Now, for the first time, McWhortle Enterprises is offering a product to the general public: the new **Bio-Hazard Alert Detector**. Awarding quality an Iron Double-A helmet, the Bio-Hazard Alert Detector emits an audible beep and flashes when in the presence of all known bio-hazards. The Bio-Hazard Alert Detector, measuring only 3 by 7 inches, is small enough to slip into a man's jacket pocket, a woman's purse or a child's backpack.

The Bio-Hazard Alert Detector works by detecting microscopic levels of hazardous bio-elements. It can detect even the most subtle.



Copyright 2004 Jean Armour Polly 41

41

It's from a Federal Agency!
 製作したのは連邦政府です！

Watch out!
 If you responded to an investment idea like this . . .
You could get scammed!

An investor protection message, brought to you by:

Securities and Exchange Commission

McWhortle Enterprises does not exist. It is a complete fabrication, posted by the Securities and Exchange Commission, the Federal Trade Commission, the North American Securities Administrators Association, and the National Association of Securities Dealers to alert investors to potential on-line frauds.

We created this site because we've all seen an increase in the number of investment sites preying on our fears of getting scammed and other bio-hazards.

This site shows some of the 100,000,000 of on-line investment sites. Promises of fast and high profits, with little or no risk, are classic red flags of fraud. Remember -- if it sounds too good to be true, it usually is! For more information, read the SEC's brochure, "Investment Fraud: How to Avoid Investment Scams," at the top sheet, "Stock Market Fraud - Investor Check List."

Before making any investment -- online or offline -- it pays to do our own research to make sure the company exists, that its products are genuine and its claims legitimate. McWhortle Enterprises has no track record and no.

Copyright 2004 Jean Armour Polly 42

42

What should web site providers do? Webサイト・プロバイダがなすべきことは?

- **Make it easy to verify the accuracy of the information on your site.**
自分のサイト上の情報の正確さを簡単に証明できること
- **Show that there's a real organization behind your site.**
サイトが、実体のある組織により運営されていることを示すこと
- **Make it easy to contact you.**
簡単にコンタクトが取れること
- **Update your site's content often (at least show it's been reviewed recently).**
頻繁にコンテンツを更新する
- **Use restraint with any promotional content (e.g., ads, offers).**
宣伝関連のコンテンツを制限する
- **Have a Privacy policy.**
プライバシーに関する方針を詳く
- www.webcredibility.org

Copyright 2004 Jean Armour Polly 49

49

What should Internet providers do? インターネット・プロバイダがなすべきことは?

- **Internet Association of Japan is already doing it!**
日本インターネット協会は既に実行している!
- **Convene meetings.**
会議を開催する
- **Educate families.**
家庭を教育する
- **Coordinate Initiatives**
新たな試みを行う
 - Rating & filtering
 - Privacy Online
 - Hotlines
 - and more!

Copyright 2004 Jean Armour Polly 50

50

What should policy-makers do? 政策立案者がなすべきことは?

- **Convene task forces to examine existing legislation.**
現在の法制度を検討するためのタスク・フォースを組む
- **Work with counterparts in the global arena.**
グローバルな舞台上で、同じ立場の人々と共に働く
- **Create kid-friendly government sites.**
子ども向けの政府サイトを構築する
- **Host web site creation contests for student teams...**
生徒チーム対抗の、Webサイト構築コンテストを主催する

Copyright 2004 Jean Armour Polly 51

51

Kids & Web Development 子どもとWeb開発



welcome to the
**childnet
ACADEMY**

childnetacademy.org/

- ThinkQuest.org
- www.thinkquest.jp/



はじめよう、自分流に。

Copyright 2004 Jean Armour Polly 52

52

What can parents do? 親に出来ることは?

- **Many notable parent initiatives**
親が、率先して動くこと
- **Make sure kids know safe net use rules.**
子どもがインターネットの安全な使い方を知っていることを確認すること
- **Trust, but monitor use.**
子どもを信じつつ、インターネットの使用を監視すること



Copyright 2004 Jean Armour Polly 53

53

Parent Toolbox 親のためのツール・ボックス

- www.chatdanger.com and the www.childnet-int.org family of sites
- www.getnetwise.org
- www.netfamilynews.org/



NET FAMILY NEWS
newsletter subscribe links supporter about

Copyright 2004 Jean Armour Polly 54

54

www.common sense media.org

Sexual Content
Includes nudity, implied sex, suggestive situations, and explicit sexual situations.

Violence
Includes everything from cartoonish violence to explicit and graphic violent content.

Language
Includes all levels of inappropriate language, from mild cursing to extreme profanity.

Age Recommendation
In determining the age appropriateness of a product, our reviewers rely on accepted child development criteria. But all kids are different. Our goal is to give you enough relative information to determine what's right for your family. We don't provide one-size-fits-all parenting advice, but try to ensure that every family can share an enjoyable media experience together.

Content (includes these elements):

- Scarciness
- Humor
- Social behavior demonstrated by the characters (tolerance, diversity, role models)
- How much commercialism is present
- Whether or not there are drugs, alcohol, or tobacco products used in the product.

Copyright 2004 Jean Armour Polly 55

55

This is our younger brother, Jay - known to his instant message buddies as "DrCool."

ICQ-ICQME is where he spends about 99 per cent of his time. I don't like the way they try to get personal info about you when you register, so I'm not a member. But Jay - he's online 24/7 talking to people. He thinks that cyberspace should be a place where everyone can say what they think.

Jay's Checklist:
What kind of Web site is this? the
What decision does he have to make? that
What should he be looking out for? a hit
Does he make the right decision? a few not
Why or why not? to Jay
What's the best way to handle the situation? to Jay

Cool or Fool?

- www.media-awareness.ca/english/special_initiatives/games/joecool_joefool/o_cool_kids.cfm
- www.bewebeware.org/

Copyright 2004 Jean Armour Polly 56

56

What can parents do?
親に出来ることは?

But...is this really an "Internet Problem"?

Maybe we should just come home earlier...

しかし、本当にインターネット問題は存在するのでしょうか？
もしかしたら、早めに帰宅するだけで問題は解決するのもかも...

QuickTime™ and a TIFF (Uncompressed) decompressor are needed to see this picture.

Copyright 2004 Jean Armour Polly 57

57

What should kids do?
子どもたち自身がなすべき行動とは？

- I will choose a sensible screen name for myself.
常識的なハンドル名を自分で選ぶ
- I will not put personal information in my profile.
プロフィールには個人情報を書き込まない
- I will not put my safety at risk by pretending to be someone I am not.
他人の振りをして危険なリスクを負うようなことをしない
- I will treat others the way I want them to treat me.
他人に対し、自分が他人から受けたいような扱いをする
- I will keep my passwords private.
パスワードは他人に漏らさない
- I will stay skeptical.
懐疑的である

Copyright 2004 Jean Armour Polly 58

58

One more thing...
それからもう一つ...

I will unplug and experience "actual reality" because there is life beyond being connected.

コンピュータから離れ、「現実世界」を経験する。なぜなら、そこには、インターネットを凌ぐ本物の生活があるのだから

Copyright 2004 Jean Armour Polly 59

59

What will Net-mom do?
ネットマムの今後の活動

- I would like to give every kid a hug and an ice cream cone, but...

私は全ての子どもを抱きしめてアイスクリームをあげたい。でも...

Copyright 2004 Jean Armour Polly 60

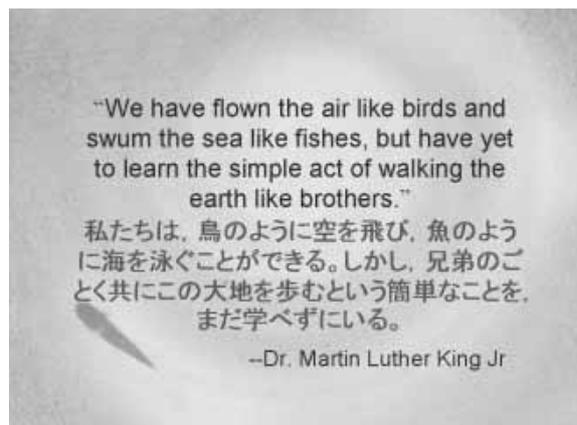
60



61



62



63



64

英国事例発表：

変化する子どもたちのインターネット利用 その有用性と危険性を考える

スティーブン・キャリック・デイヴィス氏
チャイルドネット・インターナショナル CEO

みなさんこんにちは。スティーブン・キャリック・デイヴィスです。今日ここでお話しできることを大変うれしく思います。昨日ロンドンから参りました。お招きいただきありがとうございます。国分理事が先ほど主催者挨拶で仰ったように、私の組織であるチャイルドネット・インターナショナルは昨年3月、東京において、インターネット協会との共催でセミナーを開催しました。本日この東京を再び訪れることができ、うれしく思っています。

今日はチャイルドネットの活動をご紹介させていただきますが、それ以上に皆様との双方向のやり取りの中で、いろいろと教えていただきたいと期待して参りました。今日の私の話は「変化する子どもたちのインターネット利用」というタイトルです。私たちは、いろいろなものがどんどん変わっていく時代に対して一緒に取り組んでいます。お互いに経験を共有し、学びあう必要があります。したがってこのコンファレンスの場合は、まさに双方向のセッションといえるでしょう。この問題にたいへん真剣に取り組んでいらっしゃるということ、そして今回このような会議を開催していただいたことに、ジーン同様、感謝します。

プレゼンテーション概要

最初にいくつか、皆さんに伺いたいことがあります。まず、皆さんの中で、教師の方、手を挙げてください。少しいらっしゃいますね。子どもに責任のある立場の方が多くですか。皆さんは、親、保護者であると考えてよろしいでしょうか。だから、参加されているのですね。午後の時間、この問題を考えるためにお集まりいただき、ありがとうございます。皆さんのお子さんたちのためになると思います。では、携帯電話でインターネットを利用している方は何人くらいいらっしゃいますか。少しですね。お子さんが携帯電話でインターネットを利用しているという方はどれくらいいらっしゃるでしょうか。大体半分くらいでしょうか。

今日は、まず、チャイルドネットの活動についてご紹介します。また、インターネットは、子どもが創造性を発揮するためのすばらしいメディアになり得るという話もいたします。それから、子どもがホームページを作るうえでどのような課題があるのか、といった話もしていきたいと思います。

チャイルドネットでは、先ほどジーンからも紹介がありましたが、「チャイルドネット・アワード (Childnet Awards)」または「チャイルドネット・アカデミー (Childnet Academy)」というプログラムを進めています。このプログラムを通じて得た経験を皆さんにご紹介したいと思います。また、インターネット利用における課題や危険性についてもお話しします。

このプレゼンテーションで私が使う言葉について説明します。私が“C & YP”という表現を使う場合、これはChildren (子ども) と Young People (若い人たち) を意味します。先ほ

どジーンから、インターネット上には子どもを食べ物にする悪い輩がいること、不正確なコンテンツがあり、それによって子どもたちが被害に遭いやすいといった、多くの危険があるという指摘がなされました。そのほかにもいろいろな問題点がありますので、それらについて注意深く見ていきたいと思います。英国では、親たちが責任を持って行動し、インターネット上の危険から子どもを守るための教育啓蒙活動を進めています。そのご紹介をしたいと思います。

このスライドに掲載されている写真の子どもたちは、チャイルドネット・アカデミーの受賞者です。私たちがプレゼンテーションやWebサイトで子どもたちの写真を使う場合には、必ず子どもとその親御さんの了解を得るようにしています。と申しますのも、一度インターネット上に写真が公開されてしまいますと、どこでも使われてしまいますし、改ざんされてしまうかもしれません。このような危険性について、認識しておく必要があります。また、子どもの権利を尊重することが重要です。

チャイルドネットの活動紹介

子どもについて話をするときは、必ずこの、私の友だち、トムソン・アデレオ君の写真を最初に使います。トムソン君はナイジェリア出身で、今はロンドン南部に住んでいます。地球儀を持ったトムソン君を撮影したとき、彼は私にこう聞いてきました。「どうしてこの写真を使いたいのか？」 私は「インターネットにアクセスしたときに、子どもたちが世界全体を手に入れることができるということを表したいからだよ」と答えました。そうです、インターネットによって、全世界が子どもの寝室にやってくるのです。図書館や博物館、動物園などさまざまな良いものにすぐにアクセスできます。しかし一方で、悪いものにもアクセスできてしまいます。

この写真は、子どもとインターネットの関係を象徴するメタファーであるといえると思います。この写真には、もうひとつ意味があります。このトミー君は、実は耳が聞こえないのです。彼は私にこう言います。「インターネット上だったら、僕の耳が聞こえないなんて、誰にもわからないんだよ、スティーブン。」 指でタイプすればいいからです。これは、私たちがオンラインでおしゃべりしているとき、私たちが話をしている相手は誰なのかわからないということのを思い起こさせてくれます。子どもたちは、このことを覚えておかなければなりません。技術の発展によって、子どもたちは携帯電話から全世界のインターネットにアクセスできるようになりました。インターネットは家の外に出て、子どもたちのポケットに入っています。これは、子どもを守る責任をもつ親、保護者にとって、大変困難な課題といえるでしょう。親や保護者は、子どもたちは、家の外で多くの人たちと接触できることを認識しなければなりません。

ティム・バーナーズ・リーの引用

インターネットの将来の話をする前に、ひとつ、引用しておきたい言葉があります。インターネットの創設者の一人であるティム・バーナーズ・リー氏が、1999年の著書“ Weaving the Web ”(邦訳『Webの創成 World Wide Webはいかにして生まれどこに向かうのか』、2001年、毎日コミュニケーションズ刊)の中で、こんなことをいっています。

「Webというのは技術的な創造物というより、むしろ社会的な創造物と呼ぶべきものだ。私

はインターネットを、技術のおもちゃとしてではなく、人々が一緒に仕事をして、社会的な効果を挙げることを期待して設計したのだ。Webの究極的な目標は、Webによって世界を支援し、Web自身もこの現実世界と同じようによりよくなることだ。Webとともに作り上げる社会が、われわれの実際に意図したようなものになることを願っている。」

これは大変な挑戦です。新しい技術が開発され、新しいコミュニケーションの方法がたくさん生み出されています。このような時代において重要なのは、ここで一度立ち止まって、状況を把握するということでしょう。「この新しい技術は、私たちが人間として行動するために助けになるのだろうか？ 良い方向に変わっているのか？」ということを確認する必要があります。インターネットはもちろん中立です。良く使うことも悪く使うこともできます。むずかしいことではありますが、インターネットは単なる技術のおもちゃではなく、社会の目的に資するために作られたのだという、ティム・バーナーズ・リー氏の言葉に立ち返って見るべきでしょう。

チャイルドネットは、1995年にインターネットを子どもたちにとって魅力的で安全な場所にするために設立

チャイルドネット・インターナショナルは、非営利団体です。私は多くの時間を、活動資金の調達のために費やしています。少人数でやっていますが、ミッションは大きなものです。私たちのミッションは、子どもにとって魅力的で安全なインターネットの環境を整えることです。私たち自身を「チャイルドネット・インターナショナル」というのは言い過ぎかもしれませんが。たとえば日本では、まだ活動していません。それでも「インターナショナル」という言葉を敢えて使っているのは、インターネットというメディア自体が国際的なものであり、それに関するポリシーも、国際的なものでなくてはならないからです。インターネットは国際的に共有し、よりよい形で利用していくべきものなのです。今年のチャイルドネット・アカデミーには、40カ国からの応募がありました。インド、ナイジェリア、南アフリカの子どもたちがインターネット上で成し遂げているを見ると、本当に名誉に感じます。

チャイルドネットの活動分野は4つに分けられます。1つ目は、より質の高いコンテンツを提供できるように、そして子どもたちがインターネットをよりよい方向で利用できるようにするための活動です。2つ目は、教育啓蒙活動です。この2つは、広い意味で「インターネットの有用性を推進していくための活動」ということができるでしょう。この点が、今日ここで皆さんに紹介するよう依頼されたことです。このようにインターネット利用の良い面を伸ばす活動を行う一方で、インターネットにおける悪い面への対処を行うといった、バランスのとれた取組みが必要です。私たちの3つ目の活動分野は、インターネット上の子どもたちを保護する活動です。たとえばホットラインを設けたり、不正なコンテンツが掲載されていれば報告したりするといった活動がここに含まれます。4つ目の活動分野は、ポリシーの策定です。3番目と4番目の2つの活動分野は、「インターネットの危険性への対応」にグループ分けできるでしょう。

このように良い面と悪い面に対してバランスをとって取り組んでいくことが、とても大切です。今回、良い面をたくさん紹介してほしいというご依頼を受けまして、大変うれしく思っ

います。多くの場合、危険性について発表してくれという依頼が来るからです。インターネットでどのようなすばらしいことができるのかを紹介し、子どもたちを啓発していくことによって、どのように危険性に対応していけばよいのかも子どもたちに示していくことが私たちの考える方法です。はじめに教育者の方がどのくらいいらっしゃるかを質問したのも、このためです。学校に戻られましたら、今日これからご紹介する事例を元に、子どもたちに、インターネットをどのように創造的に使うことができるかということ伝えていただきたいと思います。

「モバイルインターネットと子ども」に関する国際ワークショップ

インターネット協会と共催した、前回の会議について少しご紹介します。国分理事が述べたように、前回私たちは、モバイルインターネットに関する国際ワークショップを世界で初めて東京で開催しました。このワークショップのレポートは現在も世界中で参照されています。英国政府は、インターネット上での子どもの安全確保に取り組むタスクフォースを立ち上げており、チャイルドネット・インターナショナルもタスクフォースに参加しています。現在、英国のモバイル事業者もタスクフォースの一員となっています。最近、英国のモバイル事業者による、「英国モバイル向け新携帯コンテンツ対応自主規制に関する行動規範」も公表されました²。昨年開催された、モバイルインターネットと子どもに関する国際会議が、この行動規範がまとめられる一つのきっかけとなりました。世界中の関係者に大きなテーマを投げかけ共に考える契機を与えてくれた、インターネット協会の国分氏はじめ関係者の皆様に御礼申し上げます。モバイル事業者は、固定網インターネットでの失敗から学ぶ貴重な機会があります。そして単に法の要求に従うだけでなく、社会的責任を負った者として、子どもたちが安全にインターネットを利用できるように取り組んでいかなければなりません。

変化する子どものインターネット環境

アワード・プログラムを通じて私たちが得た教訓をお話ししましょう。私たちは、この活動を、ネットの「ドット・コム」効果に対抗して、ネットの「ドット・ホープ」効果と呼んでいます。ドット・コムのブームはバブルがはじけてしまいましたが、私たちの活動は、もっと息長く続けていきたいと思っています。スライドに映っているこの子どもたちは去年の受賞者で、他の子どもたちの生活のあり方に影響を与えるようなすばらしいWebサイトを設計しました。

4つのテーマ

私たちが学んだことは、4つのテーマに分類できます。

1つ目は「表現すること (Expressing)」で、子どもたちがブログやオンラインダイアリーを通じて自分たちのストーリーを共有するだけでなく、インタラクティブな、あるいはスタティックなWebサイトを通じた、すばらしい新しい方法によって、自分たちのストーリーを表現しています。

2 “UK code of practice for the self-regulation of new forms of content on mobiles”, 19 January, 2004, <http://www.t-mobilepressoffice.co.uk/company/content-code.pdf>

2つ目のテーマは「参加すること (Engaging)」で、子どもたちが環境問題や社会問題に取り組み、変化を起こそうとしています。子どもたちは、皮肉なものを見方をせずに、インターネットというすばらしいメディアを使って変化を起こせると信じています。これはとても刺激的なことです。今日は皆さんに、いくつか事例をご紹介しますと思います。

3つ目のテーマは「楽しませること (Entertaining)」で、若い人たちが、仲間たちを楽しませるために、自分たち自身で楽しいもの、娯楽を作ろうとしています。子どもたちは、ディズニーやフォックスに飽きているのです。これはエンターテインメントに多様性をもたらず、すばらしい機会だと思います。

4つ目のテーマは「教えること (Educating)」で、子どもたちは自分の Web サイトを仲間たちのための教育啓蒙ツールとして利用したいと考えています。これは多くの教師にとっての真の課題ということにもなるわけですが、ヒントを得る部分もあるでしょう。著述家のティッカネンは、次のようにいっています。「技術によって私たちの生活はシンプルになったが、そのシンプルライフをどうやって生きていけばよいのか、私たちはわからなくなってしまった。」子どもたちのインターネットの使い方を見ていて感じるの、彼らが自分たちの課題、自分たちの Web サイトを、とてもシンプルに保っているということです。おそらくそれが、彼らの取り組みが効果的である理由なのでしょう。

このプレゼンテーションで私は、チャイルドネットにおける活動と技術的な事柄についてお話しします。これはたいへん複雑で、技術的に興味をそそられる、非常にチャレンジングな課題です。多くの人々の参加を促すためには、親御さんたちにも力を与え、一緒に取り組んでもらうためには、問題をむずかしくしてはいけません。あまり単純過ぎてもいけません、簡潔にわかりやすくしていく必要があります。

表現する

ではまず、最初のテーマ、「ストーリーを表現し、共有する」ということについてお話しします。誰でも自分のストーリーを持っています。教師や親にとって重要なのは、子どもたちが自分のストーリーを語るための手助けをしてあげることでしょう。どうしたら、子どもたちは特別になれるのでしょうか。子どもたちが好きなものは何でしょうか。子どもたちにとって、乗り越えなければならない課題は何でしょうか。子どもたちは、ほかの子どもとお互いに自分の経験を語り合うことが上手です。ほかの子どもたちが書いたものを読むのも大好きです。なぜかといいますと、インターネットというメディアは、私たちの違いをよく見せてくれるだけでなく、お互いによく似ているということも教えてくれるからです。ストーリーのなかに類似性を見出すことがよくあります。

私たちの世代は、「もたれ世代 (lean back generation)」です。椅子に深々と座り背もたれにもたれかかって、受動的にテレビを見てきました。しかし今の子どもたちは、「乗り出し世代 (lean forward generation)」です。パソコンやインターネットを使って創造し、表現することを欲しています。そして参加したがるのです。数年前、インターネットの双方向コミュニケーションについて話題となりました。子どもたちは今、双方向コミュニケーション以上のものを欲しています。今では、トースターとも電子レンジともコミュニケーションできます

が、子どもたちは参加したいのです。学びたい、コミュニケーションをとりたいと子どもたちは心から思っているのです。その意味で、Webというのは優れたリソースであるといえるでしょう。インターネットがなければ自分の話ができないような問題を持った人たちにとっては、これはとくに重要です。

ナイティンゲールちゃんという英国の女の子が思い浮かぶのですが、彼女は「閉じ込め症候群 (Locked-in Syndrome)」という難病のために、モールス信号を使ってお母さんに何とか意思を伝えること以外、コミュニケーションできません。ナイティンゲールちゃんがトントンとたたくの辛抱強く聞いて、彼女のお母さんはそれをサイトに書込みしてきました。これにより彼女は、世界中に衝撃を与えたのです。スライドに映っているのは、彼女がアナン国連事務総長と同席している写真です。私たちは賞を手渡すため、彼女をシドニーに招待しました。彼女は「私の家の窓から全世界へ (From My Window)」という Web サイトを通じて、世界中の人たちと話ができるようになったのです。個人のストーリーは非常にパワフルで、問題を提起したり、啓蒙したりすることができます。

これは米国の看護婦さんが運営している “Bandaides and Backboards” という Web サイトです。ここでは、さまざまな障害を持った子どもたちや病気の子供たちが、自分のストーリーを語っています。おどろくほどパワフルです。インターネットでは、本当に素晴らしいことができますが、問題もあります。子どもたちは攻撃にさらされる危険があります。子どもたちが自分のストーリーを語ろうとするとき、それを手伝う立場にある大人たちは、どのような方法が適切かを考えなければいけません。たとえば写真を掲載してもよいのか、本名を出してもよいのか、メールアドレスを公開してもよいのか、これらは必ずしも明確に決められる問題ではありません。メディア・リテラシーの問題にも関わっています。子どもの成熟度や年齢にも関係しているでしょうし、どういう文脈で写真を出すのかということにも関わっています。アメリカのサイトの中には、子どもたちがオンラインでどれだけ危険なことをしているのかということ、ずいぶんセンセーショナルに取り上げているものもありますが、これは憂慮すべきことだと思います。子どもは発展過程の中で徐々に成熟していくということも考えなくてはなりません。そして、自分のストーリーをいろんな人が見るということ子どもたちがどう感じているのか認識する手助けとなるメディア・リテラシーに取り組む私たちにとっては、これは大きな課題です。自分のプライバシーを失う可能性があること、とくにインタラクティブな環境において、自分のブログに他人がコメントを寄せたり、サイトに点数がつけられたりすること等について、子どもたちがどう感じるのか、十分に注意する必要がありますでしょう。

しかし、インターネットが提供してくれる機会は素晴らしいものです。これは、3人のティーンエイジャーがオーストラリアで公開している “Matmice.com” と呼ばれる Web サイトで、2年前に私たちの賞を受賞した Web サイトのひとつです。私たちは、彼らをパリに招待しました。このサイトでは、世界中から 40 万人の子どもたちがアクセスして、写真の代わりにクリップアートを使い、簡単な Web ページ作成キットを用いて、自分たちのストーリーを公開しています。40 万人のティーンエイジャーが集まっているのです。素晴らしいことです。こんなに素晴らしいことができるのです。

参加する

次に、若い人たちがどのように社会的な問題に取り組んでいるかについてお話しします。

多くの若者たちが、環境問題に大きな関心を寄せています。そしてインターネットは、これらの問題に関与する大きなチャンスを与えています。私たちは、過去6年にわたって、子どもたちがインターネットを前向きに利用しようとする姿勢に感嘆し続けています。Webサイトは、若者たちに真の機会を与えています。機会を与えられた子どもたちや若者たちには、ドット・ホープ効果が出ています。

このような機会を提供するネットワークとして、iEARN ネットワークや TakingITGlobal 等がありますが、チャイルドネット・アカデミーでもフォーラムを提供しています。ここでは、子どもたちが過去の受賞者や指導者とコミュニケーションをとることができます。このようなネットワークを成長させていくことによって、次世代を担う子どもたちに多くの機会を与えることができます。

それでは、若い人の事例をビデオクリップでご覧いただきたいと思います。まず、セイラ・ポーラーさんです。彼女の Web サイトは “Cool Kids For A Cool Climate (クールな環境のためのクールな子どもたち)” というものです。

ービデオクリップー

『私は小さい頃から環境に興味を持っていました。初めに、水質汚染についての小さなプロジェクトを作ったのですが、今は気候の変化について注目しています。私のウェブサイトを通じて、多くの人たちに、「こんな大きな問題が起きています。放置していたら、もっとひどくなってしまいます」というメッセージを発信しています。

私のサイトに入ると、いろんな形で木を植えることができます。「木の計算機」というものがありますが、これは、旅行をする人に対して、旅行の際の二酸化炭素の排出量に応じて何本の木を植えるべきかを示すように作られています。これによって、問題を身近に感じられるようになっているのです。

インターネットは賢いなと思います。このメディアは、子どもたちがコントロールできて、自分たちのメッセージを発信したり、読みたいものを選んだりできるのですから。』

私は日本に来る前に、この Web サイトで3本の木を植えてきました。日本への旅行について「木の計算機」で計算しましたら、3本の木を植えなければいけないという結果になったからです。一人の子どもが考えた Web サイトが、これだけ人の気持ち、実感を変えたという、すばらしい事例です。

世界を変えようとする子どもたちを支援するために、私たちにはいくつかの課題があります。このようにオンラインへの関心が高まると、多くの若者たちが、自分たちでも仲間へアドバイスしてあげたいと考えるようになります。ヘルプラインを作る若者たちもいます。彼らがこのような活動を責任を持って行うためには、親や先生たちの援助が必要です。ジーンも、情報の信頼性について熱心に語りましたね。子どもたちが「世界を変えたい、環境問題に関する情報を Web サイトに載せたい」と言ったときに子どもたちが正しい情報を得ること、子

どもたちが言いたいことが的確であることなど、情報の正確性を確保するために私たちが支援をしなくてはなりません。とくに、子どもたちが Web サイトで他の子どもたちに情報を発信しようとするときには、その子の実際の年齢をはるかに越えてエキスパートであることが期待されてしまいます。ですから、彼らは、ジャーナリズムやメディア・トレーニングのスキル、質問に対して適切に回答する方法、学習リソースの作り方などを学ばなくてはなりません。こうしたことを学ぶことが、子どもの発達において、非常に良い刺激になるわけです。情報発信するこうした子どもたちを支援する機会が必要であり、そのために私たちは、子どもの質問に答えて子どもの手助けをするフォーラムを開催しているわけです。私たちはまた、子どもたちがインターネットを前向きに活用していることに対して、メディアが高い関心を持っていることも認識しています。ですから、私たちのアカデミーでは、メディア・トレーニングの機会を設けています。子どもたちがプレスリリースを出したりインタビューを受けたりするときはどうすべきか、どうしたら子どもたちが行っている活動についてメディアの関心をより惹きつけられるか、といった点について手ほどきをしています。

楽しませる

さて次に、子どもたちが自分で作るエンターテイメントについてお話しします。

ティーンエイジャーは子ども扱いされたり、子どもを見下げたような Web サイトを嫌います。ドットコム企業が何百万もかけて若者向けに作った「かっこいい」サイトも、子どもや若者には退屈なだけで、すぐ見るのをやめてしまうという例を多くみます。自分でオンラインの環境を作ろうとしている若者たちは、サイトに十分な信頼性と、真正性を求めています。また、子どもたちは、個人向けでリアルなコンテンツに惹きつけられると思います。Web は、子どもが大人と同じ土俵で戦えるような環境を提供しています。子どもたちは、プロ顔負けのサイトを作っています。学ぶことと遊ぶことの区別がなくなってきました。多くの若者たちは、ゲームの開発、自己表現、コミュニケーションの方法で最先端を進んでいます。若者たちにとって、知識や技能を共有するための多くの機会があり、事実、彼らはそうしたスキルを共有しようとしています。企業であれば、開発した技術は他の企業に見せたくないと考えますが、若者たちはまったく違い、ゲームサイトを共有したり、自分たちの専門知識を共有したりすることにとっても前向きです。

それでは、アンドリュー・フェイ君の例を皆さんにご覧いただきましょう。

ービデオクリップー

『5歳のときから絵を描いていたので、アニメーションを作るのは簡単でした。実際にアニメーション作りをはじめたのは、誕生日にFLASHのソフトをもらってからです。以前は両親の誕生日プレゼントとして、自分で作ったアニメーションをプレゼントしていました。これまでに25本以上の短いアニメーションを作って、Webサイトで公開しています。Webサイトには、塗り絵のページもあります。ここでは、子どもたちがマウスを使ってキャラクターに色付けして、印刷することができます。子どもたち向けのアニメーション作りの指導教材も用意しています。僕は小さいころから人を笑わせるのが好きなんです。だから、Webでこういうものを見てもらって、みんなを笑わ

せるのが最高のやり方だと思っています。笑いは最善の薬だと思っています。』

この子はわずか17歳なんです。17歳で、エンターテインメントの情報源を作っているだけでなく、子どもたちにアニメ作りを指導し、教材をつくり、実際のアニメーションの動きまで例示しています。こんなすばらしい例があるのです。

しかし、ここにも課題があります。

子どもたち、若者たちが、ゲームサイト作りに熱中するあまり、学校をさぼってしまうことがあります。また、このようなスキル・能力を持っているがために、子どもや若者が搾取されてしまうこともあります。チャイルドネットでは、子どもたち、若者たちからコンテンツを提供してもらうときには、パウチャー（クーポン券）で支払いをしています。アンドリューがチャイルドネットのアカデミーサイトに新しいコンテンツを提供してくれたときは、プロと同等の支払いをしました。子どもたちの能力を尊重することが重要で、彼らの熱心さを利用してはいけません。学校でも同様です。彼らの技能をいかに育成し、それをいかに正当に評価するかということが重要です。しかし、ここにも多くの機会があります。学ぶことは楽しいことであり、エンターテインメントに潜在する教育効果を認識しなければいけません。若い人たちは、さまざまなオンライン・コンテンツを作っており、それによってインターネットの世界がますます多様性を増していることは確かです。これは、良いことづくめです。

教える

最後に、4つ目のテーマである、子どもたちがWebサイトを作って仲間の子どもの学習をいかに助けているか、についてお話しします。

日本でも同様だと思いますが、英国では大勢が学校に通っています。学校はブロードバンド接続されており、広い教室で子どもたちが情報通信技術を活用できるようにしています。しかし、友だちのために学習用ツールを作成している子どもたちは、まだそれほどいません。世界の中では、子どもたちが国際的につながりを持ち、他の子どもの読書能力を高めるのを助けてあげたり、クラス内で意見が合わないときにどのように解決すればよいかを話し合ったりという形で、ピア・サポート、つまり仲間同士の支援が実現している地域もあります。こうしたことで、子どもは大いにやる気を起こします。なぜなら、子どもたちは、自分にも何か発言できることがあると感じるからです。このような国際的なつながりを持つということは、とてもすばらしいことです。

昨年の受賞者のひとり、ヘサ・ローバーは、ハリー・ポッターのテーマを中心に、すばらしいWebサイトを作りました。このサイトは、映画がいかにすばらしいかを紹介するだけでなく、ハリー・ポッターの著者、J.K.ローリングと同じようなスタイルで書くことを指導しています。

ービデオクリップー

『私は、ハリー・ポッターの本を通して、子どもたちが読書に夢中になったことに気づきました。そこで、この読書熱を、子どもたちが文章を創作する手助けに活用しようと思ったんです。』

このサイトは基本的に新聞のような体裁になっていて、私は子どもたちをコラムニストとして雇っています。最初は編集者である私一人で作っていましたが、いまでは100人以上の子どもたちがこのサイトに書いています。このサイトに参加した子どもたちは、最初は楽しんでいる子どもだったのに、今では読み書きの能力の面では大人顔負けになったんです。

私は過去7年間、さまざまな病気を経験して、外出もできませんでした。でも、Webを通じて世界中に友だちを作ることができて、もう寂しくないと感じるようになりました。そして、私の小さなベッドルームから何か意味のあることができる、どんなに病気であっても、私の小さな世界から世界に役立つことができると感じるようになりました。』

子どもたちがオンラインで教育者になることについての課題もあります。これは、教師としての私たちにとっての課題でもあります。どうすれば私たち大人は、ステージ上の賢人としてではなく、子どもと対等な立場で助言を与えることができるでしょうか。私たちは、子どもたちがコミュニケーション好きで、情報を共有したがっていることをどのように理解しているでしょうか。子どもたちが質の高いコンテンツを作り、それらのコンテンツがネットワーク上に存在しつづけるようにしなければなりません。先ほどのヘサ・ローバーの例ですと、150人の子どもたちが彼女のサイトで記事を書いているために、ヘサにとってそのサイトを運営することは、フルタイムで仕事をしているようなものです。ですから、バランスが必要です。しかし、多くの機会があることも事実です。その影響は、一生にわたるような大きなインパクトを与え得るものです。

おさらい

さて、ここでちょっと一息ついて、お休みしたいと思います。このような会議に参加しますと、私たちはずっと話を聞き続けることになりますので、英国では、ダウンタイムを設けて、少し間を入れることがあります。これまで私がお話ししてきたことについて、しばらく静かに考えみましょう。同感でしょうか。ご質問はあるでしょうか。

子どもの課題と危険

最後に、子どもたちがインターネットを利用する上での課題と危険性についてお話ししたいと思います。

私は、課題と危険性の話をするときには、いつもこの漫画を紹介しています。この漫画でお父さんは、「インターネットでいちばん危険なことはなんだい？」と子どもにたずねており、子どもたちは、「お父さん。お父さんがインターネットの良いところを忘れて、危険性にばかり注目するところが問題なんだよ」と答えています。ときにはこれは真実です。ですから、今日、子どもたちのすばらしいインターネット利用方法をたくさんご紹介できたことを、本当にうれしく思っています。

しかし、危険は確かにあるのです。

まず、大人と子どもではインターネットの使い方が異なります。大人は、Eメールを使ったり、調査研究のためにWebを使ったり、あるいはAmazon.comで本を買ったり、旅行の予約

をしたりします。しかし、これは非常に静的な、スタティックな使い方です。これに対して子どもたちは、インターネットの双方向性を好み、参加することを欲します。チャットやインスタント・メッセージ、音楽やゲームが大好きです。そして私たちにとっての課題の一つは、子どもたちとインターネットの関わりの状況、インターネットでは何が話題になっているか、あるいはどんなやり方が通用するのかといったこと等の最新の状況を、私たちが本当に知っているか、理解しているのか、ということです。ですから最初に皆さんに、お子さんが携帯電話でどれくらいインターネットにアクセスしているかということを伺いました。お子さんがどれくらいの頻度で使っているか、ご存知ない方もいらっしゃると思います。電話料金の請求書を見てみてください。子どもがどのようにインターネットを使っているかを知るところから始めてください。オンラインでの子どもたちの活動について知る必要があります。そして彼らの技能を評価し、彼らから学ぶ必要があります。しかしこれは親にとって、なかなか厳しい課題です。

2つ目の課題は、子どもが守られていない、監督されていない、フィルタリングソフトの導入されていない環境でインターネットを使う場合です。たとえば、英国のほとんどの学校では、インターネットへのアクセスにフィルタリングソフトが導入されています。しかし、子どもたちはインターネット・カフェや携帯電話、図書館、友だちの家などでインターネットを利用します。ですから、ただ監視するだけではいけません。教育が必要です。先ほどゾーンからも指摘のあった、メディア・リテラシー教育が必要です。子どもたちの頭脳を鍛えなければいけません。インターネットを使うというのはどういうことなのかを、子どもたちにきちんと理解させ、子どもたちがどこでインターネットを使ったとしても、安全性が確保されるようにしなくてはなりません。

インターネットのモバイル化についても課題があります。英国でも日本でも出会い系サイトを通じて、子どもたちが不適切なコンテンツに接しており、また多くの子どもたちが傷ついています。傷つくのは一人でも多すぎるのです。私たちはこの問題を真剣にとらえ、この問題がよりひどくなり得るということを認識しなければいけません。また、子どもたちを守るための、立法上の枠組みや、警察の役割について、積極的に検討する必要があります。技術が融合する中で、安全のためのメッセージについても再考が必要です。チャイルドネットではこれまで、親に対して、「子どもが使うコンピュータはベッドルームに置かずに居間に置くべきである。そうすれば、家族の関係が保てる」というメッセージを出してきました。しかし、子どもたちが携帯電話でインターネットを利用している現在、このメッセージは時代遅れとなりました。現在私たちは、親に対して、「メディア・リテラシーがあることと、生涯リテラシーがあることとは違う」というメッセージを伝えることに力を入れています。たとえば、車の燃焼機関の仕組みがわからなくても、シートベルトを締める必要があることはわかります。技術に関する知識を急速に吸収している子どもたちが、同時にバーチャルな世界での振舞い方を理解しているとは限りません。その意味で、親と教育者は、技術と生きる能力とは違うということを示すという点で、大きな役割を果たさなければなりません。

子どもに迫る危険

子どもに迫る危険は、広い意味で3つの「C」、すなわち「コンテンツ (Content)」「コンタクト (Contact)」「コマーチス (Commerce)」で示すことができます。ポルノ、人種差別、不正確な情報などが、不要な「コンテンツ」です。ますます増えているスパム、脅迫的なメール、チャットルームでの不審人物などは、「コンタクト」に分類されます。英国では子どもがインターネットを介して出会った大人から虐待される事件が毎月1件は発生しています。また、ジーンが指摘したように、プライバシー侵害も深刻です。多くの子どもたちが、広告とコンテンツの違いを区別できていません。

携帯電話では、さらに別の危険性があります。その一つは、子どもたちが監督下にはないということです。また、携帯電話により常にアクセスができる、つまり、常にオンの状態にあるので、誰でも潜在的に接触可能な状態にあります。そのため、自然発生的にさまざまな問題が起こり得ます。たとえば、位置情報サービスは、親が子どものいる場所を知るためにはとても役に立ちます。この位置情報サービスを使って、次世代のゲームでは、対戦相手の居場所を知ることができる場合もあります。子どもたちがその相手に会いたいと思ったとき、このサービスはなんと魅力的に映るでしょう。しかし、その相手が子どもたちを傷つけることもあり得るのです。

時間が来たようですから、私のお話はここまでとさせていただきます。パネルディスカッションの中でお時間をいただければ、私たちの英国での活動、たとえばチラシやポスターを配布したこと、オンラインのロールプレイング・ゲームを用意したこと、チャットデンジャー・ドット・コム (chatdanger.com) というサイトを作ったこと、子どもたちに関するネガティブなニュースへの関心を、親たちにポジティブな行動を求める動きに変えたことなどについて、お話ししたいと思います。インターネットにはどれだけすばらしい潜在性があるか、どのような危険性があるかということについても、より具体的な事例に基づいてお話しできると思います。また、親、教師に対して何を伝えられるか、インターネットを子どもに安全な場所とするために、社会全体が一体となってすべきことは何か、ということについて、お話ししたいと思います。

私のビジョンや情熱について、そして子どもたちがインターネットで何をしているのかということについて、ご理解いただければ幸いです。

ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

質問者

昼間はプロバイダ向けのフィルタリングサービスの開発と研究を行い、夜と週末にはボランティアで、インターネット上でのトラブルに関する質問への回答をしています。トラブルに関するこのWebサイトは1998年に設立され、昨年までに200万のアクセスがありました。そのなかで、2001年を境に、サイトに寄せられる質問の質が大きく変わりました。2001年に何が

あったかといいますと、ちょうど携帯電話が普及し、携帯電話からのインターネットアクセス、およびメールの利用が非常に簡単になりました。そのことで、質問者の世代が大人から子どもに移動してきました。それ以降、「子どもが金銭的なトラブルに巻き込まれた」とか、女性が「出会い系サイトを介してトラブルに巻き込まれた」というような、危険度の高い事件の相談が増えてきました。私も回答できる範囲が限られていますので、2年前から、インターネット協会のホットラインに参加しまして、私が回答できない質問については横のつながりで回答しています。

1つ目の質問は、チャイルドネットは1995年から活動しているとのことですが、英国でのインターネットに関する事件は、今日までにどのように変化してきたか、ということです。2点目ですが、私は現実を目の当たりにしてきましたが、日本では、携帯電話からのWeb利用の普及によって状況がガラリと変わりました。モバイルで子どもが事件に巻き込まれることに対して、対策されているのでしょうか。この2点について質問させてください。

デイヴィス

ありがとうございます。1998年以来、さまざまな質問に答えているということですが、非常に有益なことだと思います。おっしゃるとおり、質問の内容は変わってきています。携帯電話でより簡単に通信できるようになっており、そのために質問もたくさん来るようになりました。子どもたちは、学校や家庭を離れてインターネットにアクセスできるために、有害なものに接する機会も増えています。

英国での変化についてのご質問に関してですが、まず、さまざまな側面で進展があります。まず、ホットラインに関していえば、インターネット・ウォッチ・ファンデーション（IWF：Internet Watch Foundation）³はより知名度を増し、より多くの不正なコンテンツに対応できるようになってきています。海外からの不正コンテンツもありますので、これに対応するためには国際的な協力が必要になります。そのためチャイルドネットは、ヨーロッパ各国のホットラインの連携のために、INHOPE（the Internet Hotline Providers in Europe Association）⁴を設立しました。この団体には、日本のホットラインのメンバーも参加しており、大変うれしく思っています。ホットラインはとても重要です。関係する業界にも、一定の役割を担ってもらう必要があります。つまり、不正なコンテンツを見つけたらWeb上から削除し、警察に届け出ようということ。英国では現在、このような動きが広がっています。これが現在、英国で起きていることであり、こうした動きが広がっている点について、私はうれしく感じています。

それから、法律面での対応も進んでいます。チャイルドネットの働きかけと、残念ながら英国では子どもたちが実際に傷つけられて裁判に至るような事件が多いものから、政府が法律の見直しを進めています。そして、性犯罪法（Sexual Offences Act）が成立し、性的な犯罪への対応が法的に取れるようになりました。誰かがWeb上で、性的な意図を持ってコンタク

3 <http://www.iwf.org.uk/>

4 <http://www.inhope.org/>

トをとろうとしている証拠を警察がつかめば、起訴ができるようになったのです。もちろん、証拠は必要です。警察がより積極的に動けるようになったことは、歓迎すべきことです。

3番目は、政府や業界の認識も、安全確保のためにより大きな役割を果たそうというものに変わってきたということです。1960年代、自動車の安全性について取り上げたとしても、アメリカの自動車メーカーはそんなことは知りたくもありませんでした。ただ売ればいいという方針で、シートベルトもエアバッグも用意しませんでした。しかし現在では、販売計画の一部として、「わが社の車は安全です」とアピールしています。マクドナルドもそうです。「コーヒーは熱くなっていますので注意してください」と書いてコーヒーを売っています。安全が、大きな問題になったのです。道路を提供するだけでなく、「ここは危険なカーブですよ」とか「徐行してください」という標識も必要なのと同じです。

英国では、教育啓蒙活動が盛んになっています。映画やラジオの広告を通じて、あるいはマスメディアを通じて、広報活動が行われています。また、ここでも関係業界が一定の役割を担っています。私たちは、他の団体と一緒に英国の内務省タスクフォース（Home Office Task Force on child protection on the internet）に参加し、若者向けのインタラクティブサービスを提供する事業者に対し、優良サービス事例の提案を行っています。そのため、これらの事業者のサービスにおいては、「インターネット上で出会った人には決して会ってはいけません」とか、「個人情報公開してはいけません。インターネット上の人々が皆正直だとは限りません」「添付ファイルを開けてはいけません。ポルノやスパム、売り込み広告かもしれません」というようなメッセージが常に表示されています。パネルディスカッションの中では、若者たちに対して、注意深く危険を知らせる方法についてもご紹介したいと思います。

このように、英国では多くのことが成されてきています。しかし、あなたが行っている活動が重要であることは変わりません。ヘルプラインには、ホットラインとは違った役割があります。ホットラインが不正なコンテンツにしか対応できないのに対して、ヘルプラインは、より具体的なコンテキストや社会的な関係についても対応できるのです。

クリスティーヌ

あとでパネルディスカッションに出ます、マリ クリスティーヌです。英国の新聞を見ますと、インターネットでの子どもに対する犯罪が扱われるときには、そのときのニュースだけでなく、その後どうなったか、ということが継続的に掲載されています。日本の場合は一回こっきりということが多くて、どのように解決されたのかとか、その後どのようなフォローがなされたのかということはあまり見るできません。なぜ英国では、これらのニュースに関して、そこまでたくさんのスペースを割けるのかということをお聞きしたいのがひとつです。

もうひとつは、地球儀を持っていた男の子の写真のところで、世界が自分の手の中にある、というお話がありましたが、英語というのはインターネットを利用する上で非常に重要なツールとなっており、英語ができないと世界が自分のものにならないという印象もあります。英語について、あるいはインターネット上の言語についてどうお考えか、お聞きしたいと思います。

デイヴィス

世界の英語を話す人たちを代表して、お詫び申し上げます。英語を話す私たちは傲慢ですね。グローバルなメディアが、最小公分母として英語を使っているという点は、おっしゃっております。チャイルドネットでは、ホームページを、スペイン語とフランス語とドイツ語に翻訳しています。また、Bable Fishのような翻訳プログラムはますます高度化しています。ご指摘いただいた、言語と文化的な帝国主義は非常に重要な点であると思います。私はこの点に関してのエキスパートではありませんが、あなたのおっしゃったことは重要であることを確認し、この点が課題であると認識したいと思います。中国の人々のインターネット利用が増えていきますと、多くの方が英語以外の言語を話すわけですから、言葉に関して実際に衝突が起こるのではないかと思います。多数派の言語は変化し、アメリカでさえも英語以外の他の言語が使われるようになるでしょう。

もう一方のご質問についてですが、英国の文化においては、子どもたちの権利には非常に高い関心が寄せられます。この点についても、私は専門家ではありませんが、2、3のコメントができます。まず、英国では残念ながら、セックス、技術、子どもが非常に注目されます。これらに関する記事で、新聞が売れるのです。危険についてオーバーに、センセーショナルに記事が書かれます。関心があることはよいのですが、過剰反応した読者が、どこにでも小児性愛者がいると思ってしまうのは問題です。

英国には歴史的な背景として、子どもたちを大切にす文化が存在することは事実です。日本では状況が違っていると知りました。日本では、6歳児が電車に乗って学校へ行くことを許されています。このようにヤングアダルトとして扱われている子どもたちが、大人になったら年長者に対して従順になり、彼らの下の世代よりも保護されているというのは、私にとっては不思議なことです。しかし、これは興味深い文化的な問題です。英国では、社会の変化につれて犯罪が増えてきていると思います。英国で、また日本でも、家族が崩壊しつつあるという中で、弱い子どもたちの権利を大切にしなければならないと思います。私たちは責任を持って活動していかなければなりませんし、技術は前向きに創造的に活用しなければいけません。また、リスクがあるならば、それを真剣にとらえなければなりません。日本では、これらの問題をメディアに取り上げてもらうのは、英国よりもむずかしいのかもしれませんが、しかし、真剣に取り組んでもらえる記者を探して、ニュースだけでなく、3、4年後にどのような問題が起こり得るのかということに関する特集記事を書いてもらうことはできないでしょうか。こうした記事によって、この問題に対する社会的な関心を喚起することができるでしょう。また、親に対して、携帯電話によるインターネットアクセスを有効利用し、子どもの安全を保つ方法は、とても限られているということを伝えることができるでしょう。

私の答えは十分ではなかったかもしれませんが、限られた経験の中からお話をさせていただきました。

THE CHANGING FACE OF THE INTERNET

変化する子どもたちのネット利用

Challenges and opportunities for children & young people
その有用性と危険性を考える

STEPHEN CARRICK-DAVIES
CHILDNET INTERNATIONAL
スティーブン・キャリック・デイヴィス
チャイルドネット・インター・アソシエイト

財団法人インターネット協会
Internet Association Japan



1

THIS PRESENTATION

- 1) Intro to Childnet's work
チャイルドネットの活動紹介
- 2) Changing opportunities for C&YP to create
子どもの創作の機会の拡大
 - 事例1 Examples from Childnet's Academy program
- 3) Changing challenges and risks for C&YP + responses
子どもに関する課題と危険、その対処
 - 事例2 Examples of Childnet's Awareness programs
- 4 Questions 質問



2

1 Intro to Childnet's work

チャイルドネットの活動紹介

3

"The web is more a social creation than a technical one. I designed it for social effect - to help people work together - and not as a technical toy. The ultimate goal of the web is to support and improve our web like existence in the world..... We have to ensure that the society we build with the web is the sort we intend."

Tim Berners-Lee Weaving the Web 1999

4

Childnet International
Childnet is a charity established in 1995 to
チャイルドネットは、1995年に

"Helping to make the Internet a great place for children."
インターネットを子どもたちにとって魅力的で安全な場所にするために設立されました

Access

Awareness

Promoting the positive
有用性の促進

Protection

Policy

Responding to the negative
危険性への対応

5

JAPAN MOBILES CONFERENCE

「モバイルインターネットと子ども」に関する国際ワークショップ

- The first international cross sectoral Expert's meeting in Japan looking at mobile internet and Children.



- UK Government Home Office Task Force on Internet Safety.



- UK Mobile Operators Code Of Practice



6

2 Changing opportunities for children
 変化する子どものインターネット環境

Lessons learnt from our Childnet Awards Programme 体験や教訓
 Rewarding young people who are using the Internet for good – The "DOT HOPE" effect of the Net.
 「ドット・ホープ」効果




7

FOUR THEMES (4つのテーマ):



EXPRESSING.....and sharing stories
 表現する

ENGAGING..... and changing the world
 参加する

ENTERTAININGand having fun
 楽しませる

EDUCATING....and helping their peers
 教える

8

1) EXPRESS - "I want to tell my story"

表現する

✓ "Lean back or lean forward?"
 Participation not just interaction
 交流するだけでなく参加する

✓ Gives those who are excluded a powerful voice
 声を発することができない人々に声を

✓ Personal stories are very powerful and can challenge and educate
 個人のストーリーには、非常に力があり、問題を提起し、啓蒙する

Example: Pauline Yeung



9

1) EXPRESS - "I want to tell my story"

表現する

CHALLENGE 課題

- Children can be vulnerable
- Media literacy – helping C&YP to discern

OPPORTUNITIES 機会

- Safe environments for C&YP to create and express.

Example: Matrice



10

2) ENGAGE "I want to change the world"

参加する

✓ Gives C&YP a real opportunity to engage in real issues
 子どもに、社会問題に取り組む機会を与える

✓ Links to other like minded C&YP and networks.
 子どもに、同じ考えをもつ仲間とのつながりを持たせる

✓ A powerful instrument of change in the hands of the next generation
 変化のための強力な道具が、次世代の人々の手の中にある

Example: Sarah Bowler



11

2) ENGAGE - "I want to change the world"

参加する

CHALLENGE 課題

- Following through and offline responsibility
- Reliability of information and "helpline" ?

OPPORTUNITIES 機会

- Strengthening networks through the Academy forum
- Working with the media (and not being used by it).



12

3) ENTERTAIN - "I want to have fun online"

楽しませる

- ✓ Level playing field and easier to produce professional looking resources
公平な土俵で、プロなみのリソースを構築しやすい
- ✓ C&YP at the cutting edge of using the new technologies and games
子どもは、新技術とゲームにかけては最先端をいっている
- ✓ Tremendous opportunities to share skills online - crossing boundaries and language
オンライン技術を交換し合う機会は豊富 - 国境を越え言語の壁を越える



Example: Andrew Fei

13

13

3) ENTERTAIN - "I want to have fun online"

楽しませる

CHALLENGE 課題

- C&YP becoming addicted and missing out on school work.
- C&YP being exploited because of their skills and abilities

OPPORTUNITIES 機会

- Learning can be fun!
- Recognise the educational potential of entertainment.



14

14

4) EDUCATE - "I want to help my peers learn"

教える

- ✓ C&YP can be the best teachers
子どもは、最高の教師になり得る
- ✓ Brilliant motivators for other children
他の子どものやる気の源となる
- ✓ Opportunities to help those excluded or without access to good peer support.
インターネット接続ができない、仲間によるサポートのない人々を支援



Example: Heather Lawler

15

15

4) EDUCATE - "I want to help my peers learn"

教える

CHALLENGE 課題

- Threat to teachers - how do they turn from "Sage on the stage" to "guide on the side" ?
- Quality Assurance and sustaining network

OPPORTUNITIES 機会

- C&YP can change make lasting impact

Example: Bullying.org



16

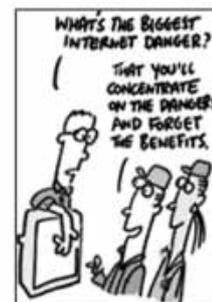
16



17

3 Changing challenges and risks for children

変化する子どもの課題と危険



18

THE DANGERS TO CHILDREN

子どもに迫る危険



19

MOBILE OPERATOR'S CODE OF CONDUCT (Draft)

Independent classification framework for new commercial content

Will it cover "contact" services (CHAT?)

Parental Controls

Commonality of language and user interface (work together)

Combating malicious communications

Bullying, SPAM, barring tools?

Combating illegal content

We commend attention they are giving to this issue (IWF)

Awareness and greater advice on products

Targeted at audience using different channels (inc on the mobile)

20

20

Content
コンテンツ

INACCURATE CONTENT

情報が不正確なコンテンツ

- Spoof sites なりすましサイト
- URL mimickers eg 紛らわしいポルノ誘導ドメイン www.microdofit.com
- Historical revisionist material 歴史修正主義者によるコンテンツ
- Inaccurate health information 不正確な健康情報



21

21

Contact
コンタクト

Interactive services online

対話型オンライン・サービス

- Chat – IRC & web based チャット: IRCとウェブ・ベース
- Instant messaging – portals & ICQ インスタント・メッセージ: ポータルとICQ
- Games – MOO, MUD, MUSH etc ゲーム
- Cyber sex サイバー・セックス
- Mobile chat/games モバイル・チャット/ゲーム



22

22

ONE FAMILY'S STORY..

ある家族の話

"My daughter was contacted starting in February this year by a pedophile whilst using a chat room. He quickly moved to e-mail and shortly afterwards sent her pornography, purporting to be pictures of himself. My daughter was just 12 at this time.

After grooming her for some weeks, he made telephone contact and eventually persuaded her to miss school and meet him.

In total, he met her five times and took her back to his flat where she was sexually abused...

... I have worked in the computer industry for 18 years, latterly with the Internet, and had no idea what went on in these chat rooms. Surely there is some regulatory body that can make the ISPs monitor at least the teenage chat rooms to make sure kids aren't in danger.... Perhaps you can offer some guidance?"

June 2000 23

23

CHILDNET'S RESPONSE

チャイルドネットの対応方法

- Aimed at chat users and parents
- Over 3,000 questions
- Cartoons and a chat safety banner in open source html
- Simple non-technical language for parents
- Updating shortly



www.chatdanger.com

24

24

Commerce
 コマース

Subtle Pressure
 目に見えない圧力

- Blur between much content & advertising
- Subtle request for information (games, auctions competitions)
- Collection of information makes net marketers dream
- Many parents unaware of dangers



25

25

What is changing ?
 何が変化しているのか？



Constant change is here to stay !
 常に絶え間ない変化の波！

26

26

ADULTS + CHILDREN ARE USING THE NET IN DIFFERENT WAYS
 大人と子どものインターネット利用状況の差異

PARENTS
 親
 Mostly e-mail and web for research

DO YOU KNOW HOW YOUR CHILD USES THE NET ?
 子どもがどうやってインターネットを使用しているか知っていますか？

YOUNG PEOPLE
 子ども
 Interactive chat, IM, Music, Games,

WE NEED TO BE INVOLVED IN OUR CHILDREN'S ONLINE ACTIVITY, VALIDATE THEIR SKILLS + LEARN FROM THEM
 私たちは、子どもたちのオンラインでの活動を放任せず、子どもの技術を確認し、子どもたちから学ぶ必要があります

27

27

SUPERVISED/UNSUPERVISED ACCESS POINTS
 監督/非監督の接点

IN SCHOOL
 学校
 Generally, supervised, protected and monitored

WE NEED TO DO MORE THAN SUPERVISE— WE NEED TO HELP EDUCATE
 私たちは、監督するだけではいけません。子どもの教育の手助けが必要です

OUT OF SCHOOL
 学校以外
 Often no filtering, supervision or monitoring

CHALLENGE = to ensure that children are safe wherever they use the Internet
 課題 = 子どもがどこでも安全にインターネットを使用できること

28

28

CONVERGENCE + THE NET GOING MOBILE
 技術の融合 + インターネットのモバイル化

Fixed location for access eg home/school
 固定された接続場所
 例、自宅/学校

Already some children are receiving abusive/hoax txt messages
 既に虐待やいたずらのメッセージを受け取っている子どもたちもいます

Increasingly mobile
 増加する携帯電話

As technologies converge we need to review the safety messages
 技術の融合が起きつつある今、安全性のメッセージの再考が必要

29

29

THE DIFFERENCE BETWEEN NET LITERATE + LIFE LITERATE
 ネットの知識と生活の知恵の違い

KNOWLEDGE
 知識
 Many children pick up technology quicker!

HELP YOUR CHILDREN TO UNDERSTAND THE CONTEXT
 子どもが文脈を判断する手助けをしましょう

WISDOM
 知恵
 Understanding how to behave in a virtual world

TECHNOLOGY IS THROWING UP NEW IMPORTANT SAFETY ISSUES WHICH CHILDREN MAY NOT SEE
 技術は、子どもたちにはわからない、新たな重要な安全上の問題を生み出している。

30

30

EFFECTIVE AWARENESS

効果をもたらす認識

Main principles for success.

<p>1</p> <p>Identify different audiences 様々な閲覧者を特定すること</p> 	<p>2</p> <p>The need for both offline & Online オフライン・オンライン両方で対応すること</p> 	<p>3</p> <p>Engaging, Relevant and Timely 魅力的、直接的、タイムリー</p> 	<p>4</p> <p>Cross-sector approach 異なる分野の歩み寄り</p> 
--	---	---	--

31

31

1 Identify audiences (閲覧者を特定する)



A practical internet safety advice 実際的なインターネット上の安全のためのアドバイス

Resource for schools that focuses on 5 key "SMART" Safety Tips which children need to remember when they use computers at school and out of school.

5つの「正しい」安全上のヒント

KEY FOCUS = SCHOOLS



Supporting teachers in their work with pupils + parents

32

32

The Audience for Safety messages

安全上の注意の対象者

<p>PUPILS (8-13 year olds) 生徒(8~13歳)</p> <p>- formative stages</p>	<p>Seeking to influence behaviour rather than just inform</p>
<p>TEACHERS +ICT Co-ordinators 教師</p> <p>- Providing resources & learning</p>	<p>Helping deal with these issues outside of classroom (education and supervision) + resources</p>
<p>PARENTS 親</p> <p>- Need support in addressing issues with their children</p>	<p>Vague about children's online use (Creating a safe comfortable environment).</p>

33

33

2 OFFLINE RESOURCES – Leaflets

オフラインのリソース: 冊子

- Simple
- Engaging (cartoons)
- Endorsement from media
- Over 1 million printed.



"The internet is great fun and a brilliant way to keep in contact with friends. However, it is really important that we all use the Net safely and always remember these SMART rules to stay safe online."
Ant and Dec




34

34

2 OFFLINE RESOURCES – Lesson & activities

オフラインのリソース: 授業 & 様々な活動

- Educationally relevant
- Ties in with curriculum
- Vital to engage not just educate
- Showcase children's examples.






35

35

3) ENGAGEMENT - Parent's seminar

参加: 親のためのセミナー

- Face to face
- Simple advice about blocking and filtering
- Important to do it at school level
- Helping empower parents





36

36

3) ENGAGEMENT – Interactive resources
 参加: インタラクティブなリソース



Linking pupils with safety officers on a real-life role play in real time.



37

37

4) Cross sector approach
 異なる分野の歩み寄り

Education 教育



Teaching about out of school use and responsible, creative use
 学校以外でのインターネット使用、使用に伴う責任、創造的な使い方を教える

38

38

4) Cross sector approach
 異なる分野の歩み寄り

Education 教育



Industry 産業

Effective advice
 効果的なアドバイス
Best practice in interactive services
 対話型サービスの最良実施

39

39

4) Cross Sector approach
 異なる分野の歩み寄り

Education 教育



Reaching wider audience
 より多くの利用者への歩み寄り
Not sensationalising
 センセーショナルでなく
Promoting positive
 ポジティブな奨励

Media メディア

Industry 産業

40

40

4) Cross Sector approach
 異なる分野の歩み寄り

Education 教育



Media メディア

Industry 産業

Pressure on all sectors
 全分野に対するプレッシャー
Looking ahead and innovating
 将来を見据えながら技術革新を
Children's rights
 子どもの権利

Non-profit sector
 非営利分野

41

41



42

Questions ? 質問



www.childnet-int.org

...with links to all of Childnet's projects

43

パネルディスカッション： 子どもが楽しく安全に使える インターネット環境構築について考える

コーディネータ挨拶

赤堀侃司氏

東京工業大学大学院社会理工学研究科教授

本パネルディスカッションでは、フロアの皆様とパネリストの皆様で、安全に、また楽しくインターネットを活用する方法について考えていきます。できるだけ多くのインタラクティブなやり取りができるよう、それぞれの皆様が発言する機会の頻度をなるべく高くしていきたいと思っています。お手元の資料にパネリストの皆様のプロフィールがございますので、ご覧いただければと思いますが、ここではお名前だけご紹介させていただきます。ポーリー様とデイヴィス様はすでにプレゼンテーションしていただきました。マリ クリスティーヌ様、どうぞよろしくお願いいたします。その横にいらっしゃるのが、日本PTA全国協議会監事の藤田様です。よろしくお願いいたします。それから、初めにご挨拶をいただきましたが、インターネット協会の副理事長、国分様です。よろしくお願いいたします。最後になりましたが、私、コーディネータ、司会をさせていただきます、東京工業大学の赤堀と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本フォーラムの内容、ミッション、目的等については、すでに国分様からご挨拶をいただき、おわかりいただいていることでございますので、細かいことは申し上げません。ただ、私、デイヴィス様のお話に大変興味を持ちまして、質問しようかと思いましたが、フロアからたくさんのお質問が出ましたので、デイヴィス様には、パネルディスカッションの中でも、先ほど言い足りなかったところや追加の資料などについてお話しいただき、そこでやり取りをさせていただきたいと思います。

はじめに、各パネリストの皆様方にお話をいただきます。それぞれ持ち時間15分のなかで、10分から12分プレゼンテーションをしていただき、残りの時間を質疑応答にあてるという形で進めたいと思います。最初のご発表者はPTAの藤田様です。PTAでは非常に大規模で詳細な調査をしまして、藤田様には、この調査に基づき、親がインターネットに対して持っている感覚や意識と、子どもの持っている感覚や意識との間にはどのような差があるのかという点についてお話をしていただきまして、それからクリスティーン様に続けていただくという順番で進めさせていただきます。

それでは、藤田様、よろしくお願いいたします。

藤田猛氏

社団法人日本PTA全国協議会監事

ただいまご紹介いただきました、日本PTA全国協議会監事の藤田です。日本PTAのインターネットに関わる活動の現状につきまして、皆様にご報告したいと思います。

日本PTAでは毎年、PTAの全国組織として、PTA会員と子どもたちを対象にテレビその他のメディアについてのアンケート調査を行っています。PTAの活動について申し上げますと、古くは、「8時だよ！全員集合」等が話題になってテレビ局に放送内容の改善を要請したり、近年においては、日本民間放送連盟様との協調のもと、子どもたちがテレビをよく見る夕方の5時から9時の時間帯には消費者金融のコマーシャルを極力流さないようにしていただいたりしてきました。こうした事柄について、われわれPTAの実績としての自負を持っております。

そういった経緯もあり、ここ数年は毎年、日本民間放送連盟様と協議する場を設けさせていただいております。今回ご紹介いたしますデータの元となる部分も、テレビメディアに関するアンケートの一部であるということをつけ加えさせていただきます。

それでは、調査概要についてご覧ください。

この調査は、2003年11月4日から12月12日の間に行われました。調査地域は日本全国で、各都道府県、政令指定都市ごとに小学校、中学校を選定し、小学5年生、中学2年生の「ある1クラス」の全員とその保護者を調査対象者として抽出しています。12月12日時点での有効回答数は、小学5年生2,422人、中学2年生2,588人、およびこれら児童の保護者であるPTA会員4,812人で、今回ご報告するのは、中間報告ということで、保護者の回答のみの集計結果となっています。

自宅のパソコンのインターネット接続状況ですが、これは、ブロードバンドの時代と言われてここ数年急速に発展してきたネットワーク環境を如実に表している資料と言えるのではないのでしょうか。平成13年度から15年度の2年間で、「接続されている」という回答が57.9%から77.1%に、約20%増えています。これに対し、「接続されていない・自宅にパソコンがない」という家庭は、20%台となっています。全体の5分の4のご家庭にはすでにインターネットに接続されたパソコンが設置されている状況であるということがご確認いただけたと思います。

次に、インターネットの接続状況と、そこに関わる親子の意識の違いについてです。これは親の数字ですが、「よく知っている」と「だいたい知っている」を合わせますと80%に近づこうかという状況です。しかし一方で、「聞いたことがある」あるいは「知らない」という方が4分の1いるということに対しては、やはりある意味での危険性を考えなければいけないのかなと思います。つまり、親がよくわかっていない状況で、子どもたちの知識がどんどん進んでしまっているという点を、よくご理解いただきたいと思います。先ほどデイヴィス様より、英国では100%に近い公立学校がインターネットに接続されているというお話がありましたが、日本でも、ほぼ同様です。文部科学省のホームページに公開されている資料によれば、小学校の99.4%、中学校の99.8%、つまりほぼ100%の小中学校にパソコンがあり、かつインターネットに接続されています。これは、2000年のミレニアム予算の下で、設備の拡充のために文部科学省の皆様にご尽力いただいた結果の数字であり、われわれも非常に喜ばしい数字だと思っています。これに反して、親の意識が低い、25%の方が理解できていないという状況にあるということ、皆様にもよくよくご理解いただきたいと思います。

次に、子どものインターネット利用状況について親がどのように理解しているか、という点ですが、「勉強のための情報を入手している」という回答が、「趣味や娯楽のための情報を入手している」の次に多くなっています。このデータは、「勉強に活かしてくれればいいな」とい

うような親の希望が反映された回答と考えるとよいのではないかと思います。

次に「アダルトサイト等が使えることの認知」については、「知っているが、見たことがない」と回答した親が70%以上ということで、まだまだ親のほうの意識が低いのかなと感じています。

「子どもが出会い系サイトを利用したことがあると思うか」という質問に対しては、「思わない」が91.1%となっていますが、この数字には、親の「そうしてほしくない」という希望が反映されていると思ったほうが正しいのではないかと思います。と申しますのも、先ほども話題になりましたけれども、昨年、出会い系サイト規制法（正式名称：インターネット異性紹介事業を利用して児童を誘引する行為の規制等に関する法律）が制定されましたが、この背景には、子どもたちが出会い系サイトを通して犯罪に巻き込まれるケースが非常に増えてきているという実態があります。これに関しまして、私も委員を務めております日本PTAの環境対策委員会では昨年度、いわゆる携帯電話3社といわれますNTTドコモ、KDDIのau、Jフォン（現ボーダフォン）に対して、自主規制の要望書を提出致しました。

「子どもがアダルト画像等を見ることについての良否」については、言うまでもなく、当然見せたくない、あるいは見てほしくないものです。しかし、「わからない・どちらともいえない」という数字が14%前後で推移しているというのは、どうとらえていいものか、悩ましく感じた部分でもあります。全体の6分の1くらいの方が、見てもかまわないと思っておられるのではないかという危惧を感じています。出会い系サイトから犯罪で、被害者となった子どもの親でもおかしくないような年齢の大人が加害者になっているという現状を考えますと、危険性を高く感じます。

「子どもが出会い系サイトを利用することの良否」という質問につきましては、これは言わずもがなで、われわれが補足すべきことは何も無いと思います。当然親は「いけない」（93%）と考えているというのがおわかりいただけだと思います。

最後に、フィルタリングソフトについてですが、先ほどデイヴィス様からもお話がありましたように、子どもが利用できる環境にあるパソコンでコンテンツがフィルタリングされているか、ということが問題になります。学校側では若干注意をしてくださっていますけれども、まだまだ十分ではありません。また、親のほうは7割がフィルタリングソフトを「知らない」と答えています。現状は危険極まりない状況にあるということがおわかりいただけだと思います。フィルタリングソフトにつきましては、後ほど国分様から詳細に説明していただきたいと思います。

最後のスライドは、われわれが昨年、つまり2003年3月6日にNTTドコモ様に提出致しました要望書です。携帯電話につきましては、今年も環境対策委員会の中で話し合いを続けていきます。子どもに携帯電話を持たせない、ということができなくなってきている現状を考えたときに、どのような使い方をさせたらよいのかということを検討しています。

以上で、私の発表を終わります。どうもありがとうございました。

赤堀

今の藤田様のお話について、パネリストの中で何かご質問やコメントなどありましたら、手

を挙げていただきたいと思います。いかがでしょうか。

ないようですので、私のほうから1つ、質問させてください。先般、別のフォーラムで国際基督教大学の佐々木先生からご紹介いただいた数字なのですが、男子高校生、女子高校生の中で、携帯電話から出会い系サイトにアクセスしたことがある割合が20～30%ありました。そして、その中で実際に相手に会ったという割合が、40～50%あったと思います。ところが、先ほど藤田様からご紹介いただいた統計では、90%以上の親が、自分の子どもは出会い系サイトを利用したことがないと思っているということでした。ここに大きなギャップがあるということにおどろきました。

また、PTAから「子どもに携帯電話を持たせないでほしい」という要望書をNTTに出したというお話もありましたが、いろいろ聞いて見ますと、子どもに携帯電話を持たせたいという親御さんも結構おられるようです。このあたり、ズレがあるように感じますが、この点について教えてくださいませんか。

藤田

私たちは、「子どもに携帯電話を持たせない」という前提で要望書を提出したわけではありません。危険があるようなサイトに簡単に接続できるような機種を提供してくださらなくても結構ですよ、という申し入れをしたのです。しかし、それでもご商売ですからむずかしいのかなと感じますけれども、なかなか受け入れていただけていないというのが現状です。

赤堀

わかりました。ありがとうございました。

それでは、質問はここまでとさせていただきます。フロアの皆様からは後ほど改めてご質問いただければと思います。

2番目は、藤田様の隣に座っておられます、マリ クリスティーヌ様、たいへん著名な方です。お話をお願いしたいと思います。

マリ クリスティーヌ氏

アジアの女性と子どもネットワーク代表

国連八ビタット親善大使

今日私は、アジアの女性と子どもネットワークの代表という立場で、お話をさせていただきます。アジアの女性と子どもネットワークは1996年に設立されました。タイの山岳民族の子どもたちの教育支援をしています。企業から毎年寄付をいただきまして、学校建設を進めています。昨年までに6校の学校が建設されて、2,500人以上の子どもたちがその学校の中で勉強しています。今年7校目が建つ予定です。

私たちがなぜこのような活動をしているかといいますと、ちょうどバブル期のあとに、タイでも経済的に困難な時期に入りまして、子どもたちが売られることが多くなりました。私たちは、子どもたちが将来仕事に就けるように教育の場を作ることによって、この問題を緩和できるのではないかと思います。教育支援の活動を始めたわけですが、活動し始めてからわかった

ことですが、タイの山岳民族の子どもたちや、アジアの貧困な地域に住んでいる子どもたちは、いろんな形で性的、商業的搾取をされています。インターネット上でも彼らの写真が児童ポルノとして掲載されて搾取されていまして、そこで私たちもこの問題に関わるようになりました。

当初日本には、児童ポルノを取り締まる法律がありませんでしたから、ユニセフやECPAT/ストップ子ども買春の会などと一緒にいろんな活動をしてきましたが、とくに私たちは、日本における外国人コミュニティのサポートに力を入れてきました。それは何故かといいますと、東京にフランシスカン・チャペル・センターという教会がありまして、そこに行っていた外国人のご家族のお子さんが2人、日本でモデルとして活躍していたのですが、ある日そのご両親が、あなたたちは子どもを虐待している、インターネット上に子どもたちの裸の写真が公開されるのをなぜ許しているのか、と言われまして、おどろいてそのサイトを見てみますと、その子たちの顔が、他の子どもの体にすりかえられて、ポルノ写真として販売されていました。フランシスカン・チャペル・センターには子どもたちをサポートするグループがあるのですが、これは何とかしなければということで、取組みを始めまして、私たちも、日本に早く児童買春をしている大人を取り締まる法律ができてきたほうが良いということで、法律の成立を求めて国会でロビー活動などをして議員さんに働きかけました。

また、実際に法律が上程されてからは、国会議員に対して、私たちの会からばかりではなく、外国人コミュニティから5,000通の手紙をFaxで送り、一国も早く審議を始めて欲しいと訴えました。そうしましたら、外国人からの反響が強かったということも含めて、停滞していた法案の審議が動き始めました。法律の成立には、私たちの活動の影響もあったのではないかと思います。

このような経緯から、私たちも子どもの商業的性的搾取の問題に関わるようになりました。先ほど国分先生からお話がありましたように、2001年に横浜で子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議が開かれましたときに、アジアの女性と子どもネットワークでは、援助交際に関するワークショップを開催しました。援助交際と児童買春は、大人が子どもを買うという点ではまったく違いがありません。発展途上国で食べていくために親が子どもを売ってしまうということと、豊かな生活をしている子どもたちが自分の身を売ってまでもブランド品を手に入れたがることとは一見違いがあるように感じますが、行為自体は変わらないわけですから、同じように子どもへの搾取です。子どもたちがセルフ・エスティーム（自尊心）や自分たちの価値を感じられなくなっていること、子どもたちが受けている心の傷も同じです。

ワークショップの前に、日本ではどのような状況なのかということ調べるために、横浜市の中学2年生と高校2年生、それにその保護者の合計2,230人を対象に、アンケートを行いました。その中には、インターネットや出会い系サイト、携帯電話に関する質問もありましたが、携帯電話でEメールを使っているかという質問に対して、子どもたちの92.2%が使っていると答えたのに対して、保護者の方は52.7%でした。先ほど藤田様がおっしゃっていたのと似たような状況が見られると思います。また、携帯電話の月々の利用料金は、保護者たちは5,000円未満と1万円未満がほとんどだったのですが、子どもたちは5,000円未満の次に多い回答が2万円未満ということで、やはり子どもたちは親よりも携帯電話の利用頻度が高く、Eメー

ル利用が多いということがわかります。それから、子どもたちに対して、性の情報をどこから得ますかという質問をしたのですが、1番は雑誌、そのあとに友人、テレビ、本と続きまして、7.9%がインターネットから、と答えました。ところが、親から教えてもらうというのも、同じ7.9%でしたものですから、インターネットと親が同じレベルなのかなと思いましたが、ちょっと恐ろしくなっていました。というのは、欧米の考え方の中には、性教育は家庭からスタートするものだということがありますから、家庭とインターネットが同じレベルだというのは、ちょっとゆがんでいるところがあるのではないかと感じました。

一時、「ワン切り」といって、ポーリー様やデイヴィス様はご存じないかもしれませんが、携帯電話に電話がかかってきて、こちらから折り返し電話してみるとそれが出会い系サイトであったり、エッチなことを言われたりするようなもので、あとで高額な利用料金を請求されるということがありました。このごろは以前ほど聞かなくなりましたが、アンダーグラウンドではまだ続いていまして、大変残念なことだと思っています。

それから、デイヴィス先生のお話にもありましたけれども、子どもたちはパソコンからインターネットに接続して遊ぶだけではなくて、インターネットに接続できるゲーム端末が部屋の中にあって、子どもが1人で、親の監視のないところで接続していることがあります。子どもたちがどういうことをしているかを親が把握できていないというところに、大きな問題があるのではないかと思います。

今日はポーリー先生とデイヴィス先生から、インターネットのポジティブな使い方をたくさん伺ってきましたが、親がインターネットのリテラシーをどれだけ持っているかということが、子どもがインターネットを活かすことができるか、それともインターネットで破滅してしまうかということに対して非常に重要な意味を持つと思います。私自身は、おそらく一般的に皆さんがインターネットをお使いになる以前から、インターネットを使っています。というのは、アメリカに住んでいました父が、インターネットが始まった当初からこれを利用してまして、いろいろなことを教えてもらいました。たとえば、Windowsの中に入るとクッキーやテンポラリー・インターネット・ファイルのフォルダがあるので、そういうところをのぞいてみて、どんな情報がどれだけ入ってきたかをちゃんとチェックして、毎回捨てたほうがよいということなども教わりました。テンポラリー・ファイルについては、そこに変なものがないかどうかということが重要なのと、もうひとつは、子どもを監視するわけではありませんけれども、ここを見ると、自分が行っていないサイトに子どもが行っていたかどうかということもわかるわけですから、もしそのようなことが見えたときには、子どもに対して危険性と対処方法を教えることも親の責任だと思っています。

子どもというのは私たちにとってかわいい宝物ですから、子どもたちが安全に生活するために、普段の生活の中で、交通事故に遭わないようにとか、体の衛生管理についても子どもに教えたりするわけなんですけれども、性について子どもに語ることの頻度がどれだけあるか、そして自分の性を大切にすることや、搾取者に狙われたときにどう対処すればよいのかということなどについての会話が家庭内にどれくらいあるということも大切なことだと思うんです。それと同じように、先ほどの皆さんのプレゼンテーションの中にもありましたように、インターネットには、自分のプライベートの空間から世界に対して語りかけられるという、本当

に良い面がありますが、逆に、外からプライベートの空間に入ってくるということもあるわけですから、そのときに自分の身を守る方法を教えることも大切だと思います。そういう点では、大人が先にきちんと知識を得て、子どもに教育できる状況を作ることが大切ではないかと私は思います。

赤堀

ありがとうございました。大変ショックな情報も教えていただきましたが、もともとクリスティーヌ様がアジアの女性と子どもの問題に関わったのは、どのようなきっかけからだったのでしょうか。

クリスティーヌ

私たちは女性5人のグループで、ボランティアの方々と一緒にタイに出かけていきましたときに、子どもたちが学校に行けないという現実を見ました。私たちが学校を建てれば、子どもたちももっと学校に行けるようになって、そして親が子どもたちを売らなくて済むようになるかなと思ひまして、バザー活動を始めました。学校建設の募金活動をしていましたら、ある企業の方との出会いがありまして、支援をしていただくことになりました。先ほど藤田様のお話の中で、NTTドコモに要望書を出されたというお話がありましたが、私も同じことを思ひまして、ドコモの方にお話をしたことがあります。そのとき私たちが受けた説明では、彼らは通信サービスを提供する会社であって、それがどのように使われるかは別の多くの会社が担当していて、そのうちの一部だけ止めるという機能をもっていないらしいのですね。不正な使用を止めてもらうようお願いすることはできても、強制することはできないそうです。ですから、逆に不正な使用を認めないサービスを提供する会社を別に作れば、PTAの皆様も利用されるでしょうから、良いご商売になるのではないのでしょうか。ぜひそういうものを考えていただけるといいなと思います。

赤堀

この続きはディスカッションの中でさらに議論を深めていただければと思います。どうもありがとうございました。

藤田様とクリスティーヌ様には、インターネットの持っている影の部分、負の部分について詳細に述べていただきました。ポーリー様とデイヴィス様には、前半でご講演いただきましたが、ここで改めまして、短い時間ではありますが、おふたりから追加のご説明をいただきたいと思ひます。では、ポーリー様からお願いいたします。

ジーン・アーマー・ポーリー氏

ネットマム

藤田さんのお話を、たいへん興味深く伺いました。アメリカの調査でも、同じような結果が出ています。つまり、親は、子どもがインターネットで何をしているのか知りません。子どもは宿題のためにインターネットで検索しているのだと思ひています。しかし実際には、子供た

ちはインターネットの「キラー・アプリケーション」、つまり、チャットやインスタント・メッセージング、ブログ（Web上の日記）などを利用しているのです。

また、クリスティーヌさんの活動も、本当に価値のある、素晴らしい貢献だと思います。

それでは、私のWebサイト（<http://www.netmom.com/>）をご紹介します。いろいろな内容を提供しています。“Net-mom's Nice Sites”では、私が推奨するWebサイトを掲載しています。現在のところ、「音楽」「入学前の子ども向け」「数学」等のカテゴリに分けて紹介しており、これからも追加していく予定です。また、さまざまな記事や、商業サイトに対するレビューも書いています。“Reviews”で紹介しているWebサイトには、推奨できない商業的网站も含まれています。このサイトレビューでは、商業サイトがいかにか子どもたちを搾取しているかということについて言及しています。また、どうすればWebサイトを改善できるかについて書くこともあります。たとえば“Harry Potter.com”は、サイト自体は素晴らしいのですが、チャットルームがまったく管理されていません。そのため、チャットルームでは、乱暴な言葉がたくさん使われています。“Article”のページでは、さまざまなコラムを掲載しています。“Internet-savvy Parenting-Three Quick New Year's Resolutions（インターネットで賢い親業 - すぐできる新年の3つの抱負）”などもその一つですし、火星についてのサイト紹介やそのほか最新の面白い情報を掲載しています。“Ask Net-mom（ネットママに聞きましょう）”という質問コーナーも用意しています。いつも親御さんから、どうやってインターネット上で子どもを支援したらよいか、どうやって自身がインターネットをもっと学んだらよいかという質問が、たくさん寄せられます。スティーブンも同様の問い合わせをたくさん受けていると思います。

このWebサイトは最近リニューアルしたばかりです。ぜひ皆さんにもご覧いただきたいと思います。

次に、私がなぜこのぬいぐるみを持ってきているのかをお話したいと思います。これはカナダのバンクーバー近くにいる先生が持っているぬいぐるみです。私がこのぬいぐるみを持ってきたのは、インターネット上で起こっている素晴らしいことの多くが、実際にはインターネット上で起こっているのではないということを知っていただきたいからです。

この先生は、このようなぬいぐるみをたくさん持っていて、世界中の教室に送っています。ぬいぐるみにはリュックサックがついていて、中には、カナダの絵はがきやコイン、日記帳などが入っています。ぬいぐるみを受け取った子どもは、この日記帳に、自分が見たテレビ番組のこと、読んだ本のこと、夕食に何を食べたか、といったことなどを書いて、同じクラスの別の子供に渡します。教室中の子供たちにぬいぐるみが回り終わると、リュックサックの中に、その日記帳と、その地元のちょっとした小物やおみやげ、コインなどが入れられて、元の教室に郵送されます。その間、ぬいぐるみを送った教室では、交換で送られてきたぬいぐるみの訪問を受けています。これまでに、南アフリカからライオンのぬいぐるみが来たり、オーストラリアからカンガルーのぬいぐるみが来たりしたそうです。このぬいぐるみの名前は、モンティ・ムースといいます。モンティ・ムースは、もう2回もオーストラリアに行っていますし、これまでに世界中を旅してきました。ところが日本には行ったことがないということでしたので、先生はこのモンティ・ムースを私に託してくれました。ですから私は日本で、このぬいぐ

るみをいろいろな場所に連れて行って、写真を撮っています。カナダに戻りましたら、カナダの子どもたちが、ほかの教室の子供たちに見てもらうために、その写真をインターネットに掲載します。サイトのアドレスは、“<http://www.montymoos.com/>”です。これは、教室と教室が、ぬいぐるみでつながっている事例です。本当の意味でインターネット上でのつながりとは言えませんが、インターネットが教室同士の出会いを提供しています。インターネットには、このような可能性もあるのです。

赤堀

非常に興味深いお話を聞かせていただきまして、ありがとうございました。1点だけ、教えていただけますか。このぬいぐるみと子どもたちが触れ合うことで、子どもにはどのような変化が起こるのでしょうか。

ポーリー

大きな変化が生まれると思います。本などで読むのではなく、実際に手で触れて確かめることができるものでつながっているということが実感できるからです。そして、世界のどこかに似たような教室があって、似たような子どもたちがいるということがわかります。そして、自分たちの言葉で手紙をやり取りし、自分たちの国や都市についてワクワクすることを共有できることがわかります。

赤堀

バーチャルと実物、あるいは、先ほどクリスティーヌ様も言われましたけれども、子どもたちのセルフ・エスティーム、価値、コミュニケーションといった問題とも関わると思いますので、後ほどまた、フロアとも議論させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

では、続きまして、デイヴィス様に追加のお話をお願いいたします。

スティーブン・キャリック・デイヴィス氏

チャイルドネット・インターナショナル CEO

さきほどのプレゼンテーションでは、子どもたちがオンラインでどんなにすばらしいことをしているか、という点についてお話ししました。また、プレゼンテーションの最後に、インターネット上に潜む危険についても少し触れました。私はこの危険性を、3つの「C」に分類しています。1つ目の「C」は「コンテンツ (Content)」です。残念ながら、子どもたち、若者たちが不正確な情報を入手しています。また、人種差別に関するもの、非合法的なものなど、迷惑なコンテンツも受け取っています。2つ目は「コンタクト (Contact)」です。これは、子どもたちにとって最大の危険です。インターネットを通じて知り合った人に危害を加えられる可能性があるということです。3つ目は「コマーシヤリズム (Commercialism)」です。つまり商業主義の問題です。子どもたちが大量のスパムを送りつけられる、詐欺的な勧誘がなされる、迷惑なコンテンツを受け取る、プライバシーを失う、といった危険があります。子どもとインター

ネットに関わるこのような危険について私たちが説明することで、親がは必要な行動がとれるようになります。

効果をもたらす認識

さて、これまでの私たちの経験から、どのような啓蒙活動が効果的か、という点についてお話しします。

啓蒙活動を行うにあたって重要なことは、さまざまな対象がいるということを認識することです。クリスティーヌさんから、学生など2,230人を対象に行われた、携帯電話や出会い系サイトに関するアンケートについてのお話がありましたが、おそらくその活動の中で、クリスティーヌさんは多くの学生たちから、彼らの出会い系サイト利用の経験談を聞いたことと思います。これは非常に重要なことです。啓蒙活動の対象となる人々の話に真摯に耳を傾け、彼ら自身が、問題解決のために、あるいは仲間たちを助けるために、どのように寄与できるのかを考えることが、とても重要なのです。

啓蒙活動を行う上で認識すべき重要な点の2つ目は、インターネット上の問題解決のためには、オンラインだけでなく、オフラインでのコミュニケーションも考えなければいけないという点です。インターネットの危険性について、われわれがオンラインで情報を提供しても、親に対しては効果が上がらないかもしれません。私たちは、人々の注意を引く情報提供の方法を考えなければなりません。オフラインによる情報提供は重要です。医者や診療所や、新聞や、駅などで親の関心を引くことができるからです。先ほどご紹介いただいた調査結果では、携帯電話を使用している親はわずか52%ということでした。つまり48%の親は、モバイルでインターネットアクセスしていません。こうした親たちにも、インターネットの危険性に関する情報を見つけてもらう必要がありますが、オンラインで情報を提供するだけではこうした親には効果がありません。オフラインでの情報が必要です。ですから私たちはオフラインで啓蒙活動をしようと考え、“Kid Smart”のリーフレットを英国で百万枚以上配布しています。これは、非常に効果を上げています。

第3点としましては、危険に関する情報は、ただ出すだけでは駄目だということです。「私たちは行動を起こさなければならない。情報を発信しよう」と言うのは簡単ですが、人々はオンラインであれオフラインであれ、大量の情報にさらされています。若い人たちはとくに多くの情報に囲まれていますから、こちらから出す情報は、当事者に関連するもので、魅力的かつタイムリーでなければなりません。本当に役立つタイミングで情報を送り出さなければなりません。たとえば携帯電話を開けたときに、「誰もがみな誠実なわけではない」「オンラインではウソをついている人もいる」「個人情報を簡単に公開してはいけない」といった情報が提供される必要があります。

4番目は、さまざまな分野の人々が協力しなければいけないということです。そうであるからこそ今日は、児童福祉に従事する方々や、法執行機関関連の方などにお集まりいただき、大変うれしく思います。

対象者に応じた啓蒙活動

若い人たちにインターネットに関する安全についての啓蒙的なメッセージを送るときに、私たちは、“SMART”という頭文字を使っています。これは、“Safe”“Meeting”“Accepting”“Reliable”“Tell”の5つの言葉の頭文字をとったもので、安全に関するメッセージを前向きな形で伝えるための試みです。もし、「あれをしてはダメ、これをしてダメ、ダメ、ダメ」と子どもに言ったとしたら、子どもたちはどうすると思いますか？ダメと言われたことをしようとするでしょう。禁止されているポップスがチャートでNo.1になるのは、こういう訳なのです。メッセージは、前向きなものでないはいけません。“SMART”の“Accepting”のメッセージでは、たとえば電子メールを受け取ったりファイルを開いたりすることは危険かもしれない、ということを伝えます。あなたたちはオンラインでもっと賢くなれるよ、といった形の提案です。このSMARTのメッセージが表示されるバナーは、われわれのWebサイトからダウンロードして、ほかのサイトでも使うことができます。

私たちは、この5つのメッセージをもとに、“Kid Smart”というWebサイトを運営しています。このサイト両親や教師、子どもたちにアピールするように、人気ジャーナリストや著名人が推薦しているという形をとっています。子どもたちと話をするときには、彼らになじむやり方でコミュニケーションすることが重要なのです。

安全上の注意の対象者

いまのところ、8歳から13歳の間の子どもたちを、メッセージを送る第一の対象者として考えています。ちょうど習慣を身に付ける年代にあたるので、彼らに働きかけることは非常に効果的だと考えたからです。日本でもインターネットの安全に関する啓蒙活動に取り組み、インターネットを使い始める段階の、7歳から8歳くらいの子どもたちに働きかけてほしいと思います。

次の対象者は先生です。先生たちはインターネットのインタラクティブな機能をあまり使っていませんから、たとえばチャットルームについて教えることができません。しかし先生方には、教育と監視とは違うということを伝えたいと思います。たとえば、タバコについて考えてみてください。昔は学校で喫煙と健康の関係について教えませんでした。というのも、学校は「禁煙」だったからです。しかしこれではいけません。今でも、自分の学校にはインターネットのインタラクティブな機能はないから教える必要はないという先生がいるかもしれません。しかし、インターネットは、現実社会の中で問題になっているのですから、人生をいかに生きていくのかというライフスキルと人生における課題を教える一環として、インターネットの問題も学校で教えずにはいけません。監視だけでなく、教育が大事なのです。

最後に、親も対象者です。親は、子どもの教育に関してサポートを必要としています。日本では性教育について問題を抱えていることを知りましたが、英国では、性的話をするのはタブー視されていません。親は積極的に性教育に関与します。というのも、ヨーロッパにおいて英国はティーンエイジャーの妊娠率がもっとも高いからです。しかし子供のインターネット利用については、多くの親が曖昧な態度のままです。私たちは、親だけを対象にしたインターネット利用に関するセミナーを開いています。その際は子どもを連れて来ないようにと言って

います。なぜなら、それは親自身のためのセミナーだからで、それこそが重要なのです。チャイルドネットでは多くのリソースを提供しています。日本の皆さんにも、私たちのリソースをコピーして使ったり、それらを使ってセミナーを開いたりしていただきたいと思います。PTAの皆さんにも、インターネットの安全についてのセミナーを開催していただき、新しい技術に対して疑問を持つ親たちに、子供がインターネットで何をしているのかを教えていただきたいと思います。

オフラインのリソース

オフラインの情報源は非常に重要です。“Kid Smart”では漫画を使っていますが、問題を軽んじているからではなく、子どもたちが楽しみながら理解できるようにするためです。リーフレットもシンプルなものでなければいけません。私たちが用意しているリーフレットは、子ども向けと大人向けの2種類があり、子ども向けのものには、「君の親がインターネットでクールになれるように、手助けしてあげよう」と書かれており、大人向けのものには、「インターネットの使い方、子供たちに追いつこう」と書かれています。メッセージはそれ自体が魅力的でなければいけません。読み手をおびえさせるようなものでなく、理解しやすい形で提示しなければいけません。

先生についていえば、このテーマを魅力的に教えることができるように、ポスターコンクールを開催したり、インタラクティブな教材を使ったりすることが重要です。“Kid Smart”のWebサイトでは、Flashでできたインタラクティブな教材を用意しています。インターネットは幅広い分野を網羅していますから、カリキュラムにまとめることは非常に重要です。

このスライドは“Kid Smart”のサイトに用意されている親のためのセミナーです。音声も聞くことができるインタラクティブな作りとなっており、皆さんが活用できる情報源があると思います。劇やオンラインのロールプレイ・プログラムがありますし、子どもたちは専門家とチャットルームでリアルタイムに会話することもできます。

最後に、啓蒙活動に従事される方は、海外の事例から学んでいただければと思います。アメリカでは“GetNetWise”プログラムがありますし、またはカナダ、英国の事例もあります。私たちチャイルドネットが英国で作成したリソースを日本で活用してもらうなど、日本での啓蒙活動のために何かできることがあれば、喜んでお手伝いしたいと考えています。

赤堀

どうもありがとうございました。

パネリストの皆様から、デイヴィス様にご質問はありますか？

はい、クリスティーヌ様、どうぞ。

クリスティーヌ

たとえばPTAのような親が無償で参加する組織があります。日本でもボランティアという言葉がよく使われるようになりましたが、社会貢献をすることがライフスタイルの一部である、あるいはライフスキルを子どもたちに教えることが親の義務である、といった考え方が、

どういうところからスタートするものなのかを知りたいのですが。

デイヴィス

むずかしい質問ですね。私は社会学の専門家ではありませんので、適切に答えられるかわかりませんが。私が思うに、英国では子どもが傷ついています。子どもたちがひどく虐待されている数多くの事例があります。親は子どもを守らなければならない、という意識が高いのだと思います。しかし、「エアバッグ効果 (air bag effect)」と呼ばれる危険性もあります。親が守ろうとすればするほど、子どもを窮屈にしまうという側面もあります。これでは子どもは成長しません。正直な話、危険のない人生なんて楽しくありません。たとえば、包丁があるからといって子どもを台所に入らせないのでは、過保護になってしまいます。子供を教育し、手助けしてあげることが必要なのです。日本と英国での、子どもに対する親の見方の違いは興味深いです。いま社会が変革している中で、悲しいことに、出会い系サイトなどで多くの子どもたちが被害に遭っているわけですから、親たちがこの問題に積極的に取り組むようになるにはどうすればよいのかを考えていただきたいと思います。

英国では、インターネットは情報に接する「権利」だとする見方が増してきているので、UK オンライン・センターというものを設置し、親が自由に無料でインターネットについて学べる機会を設けています。ここでは安全についても学ぶことができます。親があまりにも知らないが故に怖がるということではいけないわけです。怖がるあまり、子どもにインターネットを使わせないということになりますと、子どもは親の目を盗んで使うようになります。インターネットが諸悪の根源だと考えるのではなく、確かに危険もあるけれども、インターネットにはさらなる有用性があるということを強調していかなければいけないと思います。インターネットは子どもにとってすばらしいメディアなのです。今後も、コンファレンスやイベントの開催などで、私たちの経験を日本の皆さんと共有したり、私たちの作った情報源を活用したりできればうれしく思います。

クリスティーヌ

ポーリー様にも同じことをお聞きしてよろしいですか？

ポーリー

米国でも同じようなことがあると思います。米国の親も、新しいメディアであるインターネットで子どもを食物にする人が出てきたというニュースを聞いたときに、不安を抱いています。新聞やテレビの報道も加熱しています。誰もが、何か対処しなければいけないと考えています。米国には、インターネットを恐れている親もいて、彼らはインターネットで何が起きているのかを確かめるよりもむしろ、インターネットに蓋をしたいと考えています。積極的に対処しようとはしないわけです。米国でもさまざまな調査が行われています。そのなかで、親はインターネットの危険性に対して非常に強い危惧を持っているけれども、実際に何か対処したいと思っているわけではないという結果が出ています。フィルタリングソフトを導入している親は 23 % 弱ですし、子供が見ていた Web サイトを知るためにどのようにブラウザの履歴を

チェックすればよいかを知らない親も少なくありません。親たちは一種のパニック状態にあるといえますが、同時に、インターネットの使い方を学ぼうとする意欲も高いのです。さきほどお話ししたように、私の勤務先の公共図書館では、親のためのコンピュータ・キャンプという研修があります。16台のラップトップ・コンピュータを、802.11bのワイヤレスネットワークでつないでいるので、親は、子供たちにとってインターネットがどのようなものなのかを学ぶことができます。この研修は非常に高い関心を集めていて、多くの参加希望者が順番を待っています。ですから、積極的に何か行動したいと考えている親たち、インターネットについて学ぼうとしている親たちもいるわけです。

確かにインターネットには危険がありますし、それはしっかりと認識しなければいけません。しかしすべてのWebサイトが悪者によって運営されているわけではないということも、忘れてはいけません。一方で、誰もがインターネット上の不正確な情報に接しています。私はよくこの言葉を引用します。「停泊している船は安全だが、それは船の本来の目的ではない。」私たちは、子どもたちが安全に航海できるよう、メディア・リテラシーを教える必要があります。

赤堀

どうもありがとうございました。アジアでも、日本でも、英国でも、また米国でも、子どもたちが危険にさらされていて、それに対して親がどう見守っていかなければいけないかというのが、共通の大きな課題なのだということがよくわかりました。この点については、国分様のご発表のあとで、再度フロアの皆様と一緒に議論させていただきたいと思います。

国分様、どうぞよろしく願いいたします。

国分明男氏

財団法人インターネット協会副理事長

インターネット協会の国分でございます。今回は、当協会の今後の計画を中心にご説明させていただきたいと思います。当協会が作成、あるいは作成に協力しました、子どもとインターネットに関わる資料については、お手元のプログラムの後半に収録させていただきましたので、ご関心があればあとでお読みいただければと思います。

先ほどから話題になっていますように、子どもの保護のためには両親の情報リテラシーが重要であるという認識が広まっています。インターネット協会では、パソコン通信の時代から、ネット上で身を守るためのルールや、他の人と仲良く付き合うためのネチケット（ネット上のエチケット）を集めた「ルール&マナー集」を作ってきました。これまでに、「一般版」「こどもばん」「社内版」等を作っています。いま画面に映っているのが「こどもばん」です。多少文字が多いので小学生が読むには大変かもしれませんが、ご両親や学校の先生が読んで聞かせるのには大変よいという褒めの言葉をいただいています。このようなことは学校できちんと教える時代が来るのではないかと考えていましたが、最近では大学入試センター試験でも、情報関係基礎ということで、インターネットやコンピュータに関する基礎的な知識が出題されています。入試のためにこの分野の受験勉強が必要な時代になっています。

このルール&マナー集は、小学生向けの学習参考書でも紹介されています。最近では、インターネットで物事を調べる「調べ学習」というのが盛んに行われ、その中で、「インターネットで調べるときにどのようなルールを守らなければいけないか」ということを学ばせたいということで、このルール&マナー集を採用していただいているのだと思います。

当協会では、このルール&マナー集のほかに、ルール&マナーの検定試験も始めています。現在の検定は一般向けですが、今後は子ども向けの検定や、テキストの作成も進めていく予定です。いずれは学校教育の中でこの分野をきちんと位置づけて、子どもたちに教えていただきたいと思っています。

インターネット協会ではまた、6、7年ほど前からフィルタリングソフトの開発や有害情報のレーティングサービスの運用を進めており、国際的な標準化の活動にも参加しています。こちらのスライドは、フィルタリングソフトがどんなものをわかりやすく描いた絵です。世の中にはいろいろな有害コンテンツがありますが、フィルタリングソフトをコンピュータにインストールしますと、推奨できるコンテンツには接続し、有害なコンテンツは拒絶することができますので、安心して子どもにインターネットを使わせることができます。拒絶するコンテンツの設定は、親御さんや先生ができるようになっています。

ところで、パソコン用のフィルタリングソフトについては、市販のものもいくつか出てきましたが、携帯電話用のものはこれまでありませんでした。携帯電話からのインターネット利用は日本が一番進んでいますので、昨年夏、私どもは携帯電話向けフィルタリングソフトのデモシステムを作成しました。試作ソフトはNTTドコモのiアプリを使っています。スライドに掲載されています URL からこのソフトを携帯電話にダウンロードして使用します。実際のフィルタリング機能はインターネット上にあります。プロキシという機能を使って、有害コンテンツをブロックします。次のスライドは、不適切なサイトへのアクセスがブロックされたところです。

現在までのところ、このソフトでブロックできるサイトの URL は少なく、使用できる機種もNTTドコモの新しいモデルに限られています。総務省からは、来年度から2カ年計画で、多くの機種で使用できるフィルタリングシステムを開発するようと言われており、われわれの会合には、NTTドコモとKDDIのau、ボーダフォンの3社が出席していますが、フィルタリング機能を提供する会社は3社とは別にあってもいいのかなと考えています。

藤田様から、「PTAから携帯電話3社に要望書を出した」というお話がありましたが、携帯電話会社のほうも何とか対応しなければいけないということで、NTTドコモでは昨年の秋口から、親からの申し出により、子どもの携帯電話をNTTドコモが契約している公式サイトにだけ接続できる設定にするサービスを始めました。ところが公式サイトといっても1,000サイトほどあり、中にはギャンブルサイトなどもあります。つまり、公式サイトすなわち子ども向けのサイトというわけではありませんので、子ども向けという視点から、技術開発やサービスを展開していく必要があると思っています。

私どもは引き続きフィルタリングの機能の開発や運用、普及に努めてまいりたいと思いますので、皆様方にもご協力いただきたいと思います。

赤堀

ありがとうございました。フィルタリングのことがよくわかりました。ところで、プログラムの18ページに、「インターネットにおけるルール&マナー検定」が掲載されていますが、こちらはインターネット協会で実施していらっしゃるのでしょうか。

国分

はい、そうです。昨年(2003年)の夏に初めて実施しました。このようなオンラインでの検定が初めてだったこともありまして、新しもの好きのインターネット・ユーザの関心を惹きまして、1ヶ月ほどの間に1万8,000人ほどの受検者がありました。受験料は無料です。資格試験というよりも、知識を得てもらうことを目的としていますので、参考書を見ながら受検していただいても構いません。また、何度も繰り返し受検できるような仕組みにしています。100問中90問以上の正解で合格としていますから、ハードルはかなり高いといえます。また、合格者で希望する人には、有料で合格証を発行しています。

赤堀

ありがとうございました。

5人のパネリストの皆様からお話をいただきましたので、これからフロアの皆様との議論に入りたいと思いますが、その前に、皆様のお話についての私の印象をいくつか申し上げます。

藤田様のお話で印象的だったのは、親と子どもの間でこんなにもギャップがあるのか、ということでした。親が知らない間に子どもの知識は技術的なことに限らず大変進んでいるということ指摘していただきましたし、これはどうやら日本だけではなく、米国、英国でも同じ問題を抱えているらしいということがわかりました。

クリスティーヌ様のお話には、たいへん衝撃を受けました。タイやアジアの中で、子どもたちが大人の勝手な論理によって搾取され、その中で子どもたちが自分は価値がないのではないかという根源的な疑問を持つようになっていて、そしてそれにインターネットが加担しているということに、大変な衝撃を受けました。何とかしなければいけないのではないかという問題提起をしていただいたと思います。

ポーリー様のお話では、アメリカでも親がインターネット上の危険に対して大変な危機意識を持っていることに興味を覚えました。その危機意識の元で、アメリカの親たちがいろいろな活動をしているということでしたが、同じような活動をわが国でどのように進めればよいのかという問題提起として受けとめたいと思います。

デイヴィス様のお話も、英国でも大変な問題が子どもたちに起きているけれども、怖がっているだけではダメで、何とか子どもたちが自立していけるような方策を考えなければならないという問題提起だと感じました。

最後に国分様からは、メディア・リテラシーについては学校教育の中で広く行っていかねばいけない時代になっているのではないかと、というご指摘をいただきました。

以上が私なりの印象ですが、ここからは、フロアの皆様との質疑応答のなかで、議論を深めていきたいと思っています。どうぞ遠慮なく手を挙げていただければと思います。

質問者

大学に勤めている者です。ひとつ教えていただきたいことがございます。子どものインターネットの使い方を親がどのように見守ったらよいのかというお話が出ましたが、小中学校の先生方のお話を伺いまして、これは大きな問題となっているようです。親が常に子どもの肩越しにスクリーンをチェックするわけにも行きませんから、今お話のありましたフィルタリングソフトを導入するなどの対応が考えられるわけですが、しかし直ちにソフトの使い方が広まるわけではありません。また、著作権侵害の音楽データなどをブロックするソフトの開発も、なかなかむずかしいようです。そこで、子ども部屋に小型のカメラを設置して子どもの様子を始終監視してはどうかとか、子どもの使うパソコンにスパイウェアやキーロガーを仕掛けて、気づかれぬように密かに子どもをハックしてはどうかというような意見を言い出す人もいます。しかし、そこまでは子どもの自立につながらないのではないか、自主的に対応する態度を養えるのか、という疑問が出てきます。このあたりも含めまして、知恵がございましたら、ぜひ教えていただきたいと思えます。

赤堀

大変ありがとうございます。確かに親がずっと子どもを見ているわけにも参りませんし、そうかといって監視カメラまではどうかと思います。フィルタリングソフトの話も出てまいりましたが、国分様、いかがでしょうか。フィルタリングソフトでは、どこまでのことができるのでしょうか。

国分

私がフィルタリングソフトに取り組み始めてから、もう6、7年になりますが、取組み当初は、これは強制ですか、とか、検閲ですか、というご質問をいただきました。親御さんや学校の先生が、ご自身の教育方針で有害なWebサイトをブロックする必要を感じておられるのであれば、ぜひフィルタリングソフトをお使いいただきたいと思えますが、これはあくまでも選択肢の提供に過ぎません。学校の先生方でも、有害サイトをブロックするよりは、子どもをちゃんと現実社会に触れさせ、その上で正しい情報倫理を教えるべきだとおっしゃる方もおられます。もちろん一方で、調べ学習の中で子どもに自由にインターネットを使わせていたら何が起こるかかわからないので、フィルタリングソフトは必要だとおっしゃる先生方もおられます。ですからフィルタリングソフトは、手段の選択肢の一つなのです。

赤堀

他のパネリストの皆様、あるいはフロアの皆様の中で、親の関わり方についてのコメントはございますか？

藤田

国分様のお話をたいへん興味深く伺いました。フィルタリングソフトは一部市販されているものもありますが、学校などでは資金的な面で、導入がむずかしい場合もございます。そのあ

たりを技術的にどう対処すればよいのか、という点に疑問を感じています。また、これはポーリー様、デイヴィス様にお聞きしたいのですが、テクノロジー・ギャップをどのように埋めていけばよいのか、という点です。子どもたちはみんなほぼ同列の知識を持っているのに、親のほうは、よくわかっている親もいれば、ぜんぜんわからない親もいるわけです。わからないほうの親は、問題があったとしても何の対応もできないという状況にあります。その点について、どのようにしていけばよいのか、教えていただければと思います。

赤堀

親と子ども、学校でいえば教師と学生ということになりますが、テクノロジーについては学生のほうがはるかに強いですから、これは大きな問題です。学校ではコンピュータの中に成績表などが入っていることがありますけれども、高校生ぐらいになると、学校のネットワークからそのコンピュータに、パスワードを見破って入ってしまうようなこともあります。これは先生と生徒との戦いのようなものですが、この戦いでは、必ず先生が負けるのが現実なんです。負けたくないと思っていくら先生が勉強しても、暇があるのは学生ですから、必ず先生が負けるという結論になるんです。ですから、子どもと親の知識のギャップをどうやって埋めていくのかという問題は、結果が見えているのではないかという気がします。監視カメラとか、フィルタリングソフトという手段もありますが、もっと根本的な考え方ができないだろうかと思えます。

この、テクノロジー面では親は子どもに負けてしまうという点について、フロアの皆様から、関連した質問はございませんでしょうか。

質問者

インターネットで質問を受けている立場からお話しいたします。最近、親御さんと子どもたちの両方からたくさんの質問を受けるのですが、いちばん感じるのは、親子のコミュニケーションが取れていないということです。質問してきた子どもたちは、親が怖くて質問できないとか、親に迷惑をかけてしまうのではないかということをおっしゃっています。また、教師の方は、実はわからないのが恥ずかしくてあなたに質問したんだということをおっしゃっていました。ですから、いま先生がおっしゃいましたように、テクノロジーのギャップというよりは、もっとジェネラルな問題として、コミュニケーションの能力自体が下がってきているのではないかと感じています。

赤堀

親子の関係、あるいは教師と生徒の関係の中で、通常の対面のコミュニケーションがうまくいっていないから、その上テクノロジーの面でギャップがあれば、とても質問をし合うような状況にない、ということなのですね。

質問者（同前）

最近多いのは、アダルトサイトを見てもいないのに2、3万円の使用料を請求するメールが

子どもの携帯電話に届くケースです。子どもにとっては大金ですから、たまたまインターネットで見つけた私のサイトに質問をしてくるのですが、どうして親に相談しないのかと聞きますと、怒られるかもしれないからと言うんです。普段から親と会話していないから、相談ができないそうです。

赤堀

親子のコミュニケーションがそもそも崩れているのではないかというご指摘でした。ほかに何か、関連したご質問などはありますでしょうか。

質問者

私は1998年からプロバイダに勤めていまして、カスタマー・サービス・センターで、誹謗中傷や迷惑メールなどに関するユーザからのご質問を受けている立場にあります。始めた当初は大人からの質問ばかりだったのですが、ここ2、3年は、お子さんに関わる質問も多くなってきました。とくに、先ほどもお話がありましたが、架空請求に関する相談が増えて参りました。請求書の書き方がまた悪質でして、「支払わなければ、勤務先あるいは学校まで押しかける」というような書きぶりがされているんですね。それで、多少覚えのある人などは、会社や学校にばれては困るということで、相談もできずに支払いに応じてしまって被害に遭っているというケースがあるようです。

それから、私は通信関係の会社に勤めていましたが、携帯電話会社にしろ電話会社にしろ、通信関係の会社はあくまでも人と人とのコミュニケーションの間に入っているだけという立場です。もちろん利便性向上のために、たとえば迷惑メールをフィルターする機能を付けたりもするのですが、中にはそのようなメールをほしがる方もいますから、一律に適用できないというむずかしさもあります。

架空請求とともに多い相談は、掲示板での誹謗中傷に関するものです。子どもさんなどは程度がわからないものですから、直接的に実名を書いてしまうんです。あるいはPTA関係の掲示板ですと、これは先生の悪口を書くのにこんなに都合のいいところはないんですね。お母さん方まで入っている場合もあります。

このような質問をたくさん受けて感じることは、親御さんは、子どもさん以上にインターネットの知識を持つ必要はないのではないかと、ということです。実社会と同じで、危険な場所があることを子どもに教えるのは親としての役割ではないかと思いますが。

さらに言えば、インターネット・サービス・プロバイダは、クレジットカードの番号さえ合っていれば接続できてしまうような環境を与えてしまっているのが実情です。この点に対しては、インターネットを使うための免許証を発行するとか、WebサイトにPTAの推奨マークを付けるとか、対処方法はいろいろあると思いますが、子どもには別のIPアドレスを与える、子どもだとわかるようなIPアドレスを与え、接続を受ける側で、子どもだとわかったらブロックするというような、いくつかもっと大人としてとってあげられる方法もあるかと思います。もちろん、現在IPアドレスの枯渇が問題になっていますので、IPv6の開発が進展しないと、子ども向けIPアドレスの実現はむずかしいのですが。

あとは、警察からの捜査照会を受けているのは事実です。IPアドレスを固定で与えているものに関しては利用者の特定は容易ですが、今のIPアドレスは、動的に、その都度与えていますから、利用者の特定のためには通信の記録を見なければなりません。そうすると、プロバイダとしても特定はむずかしくなります。そういったところに、この世界のむずかしさを感じているところです。

赤堀

どうもありがとうございました。確かに犯罪も巧妙化してしまっていて、架空請求は私も経験しています。私のところには50万支払えという請求が来たんですが、隣の教授は5万だったので、何でお前が50万で俺が5万なんだ、などという話で喧嘩になりました(笑)。

それはともかく、先ほどの方がおっしゃったことであるほどと思いましたが、そもそも現実世界のコミュニケーションができていないのが問題なのではないか、という点です。インターネットというのは、私たちの生活そのものが危うくなっていることのひとつの鏡ではないかというご指摘でした。これはたいへん面白いご指摘だと思いますので、この点について、パネリストの皆様から、お考えをお聞かせいただきたいと思います。つまり親子の問題をどう考えるのか、という点です。これが1点目です。

それから、今日はこちらにポーリー様の息子さんもいらっしゃっておりますが、いったい子どもの視点から見たら、インターネットや親子のコミュニケーションの問題はどうなんだろうかということ、ぜひお聞かせいただきたいと思います。これが2点目です。

まずは、パネリストの皆様、いかがでしょうか。

藤田

確かに親子のコミュニケーションの問題は、PTAの組織の中でも最重要課題になっていきます。とくに、家庭の教育力が落ちているということが声高に叫ばれ、子どもが関わる事件がありますと、マスコミでも親子のコミュニケーション不足が原因ではないかといったような記述が目立つ状況を考えてときに、われわれはいったい何をしたらよいのだろうかということが課題になっています。親子が正面向き合って会話をしていないのだろうと言われても、何の反論もできません。働くことに一生懸命でわずかの時間しか家庭にいないお父さん、パート勤めをしていて昼間はいないお母さん、その中で子どもが一人でご飯を食べている、そういった構図がごく当たり前に存在している中で、じゃあ親として子どもたちに何を伝えていったらいいのかということすら問題になっている状況ですから、ご指摘はまさにそのとおりです。これをどう改善していけばよいのかということで、われわれ日本PTAの中でも、各都道府県のリーダーが各学校の会長さんたちといろいろな議論をしています。

それから、インターネット協会様がECPAT様と共同で作っていただきました「PTAお役立ちソフト集」というCD-ROMを、昨年と一昨年のPTAの全国大会で配布致しました。ですから、フィルタリングソフトについての啓蒙も、少しではありますが、進めています。

赤堀

ありがとうございました。

続いて、クリスティーヌ様、どうぞ。

クリスティーヌ

私自身は海外で育ちましたので、私が受けた教育は英語教育が主です。私の子どもたちは、今はもう大人になりましたけれども、息子が公立の学校に、娘が私立の学校に入りました。公立の学校でPTAのミーティングに参加すると、集まるのは母親ばかりで、父親はほとんどいません。また、ミーティングの内容は、遠足で子どもたちにどれだけお菓子をを持たせるのか、ということなどです。学校のカリキュラムとか、学校の教育方針については、PTAの親たちは意見を求められません。私たちは親として、お菓子の量とか規則ではなくて、学校が子どものマインドを預かるものとしてどうやって指導してくれるのか、ということに関わりたいのに、関わらせてくれません。それからもう一つびっくりしたことがあります。アメリカでは、遠足のときに親がボランティアで参加することがありますから、私は子どもの遠足のときに、ボランティアで参加したいと名乗りでました。そうしたら先生方から、「親御さんが遠足に来られては困る」と言われたのです。このように私たちを子どもの成長過程に参加させてくれない学校教育には、問題があると思います。PTAも、そこで諦めていたところが残念だと思います。やはり地域と家庭と学校の三者が一緒に子どもの成長に関わることが重要だと思います。先ほどもお話がありましたが、これはインターネットの問題ではなくて、普段の家庭教育の中で、どうやって子どもたちを一人前の大人として育てていくかという問題だと思います。

私はアメリカの家庭で育ったのですが、アメリカでは、自由とか自立は親から勝ち取るものなんです。子どもが親に対して、自分が信頼に値する人間であることを示すことによって、親は少しずつ手綱を緩めて、子どもを自立させていくわけです。たとえば3時に帰ってらっしゃいと親に言われて、3時に帰らないと、「あなたは約束を守れなかったから、1週間お友だちと遊びにいけないう」と言われ、3時に帰ってきたら、「あなたは約束を守れたから、来週から4時に帰ってきてもいいよ」と言われる、といった形で、一つずつ社会人になるための自由を勝ち取って、責任と自由を預かることができることを親に示していくことで、大人になっていくんですね。ですからポーリーさんの息子さんのお話を聞くのを楽しみにしていますが、そのような形で子育てをしていけば、フィルタリングをしなくても、子どもが自分で価値判断ができるようになるんじゃないかと感じています。

赤堀

ありがとうございました。大変いいお話でした。ポーリー様かデイヴィス様、コメントなりご意見はございますか。

デイヴィス

このディスカッションの中で思いついたところをいくつかお話ししたいと思います。

やはり私たちは、責任を共有しなければいけません。政府も、学校も、業界も、そしてまた

児童福祉の関係者もそうです。歴史的に振り返って見ますと、お互いに責任のなすりあいをしてきたのではないのでしょうか。しかし現在では、誰もが責任を負っているという認識が共有されていると思います。その中で、学校は多くの関係者の橋渡しができる立場にあります。

英国では、学校はインターネット利用の推進力となってきました。というのも、インターネットは実際、教育的ツールであると認識されたからです。親のほうからは、学校に対して、子どもが不適切なコンテンツに接続しないよう学校が監視してくれるのかという質問がなされましたが、現在では、これは親自身が取り組まなければならない課題であることを認識しています。

もう一つ、私が指摘したいのは、親たちに対する啓蒙活動は、子どもに対するそれとは方法が違うということです。たとえば、英国の交通安全キャンペーンでは、大人たちの関心を惹き、車の速度を落とさせるために、事故死など悲劇性を強調したショッキングな伝え方をしています。しかしこの方法は、子どもたちへのアプローチには使えません。子どもたちを怯えさせてしまいます。英国では、子供向けの交通安全キャンペーンには、道の渡り方を教えてくれるウサギのキャラクターをよく使います。伝える相手によって、伝え方を使い分けなければいけません。

親はいろいろな経験、日常生活で必要とされるスキルを持っています。技術的な面ではリテラシーが足りないことがあるかもしれませんが、だからといって親がおそれてしまわないように、インターネットや技術に関してシンプルなやり方で親と接することが重要です。

赤堀

ありがとうございました。デイヴィス様のお話で、親の役割がたいへん重要だということがわかりました。

ここで、ポーリー様の息子さんのお話を伺いたと思います。どうぞ、子どもの立場から、あなたの考えをお聞かせください。

スティーブン・ポーリー

私の親はいつもそばにいてくれました。夕方の5時か6時には両親が帰って来てくれたおかげで、とても長い時間を親と過ごしてきています。その中で、いろいろなことを話し合いました。ですから、親との間のコミュニケーションに問題が生じたことはありません。しかし、日本の子どもにはそのような機会があまりないということを聞きました。親が子どもに話しかけてくれない、子どもが親に話しかけることができない、このような状況は改善されるべきだと思います。親たちは、なるべく早い時間に家に帰り、子供たちのために時間を作ることが必要だと思います。それが不可能なのであれば、せめて一緒にいられる時間は、最大限有意義に活用すべきでしょう。そしてその中で、何をすればよいのか、何をしてはいけないのか、そのほかいろいろなことが話し合えると思います。親が子どもを育てていく過程において、インターネットは大きな問題ではありません。何がよいことで何が悪いことを親から伝えていくためには、コミュニケーションが重要ではないかと考えます。

多くの問題が存在します。これを完全に根絶することは無理かもしれません。完璧な解決方

法を求めることは、現実的ではないかもしれませんが。しかし少なくとも、状況をより良くするために、そしてできるだけ弊害を抑えていくために、努力を継続していかなくてはいけないと思っています。

赤堀

ありがとうございました。やはり子どもの立場からの意見が聞けるというのはすごいことですね。耳の痛い話もありましたけれども。

フロアに、日本のお子さんはいらっしゃいますか。できましたら、若い方にぜひご発言をお願いいたします。

発言者

大学生です。私は高校生の頃からインターネットを使っていました。コンピュータが家に1台しかなかったものですから、親と共同で使っていたんですが、やっぱりどうしても、アダルトサイトも見ってしまうんですね。それを父親が見つekまして、何を見ているんだということになりました。それまで私は、父とはほとんど会話がなくて、もっぱら母とばかり会話をしていたのですが、このことをきっかけに父と会話ができるようになりました。その後は父も、自分もインターネットにつながりたいということで、私が技術的知識を教えたり、逆に父の知識を教わったりということで、コミュニケーションの形が変わってきました。

赤堀

君にとって、インターネットをきっかけに父親とコミュニケーションができるようになったというのは、結果として良かったわけですね。

発言者（同前）

そうですね。結果としては良かったと思います。そのときは気まずかったんですが（笑）。インターネットの否定的な面ばかりが議論されますが、逆にインターネットがきっかけで関係が改善することもあると思いますので、そのような面にも目を向けていただきたいと思います。

赤堀

わかりました。ありがとうございます。

質問者

メディアと子どもに関するジャーナリストをやっています。大学でも情報倫理を教えています。2年前まではITメーカーに勤務していました。これからお話することはインターネットではなくゲームについてですが、ある雑誌で企画したことをご紹介したいと思います。

母親の多くは、子どもにゲームを与えたくないと感じているのですが、この企画では、母親に一定期間毎日ゲームをやって日記を書いてもらいました。この日記を見ましたら、面白いこ

とが起っていました。たとえば、ゲームを毎日の日課としているものですから、親が子どもから、「ママ、きょうゲームやった？ 寝る前にやった？」ということを経日何度も何度も聞かれるんです。これにより母親は子どもと立場が逆転してしまっ、結果的に、自分も毎日子どもに対して「宿題やった？」と言っていることに気づいた、という事例がありました。また、ゲームをうまくできない母親が子どもにしかられたり、あるいは子どもがものすごくよく教えてくれたり、励ましてくれたりということがあって、子どもに対して見方がまったく変わったという意見もいただきました。

このような良い事例ばかりではなかったんですが、親が子どもに教える、という教育観をもって子どもに接していることが、子どもへの理解を妨げてしまうということが、とくにIT機器に関してはあるのではないかと思います。このときに協力して下さったお母さんから、子どもとコミュニケーションを図るきっかけになったというお話をいただきました。ですから、もう少し大人が、一歩進んだ視点から関わっていったほうがよいのではないかと思います。

赤堀

ありがとうございました。今のお話ですと、子どもに教われれば、親子のコミュニケーションができるし、あまりテクノロジーに詳しい親ですと、常に子どもに教えてばかりということになりますから、子どもも嫌になってしまうかもしれませんね。テクノロジーの知識も果たして多いほうがよいのかどうか、わかりませんね。たいへん面白いご意見をいただきました。

発言者

地域のパソコン初心者の方々を対象に、ボランティアでサポート活動をしている者です。私は、フィルタリングソフトなどの技術的な対応には限界があると思います。万能ではないんですね。にもかかわらず、これを使っている人たちは、技術にすっかり頼りきってしまい、それがすべてであるかのような錯覚に陥っている面があると思います。また、相談を受けていますと、何度も何度も同じ内容について質問されることがあるんです。なぜ同じ質問が何回も出てくるかと申しますと、たとえば架空請求であれば、1回目はそれが詐欺だということがわかるのですが、そのバリエーションが送られて来ると、とたんに不安になって、対応できなくなってしまうからなのです。ですから、技術的なものよりも、言ってみれば人間の脳内フィルターを鍛えるようなプログラムなり行動計画なりを、先生方やインターネット協会の方々にご提供いただければと考えていますが、この点について、お考えをお聞かせいただければと思います。

国分

インターネット協会が事務局を担当していますインターネットホットライン連絡協議会にも、今お話に出ていますような架空請求の相談などが来るんですが、電話で相談を受けると、論理的にお話しただけでないことが多く、しかも話が長くなります。そこで、できるだけメールで相談を受け付けて、相談内容を論理的に書いてもらうようにしています。相談者には、やはり不安を感じて相談したがっている様子が見受けられます。ですから、相談を受け付ける窓口は確かに必要なんですが、もう少し全体的なことを知ってもらうための啓蒙活動が必

要だと思えます。架空請求については警察も摘発をしていますが、相変わらずパリエーションが無数に出回っていて、ホットラインにもたくさんの相談が来て、われわれも困っています。不安を感じる前の段階での予備知識が基本的に欠如しているように私は思います。ですから、そのあたりをちゃんと勉強していただきたいなど、強く願っています。

赤堀

ありがとうございます。やはり教育が必要だということで、メディア・リテラシーという分野がありますね。もう一つ、あまりにも業者が人の弱みにつけ込むのであれば法的な処置をすべきだということで、ご存知のように、昨年（2003年）9月、出会い系サイト規制法が施行されまして、違反者には刑罰が科せられることになりました。つまり、外側からの法的な規制と、内側からの判断力を身に付けるためのメディア・リテラシー教育というものが注目されているということであります。この法的な処置、あるいはメディア・リテラシー教育等について、ご意見やご質問のある方はいらっしゃいますか。

発言者

私は、携帯電話の勝手サイトと言われる、公式サイトとは別のホームページを提供しているところのカスタマー・サポートをしている者です。パソコンからはたくさんのメディア・リテラシー情報を得ることができますが、携帯電話のサイトにはあまり情報がありませんし、検索もしにくい状況です。しかし、インターネットに接続する手段として携帯電話しか持っていない子どもたちはたくさんいます。この子たちは、メディア・リテラシーの情報に接する機会を持っていません。また、携帯電話のメールは文章が短いですから、問い合わせも困難です。ですから、携帯電話で見ることができるメディア・リテラシー情報の提供に取り組んでいただけないだろうかと思っています。

発言者

大学の教育学部で勉強しています。教育学部の中でも子どものコミュニケーション能力の低下が指摘されていますが、その原因として、子どもがバーチャル・リアリティの中に生きていて、大人と住む世界が違うような状況に陥ってしまっているためではないかということが指摘されています。やはり、現実世界でのコミュニケーションがきちんとできないと、インターネット上の倫理観も保てないのではないかと思います。たとえばいくら学校でフィルタリングソフトを使い、有害情報との接触を防いでも、家ではフィルタリングソフトの入っていないパソコンを使っているお子さんたちが多くいわけですから、完全には防げないわけです。そう考えますと、現実世界でのコミュニケーション能力を育てる教育を学校で行っていく必要があると思います。また、メディア・リテラシー教育は学校だけでは対応しきれませんから、ご両親や地域社会の方々も一体となって、教育の機会を作っていく必要があると思います。

赤堀

メディア・リテラシー教育の専門家の立場からのご発言もお願いしたいと思います。

発言者

メディア・リテラシーに取り組みたいと思っている教員も親御さんも多いと思うんですね。いろいろな事件が報道されて、不安感が高まっていますから、皆さん何とかしたいと思っています。そこでまず必要なのは、メディア・リテラシーに役立つ情報を一箇所に集めることだと思います。たとえば先ほどご紹介いただきましたように、インターネット協会のサイトにフィルタリングソフトがあるとか、そういった情報を一箇所に集める必要があると思います。

また、親の中にもデジタル・デバイドがあります。われわれ専門家の間でも、子どもがインターネットで失敗したという事例があります。ましてや一般の親御さんはもっと大変だと思います。ところが、そういった一般の親御さんに、役立つツールがあるんだということを伝えるシステムがありませんから、一般の親御さんは、子どもに対して怒るという手段しか取れません。これではコミュニケーションが成り立たないんです。

私は子どもが携帯電話を買ったときに、自分も持つようにしました。子どもには、「お父さんからのメールには必ず返事をするように」と言っています。携帯電話については、子どもに教わることも多いです。先ほどのご発言にもありましたが、メディア・リテラシーを伝えていくためには、インターネットを親子がコミュニケーションをとるチャンスだととらえて、実際にコミュニケーションを図ることが重要なのではないかと思います。

ただ、親の能力を超えるような危険なインターネットにはしてほしくありません。インターネットは道具としても安全なものであってほしいと思います。

赤堀

ありがとうございました。大変すばらしいご意見をいただきました。

さて、残り時間も少なくなってきました。これまで、いろいろな話題が出ました。親子のコミュニケーション、技術的なサポート、地域や学校ができること、メディア・リテラシーへの取り組み方など、また、どの国でも親がたいへん不安に思っているということもわかりました。

最後にパネリストの皆様一言ずつお話をいただきまして、終わりとさせていただきたいと思います。国分様から、よろしく願いいたします。

国分

本日はお忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございました。私どもは、これまで主に大人のメディア・リテラシーに対する取り組みをしてまいりましたが、子どものメディア・リテラシーについても大いに取り組んで参りたいと思っていますので、皆様方からご意見などいただけましたら幸いです。

藤田

親子のコミュニケーションが重要であるということを改めて認識致しました。ポーリー様の息子さんがおっしゃった、この問題はそのまま社会の縮図を表しているという一言が、とても印象に残っています。

クリスティーヌ

私はインターネットのような技術的なものの前に、アナログなコミュニケーションが大事だと思います。テクノロジーはコミュニケーションを高度にしてくれるものですが、原点は人の心、気持ちだと思います。また、先ほども申しましたが、子どもたちにとって一番大事なのは、セルフ・エスティームの教育だと思います。地域と学校と親が、どうやって子どもたちに自分が価値のある人間であるということを感じさせてあげるか、そのことは今後子どもたちがどのようにテクノロジーを利用するかに大きな影響を及ぼすと思います。

私たちは小さい頃から、人の話を立ち聞きするのは失礼だと教わってきました。ところが機械を使うと平気で盗聴する人がいます。これは機械を使うときにも同じ倫理観をもって、そういうことをしてはいけないという認識を持つか持たないかという問題だと思います。テクノロジーはこれからもっと進むと思いますが、普段の、人と人の生身の体が触れる生活のなかでやってはいけない行動は、テクノロジーを使ってもやってはいけないという認識を、子どもたちに教えていくことが重要ではないかと思っています。

デイヴィス

今日は日本の皆様の経験から、期待していた以上にいろいろなことを教えていただくことができました。とくに、国分理事の発表にあった携帯電話向けのフィルタリングシステム開発には敬意を表します。この分野では、日本はもっとも進んでいます。英国の企業はモバイルコンテンツに関する自主規制である行動規範を定めつつあり、これらの企業はみなフィルタリングを利用可能と断言しています。このような日本の取組みと英国の取組みを、チャイルドネットが橋渡しできればうれしく思います。インターネット協会は、非常に有意義な活動をしていると思います。年に1度か2度、今回のような場を提供していただきたいと思います。今回こうして皆様と議論したことが、1年後、2年後に成果を生むことを願っています。啓蒙活動がさらに進み、親が子どもに対する責任をより果たせるようになればと思います。

ポーリー

私たちは、親だけを責めてはいけないと思います。親が子どものために一生懸命になっても、コミュニケーションは双方向ですから、子どもが親の言うことに耳を傾けなければ、コミュニケーションは成立しません。ひとつわかったことがあります。それは、困難にぶつかったとき、それと戦うのではなく、困難そのものを問題解決のために利用できるのではないかということです。これを説明するのはむずかしいのですが、たとえば、先ほど、親から子供に対し、メールでメッセージを伝えるという話がありました。これはとてもよいアイデアだと思います。私も、同じことを考えていました。面と向かって言うことができなくても、メールであれば話ができるかもしれません。メールで話し合うというルールを作れば、大声を出したり、邪魔しあったりすることなく、コミュニケーションができるのです。

私の母は80歳ほどになりますが、だいぶ以前からインターネットを使っています。インターネットのおかげで、私と母との関係はとても豊かになりました。と申しますのも、私と母は、これまであまり手紙をやり取りする機会を持っていませんでした。また、忙しさのために、母

がしてくれる家族についての興味深い話をじっくり聞くことができずにいました。しかし今は、メールを通じて、母からいろいろな話を聞くことができるようになったのです。本日はお招きいただきまして、本当にありがとうございました。

赤堀

どうもありがとうございました。

今日は、親子のコミュニケーションや、私たちが取り組まなければいけない課題などについて、広く議論をすることができました。

国際基督教大学に村上陽一郎さんという、たいへん著名な科学史家の方がおりますけれども、以前彼の講演を聞いたときに、彼は、「ITとはドラッグだ」と言ったんですね。ドラッグというのは、麻薬です。私はびっくりしました。と同時に、本当に賛同しました。薬というのはいざというときに私たちの体を治してくれます。しかし、薬には必ず副作用があります。また、薬を飲み続ければ中毒になります。私自身のことを考えて見ますと、私は今、中毒ではないかと思っています。パソコンがなければ生きていけないし、インターネットがなければ生きていけない社会に、私たちは生きていくわけですから。ではどう考えたらいいのかというところで、いつも悩んでいるんですが、しかしやはり、この世界から逃れることはできないんですね。昔に戻ることはできないんです。そうすると、副作用はあるかもしれないけれど、この薬とうまく付き合う方法というものが現代人に求められているのではないのでしょうか。その方法として、メディア・リテラシー教育や、親子のコミュニケーションなどがあるんだと思います。ただ、幸か不幸か、テクノロジーの進歩のスピードが速すぎて、ここまでインターネットや携帯電話が普及するとは誰にも予想できませんでした。そのことが私たちの戸惑いを引き起こし、このフォーラムの開催にもつながっていると思います。しかし私たちは、バーチャルな環境やインターネットの世界との付き合いを放棄することはできません。インターネットと正しく付き合う能力がなければ、これから先の21世紀は生きていけないのだと思います。その点で、親子のコミュニケーションについてご議論いただいたことは、私もたいへん勉強になりました。また、テクノロジーも進むだろうと思いますから、インターネット協会の皆様には、さらにさらに研究を進めていただきたいと思います。私たちも、現代人が生きていくために求められるものは何かということを考えていかななくてはなりません。インターネットと付き合いを付き合うほど、そう感じます。

もっというならば、私の感覚では、リアリティそのものの境界がわからなくなっていると思います。ネット上でリアリティを感じる世代が増えているかもしれませんし、コミュニティの概念も変わりつつあるように感じます。それだけの危険性とメリットをあわせ持っているのが、現在の世界だと思います。そういう点で、私たちがこの世界をどうやって生きていくのか、子どもにどのように教育していくのかというのが、非常に重要なテーマだと思っています。

以上で、フォーラムを終わらせていただきます。

ありがとうございました。

テレビメディア/インターネットに 関する意識調査

Attitude Survey of TV media/Internet
保護者編: 中間集計結果
Response by parents: Intermediate Result

社団法人 日本PTA全国協議会
National Congress of Parents and Teachers association of Japan
監事 藤田 猛
Auditor, Takeshi Fujita

1

調査の概要 Overview

- ▶ 調査目的 Purpose
青少年の健全育成を目的に、テレビメディアやインターネットについての子ども視聴状況や利用実態、さらにPTA会員(保護者)の関与状況や問題意識などについてアンケート調査を行った。
This was a survey of children's use of TV media and the Internet, and PTA member's (parents') engagement and awareness level of that issue, for the purpose of sound upbringing of youth.
- ▶ 調査対象(12月12日時点での有効回収数)
Target Respondents (Effective answers as of Dec 12)
1) 小学5年生 2,422人 2,422 fifth grade students
2) 中学2年生 2,588人 2,588 eighth grade students
3) 上記 1) 2) の保護者であるPTA会員 4,812人
4,812 PTA members who are parents of 1) and 2)
※中間報告のデータは保護者の回答のみ。
Only parents' responses are counted in this intermediate result data.

2

調査の概要(続き) Overview (Continued)

- ▶ 調査期間 平成15年11月4日~12月12日
Period: November 4, 2003 ~ December 12, 2003
- ▶ 調査地域 全国
Target Area: All parts of Japan
- ▶ 調査対象者(校)の抽出方法
Selection Policy for Target Respondents
各都道府県、政令指定都市ごとに小学校、中学校を選定し、小学5年生、中学2年生の「ある1クラス」の全員とその保護者
All the students and parents in a certain class of fifth grade and eighth grade which was selected from each prefecture and also from each ordinance-designated city.

3

自宅パソコンのインターネット接続状況 Internet connectivity at home

	13年度 2001	14年度 2002	15年度 2003
▶ 接続されている Connected	57.9%	64.4%	77.1%
▶ 接続されていない・自宅にパソコンがない Not connected/No PC	41.6%	35.1%	21.8%
▶ 無回答 No answer	0.5%	0.4%	1.2%

4

インターネットの理解度 Understanding level of the Internet

	13年度 2001	14年度 2002	15年度 2003
▶ よく知っている Very well	12.4%	13.6%	14.8%
▶ だいたい知っている Fairly well	54.5%	59.3%	63.2%
▶ 聞いたことがある Heard of it	24.3%	18.7%	14.4%
▶ 知らない Do not know	7.8%	7.1%	5.2%
▶ 無回答 No answer	1.0%	1.3%	2.5%

5

子どものインターネットの知識の有無 Children's Internet Knowledge

	13年度 2001	14年度 2002	15年度 2003
▶ あなたよりよく知っている Know more than you	15.0%	28.4%	35.8%
▶ あなたと同じくらい知っている know as well as you	20.9%	20.5%	13.7%
▶ あなたより知らない know less than you	50.7%	34.5%	25.4%
▶ どのくらい知識があるのかわからない Do not know how much they know	12.6%	15.6%	22.3%
▶ 無回答 No answer	0.7%	1.0%	2.7%

6

子どものインターネット利用の状況
How the children use the Internet

	13年度 2001	14年度 2002	15年度 2003
▶ 生活に必要な情報を入手している 12.0% Get information necessary for daily life	26.1%	28.7%	
▶ 勉強のための情報を入手している 36.5% Get information for study	44.1%	51.3%	
▶ 趣味や娯楽のための情報を入手している 42.6% Get information for hobbies and entertainments	63.5%	62.7%	
▶ アダルト画像を見たりしている 0.8% See pornographic sites	0.8%	0.7%	0.7%
▶ 電子メールのやりとりをしている 22.0% Exchange e-mails	30.0%	31.3%	
▶ その他 2.0% Others	2.0%	2.3%	3.8%

7

アダルトサイト等が使えることの認知
Awareness of Internet connection to
pornographic sites

	13年度 2001	14年度 2002	15年度 2003
▶ 知っているし、見たことがある know and have seen	7.7%	7.8%	9.5%
▶ 知っているが、見たことはない Know but have never seen	70.1%	71.6%	73.0%
▶ 知らない Do not know	17.7%	16.4%	11.7%
▶ 無回答 No answer	4.5%	4.2%	5.7%

8

子どもの出会い系サイトの利用経験
(子どもがパソコンや携帯電話を使って、
出会い系サイトを利用したことがあると思うか)
Do you think your child has ever used dating sites
through PC or mobile phone?

	13年度 2001	14年度 2002	15年度 2003
▶ 思う Yes	0.9%	0.9%	0.4%
▶ 思わない No	86.7%	87.2%	91.1%
▶ わからない No idea	6.4%	5.6%	4.0%
▶ 無回答 No answer	6.0%	6.2%	4.6%

9

子どもがアダルト画像等を見ることについての良否
How you think of children browsing pornographic sites

	13年度 2001	14年度 2002	15年度 2003
▶ 構わない Do not think it is a problem	3.3%	3.1%	1.3%
▶ いけない Think it is a problem	80.1%	80.5%	82.7%
▶ 分からない・ どちらともいえない No idea/Cannot decide	13.7%	13.8%	13.2%
▶ 無回答 No Answer	2.9%	2.6%	2.8%

10

子どもが出会い系サイトを利用することの良否
How you think of children using dating sites

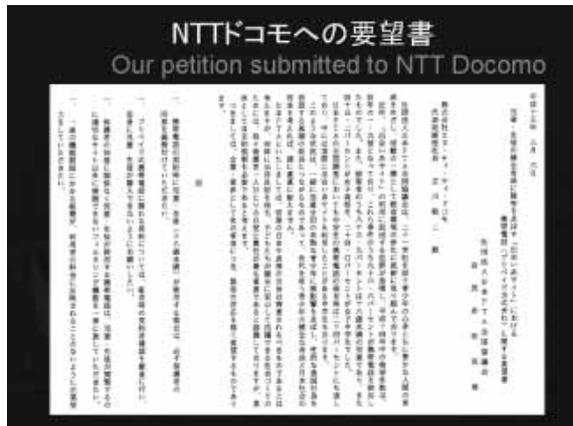
	13年度 2001	14年度 2002	15年度 2003
▶ 構わない・ 特に問題はない Do not think it is a problem	1.2%	0.9%	0.3%
▶ いけない Think it is a problem	87.0%	91.2%	93.0%
▶ 分からない・ どちらともいえない No idea/Cannot decide	8.6%	6.6%	3.8%
▶ 無回答 No answer	3.2%	1.3%	2.9%

11

フィルタリングソフトの認知
(「フィルタリングソフト」というものがあることを知っているか)
Awareness of filtering software

	13年度 2001	14年度 2002	15年度 2003
▶ 知っている Know about it	21.1%	22.0%	26.9%
▶ 知らない Do not know about it	75.6%	74.8%	70.1%
▶ 無回答 No answer	3.3%	3.2%	3.0%

12



マリ クリスティーン氏 講演資料(1)

AWC
アジアの女性と子どもネットワーク
 Asian Women & Children's Network

代表: マリ クリスティーン
 Representative: Mari Christine



- 団体の種類: 非営利国際協力団体 (任意団体 NGO)
 Organization: Non-profit, International Cooperation Association (Voluntary Association NGO)

1

- 設立年月: 1996年5月
 Established: May 1996
- 活動対象国: タイ(山岳民族の女性と子どもたち)
 Area of Operation: Thailand (Women and children in mountain tribes)

連絡先:
 〒231-0015
 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F YAAIC内
 TEL&FAX: 045-650-5430(13:00~17:00)
 Email: awc@h6.dion.ne.jp

Contact of:
 Onoe-cho bldg. 9F, 3-39, Onoe-cho, Naka-ku, Yokohama, Kanagawa, 231-0015, JAPAN
 TEL&FAX: +81-45-650-5430 (13:00~17:00)
 Email: awc@h6.dion.ne.jp

2

AWC アジアの女性と子どもネットワーク ホームページ
 AWC Asian Women and Children's Network HP
 (URL: <http://www.awcnetwork.org/>)



3

AWC活動概要 (AWC's Activities-Overview)

- 《海外活動》 Overseas Activities
 - アジアの女性と子どもたちのいのちと権利を守る運動
 Protecting lives and human rights of Asian women and children
 - 教育援助活動(学校建設プロジェクト等)
 Support for providing learning opportunities to children (School construction project etc)
 - 障害をもった子どもたちが教育を受けられるように支援
 Support for providing learning opportunities to disabled children
 - 子どもたちへの「商業的性的搾取、虐待」に反対する運動
 Campaigning against commercial sexual exploitation and abuse of children
 - タイ北部山岳民族を対象にHIV感染の予防啓発教育
 HIV infection prevention education for mountain tribes in northern Thailand
- 《国内活動》 Domestic Activities
 - アジアの子どもたちへの「商業的性的搾取、虐待」に反対する運動
 Campaign against commercial sexual exploitation and abuse of Asian children

4

学校建設プロジェクト
School construction project

- 教育支援活動の一環として、元々ある学校の校舎や寮の建設に協力し、子どもたちの学びの環境を整えるお手伝いをしています。1996年から現在までに6校の学校を建設し、約2500人の子どもたちが学んでいます。
 As part of educational support activities, AWC provides support to create an educational environment for children by cooperating to renovate school buildings and dormitories. 6 schools have been built through this activity since 1996, in which approximately 2,500 children are learning.



5

これまでに建設した学校
 Schools we built so far

タイ北部 パンメーランカムスクール
 Northern Thailand
 Paan Mae Laan Kam School





6

マリ クリスティーン氏 講演資料(2)

子どもの商業的性的搾取の根絶にむけての活動
Activities to eradicate commercial sexual exploitation of children

- AWCでは、子どもの商業的性的搾取の根絶を目指して、日本国内で法律の制定、改善を呼びかけるロビー活動や、ワークショップ、シンポジウムの開催等を行っています。
- Lobbying activities, workshop and symposium aiming to establish and revise domestic laws to eradicate commercial sexual exploitation of children.



7

子どもの商業的性的搾取の根絶にむけての活動
Activities to eradicate commercial sexual exploitation of children.

- 2001年12月に横浜で開催された「第2回子どもどもの商業的性的搾取に反対する世界会議」では、日本における子どもの商業的性的搾取の一形態として、援助交際についての発表をしました。
Held a workshop on "compensated dating", one aspect of commercial sexual exploitation of children in Japan as a part of program in "Second World Congress against the Commercial Sexual Exploitation of Children" held in Dec, 2001.



8

インターネットにおける子どもの保護のためには、
 両親の情報リテラシーが必要
 Literacy of parents is required for child protection
 from danger on the Internet



1



2

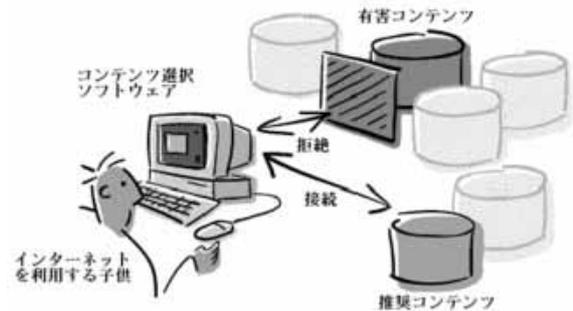


新学習指導要領準拠「これでわかる社会5年」
 Understanding social studies for the 5th
 grade of elementary schools



3

有害コンテンツ遮断ソフトウェアの利用
 Use of filtering software for harmful content



4

SFSブラウザのご紹介
 Introduction to the SFS browser.

ダウンロード
<http://f.jp.susanaka.S141404.html>

子どもに適したレベルのSFSブラウザ (「アップ」) 子どもが安全にインターネットを利用できるようにダウンロードします。

インターネットの情報を見ることはできるよんになった毎毎交換機札で、資料にはさらさらしくBis(情報)が飛んでいってしまうことがありません。

SFSブラウザは、モバイルSFSを介し、子どもにとっての有害情報をフィルタリングします。

SFSブラウザは携帯電話で利用可能な機能のデモンストレーションです。

モバイルSFS

5

インデックス画面
 Index Page



ブロックされた画面
 Blocked Page



6

「子どもとインターネット」フォーラム 参加者アンケート集計結果（回答総数：85）

フォーラムにご参加いただいた皆様を対象に、9項目（選択式8項目と自由記述1項目）からなるアンケートを実施し、85件の回答をいただきました。選択項目への回答の集計結果と、自由記述欄への主な回答内容は以下のとおりです。

性別	回答数	比率
男	58	68.2%
女	27	31.8%
無回答	0	0.0%

年齢	回答数	比率
10代以下	0	0.0%
20代	11	12.9%
30代	13	15.3%
40代	34	40.0%
50代以上	27	31.8%
無回答	0	0.0%

職業	回答数	比率
学校/教育関係者	11	12.9%
官公庁/協会/団体*	16	18.8%
会社員（インターネット関係）	15	17.6%
会社員（一般）*	15	17.6%
自由業	4	4.7%
主婦	12	14.1%
学生	4	4.7%
マスコミ	1	1.2%
その他*	6	7.1%
無回答	1	1.2%

インターネット利用歴	回答数	比率
5年以上	63	74.1%
3年以上	16	18.8%
1年以上	3	3.5%
1年未満	1	1.2%
利用していない	1	1.2%
無回答	1	1.2%

*「その他」の内訳：PTA1名、メディア研究1名、Retire1名、無回答3名

*「官公庁/協会/団体」と「会社員（一般）」に「主婦」との複数回答者が各1名

最も関心のあったプログラム （複数回答あり）	回答数	比率
米国事例発表	27	31.8%
英国事例発表	17	20.0%
パネルディスカッション	42	49.4%
無回答	13	15.3%

内容の評価：米国事例発表	回答数	比率
参考になった	65	76.5%
ふつう	17	20.0%
難しかった	0	0.0%
無回答	3	3.5%

内容の評価：英国事例発表	回答数	比率
参考になった	60	70.6%
ふつう	20	23.5%
難しかった	2	2.4%
無回答	3	3.5%

内容の評価： パネルディスカッション	回答数	比率
参考になった	59	69.4%
ふつう	12	14.1%
難しかった	0	0.0%
無回答	14	16.5%

参加者アンケート

自由記述欄への主な回答

◆フォーラムの感想

- ・子どもたちがプロ並みのサイトを構築していることに驚いた。
- ・親子のコミュニケーションとテクノロジーの両方の大切さを感じた。
- ・大変勉強になりました。やはりベースにはつねに人の心があるということを忘れてはならないように思いました。

◆インターネット協会への要望

- ・インターネットのリスクの部分テーマにした作品（映画、ドラマ等）の制作。
- ・情報リテラシー教育の推進を図ってほしい。
- ・フィルタリングソフトの普及。
- ・インターネットの活用や安全な利用について、小、中学、高校教員の交流の場（MLやセミナー、フォーラムイベント等）を設けてほしい。教育現場と斯界の有識者との交流、コラボレーションにより、今後のより良いインターネット社会の発展の方法や具体的実践が進むと考えられる。
- ・フォーラムに関して、もっと宣伝していただきたいです。
- ・安全機能搭載型携帯電話の商品化への働きかけ。

◆今後開催してほしいフォーラムのテーマ

- ・同様の取り組みをしているNPOとの話し合い、情報交換。
- ・同テーマで、もう少し的をしばって掘り下げた議論を聞きたい。
- ・日本の学校におけるインターネットの利用状況、家庭における状況など、PTA・学校の事例を知りたい。今後教育に欠かせないものとなりつつあるが、リアルな学習との住み分けなど。子供たちに両者の良い所を活用する方法を教える手がかりを得たい。
- ・学校教育と、家庭教育とメディアリテラシー教育の海外の現状と課題。
- ・具体的対応策の提示・展示会等の併催。
- ・同テーマで「現場の教師」「保護者」「地域住民（NGOやNPO、ボランティア）などの分類分野別で出席者を分け、フロアを含めて討論するようなフォーラム。
- ・フィルタリングや、メディアリテラシーだけに限定したフォーラム。
- ・テーマをより細かく絞り、数多く機会を作り、定例化してほしい。

「子どもとインターネット」フォーラム

～子どもが楽しく安心して利用できるインターネットの構築を目指して～

報 告 書

平成 16(2004)年 2 月

発 行 : 財団法人 インターネット協会
〒 105-0004 東京都港区新橋 3-4-5
新橋フロンティアビルディング 6F
TEL : 03-3500-3351
FAX : 03-3500-3354
URL : <http://www.iajapan.org/>
E-mail : info@iajapan.org

